

文 学 部

履 修 要 項

平 成 6 年 度

駒澤大學

学 年 暦

前 期

- | | |
|---|---|
| <p>4月8日(金) 入学式</p> <p>9日(土) 新生オリエンテーション</p> <p>12日(火) 在校生身分証明登録</p> <p>9日(土) 在校生成績発表</p> <p>15日(金) 体育実技Ⅱ受講届(種目選択届)</p> <p>11日(月) 受付(学部2年次生)</p> <p>12日(火) 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)</p> <p>13日(水) 在校生成績質疑応答</p> <p>19日(火) 前期授業開始</p> <p>13日(水) 春季健康診断(卒業年次生対象)</p> <p>18日(月) 履修届受付(土曜日は除く)
(学部により受付日が異なる)</p> <p>22日(金) 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
4年次生)(締切日は正午まで)</p> <p>25日(月) 中間試験及び前期終了科目定期試験
(授業平常どおり)</p> <p>5月25日(水) 前期授業最終日</p> <p>6月10日(金) 夏季休業第1日(9月15日まで)</p> <p>7月14日(木) 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)</p> <p>20日(水) 前期終了科目定期試験欠試験(追試験
申込)受付締切</p> <p>21日(木) 補講期間</p> <p>25日(月) 9月5日(月) 補講期間</p> <p>9日(金)</p> | <p>27日(火) 専攻コース指定届受付
(歴史・社会学科の1年次生)</p> <p>28日(水) 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)</p> <p>26日(月) 10月1日(土) 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)</p> <p>3日(月) 6日(木) 第112回開校記念日(全学休業)</p> <p>15日(土) 24日(月) 編入学願書受付</p> <p>28日(金) 27日(木) 転部・転科試験願書受付</p> <p>29日(土) 11月19日(土) 転部・転科試験</p> <p>12月1日(木) 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)</p> <p>12日(月) 編入学試験</p> <p>4日(日) 冬季休業第1日(1月7日まで)</p> <p>21日(水) 21日(水) 体育実技Ⅱ集中授業コース
(学部2年次生)</p> <p>25日(日)</p> |
|---|---|

平成7年

- | | |
|---|---|
| <p>1月9日(月) 後期授業再開</p> <p>14日(土) 後期授業最終日</p> <p>17日(火) 定期試験(専門・基礎・教職科目)</p> <p>26日(木) 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)</p> <p>27日(金) 定期試験欠試験受付締切</p> <p>2月3日(金) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)</p> <p>6日(月) 成績発表(質疑応答)および再試験申
込受付(学部4年次生・短大生)</p> <p>7日(火) 体育実技Ⅱシーズン・コース(ス
キー)(学部2年次生)</p> <p>17日(金) 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)</p> <p>18日(土) 卒業生名簿発表</p> <p>20日(月) 卒業式</p> <p>20日(月) 25日(土)</p> | <p>平成7年</p> <p>1月9日(月) 後期授業再開</p> <p>14日(土) 後期授業最終日</p> <p>17日(火) 定期試験(専門・基礎・教職科目)</p> <p>26日(木) 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)</p> <p>27日(金) 定期試験欠試験受付締切</p> <p>2月3日(金) 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)</p> <p>6日(月) 成績発表(質疑応答)および再試験申
込受付(学部4年次生・短大生)</p> <p>7日(火) 体育実技Ⅱシーズン・コース(ス
キー)(学部2年次生)</p> <p>17日(金) 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)</p> <p>18日(土) 卒業生名簿発表</p> <p>20日(月) 卒業式</p> <p>20日(月) 25日(土)</p> |
|---|---|

後 期

- 9月16日(金) 後期授業開始
- 16日(金) 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)および再試験申込受付
- 19日(月) 外国語指定届受付(仏教・文<除英文
>・法学部・短大英文・英文の1年
次生および昭和63年度以前入学の経
済学部の2年次生)
- 26日(月)
- 30日(金)

授 業 時 間

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第2時限
時 間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 卒業論文 (7)
3. 卒業及び学位記の授与 (7)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (8)
2. 外国語科目の履修方法 (10)
3. 保健体育科目の履修方法 (13)
4. 基礎教育科目の履修方法 (13)
5. 専門教育科目の履修方法 (14)
6. 他学部科目の履修方法 (32)
7. 随意科目の履修方法 (34)
8. 再履修科目の履修方法 (34)
- ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (35)
- ※ 授業科目のコード番号について (36)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (37)
2. 履修届記入上の注意 (38)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (39)
4. 授業時間 (40)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (41)
2. 中間試験 (41)
3. 追・再試験 (41)
4. 受験心得 (42)
5. 成績評価・単位認定 (42)

6. 試験時間	(42)
7. 成績発表	(43)
VI 進級について	(44)
VII クラス制およびクラス主任	(45)
VIII 教職課程・資格講座	(45)
IX 事務取扱いについて	
1. 事務室の事務受付時間	(46)
2. 休 講	(46)
3. 掲示・連絡	(46)
4. 問い合わせ	(46)
X 学籍について	
1. 修業年限と在学年数	(47)
2. 休 学	(47)
3. 復 学	(47)
4. 退 学	(48)
5. 除 籍	(48)
6. 懲 戒	(48)
7. 編入学	(48)
8. 再入学	(48)
9. 転部・転科	(48)
10. 留 学	(49)
11. 学生氏名・保証人	(49)
12. 学生番号	(49)
XI 既修得単位の認定について	(50)
XII 届書・願書について	(51)
XIII 各種証明書取扱い窓口	(52)
試験実施規程（抜粋）	(53)
講義内容	(55)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して大学設置基準を基に学則において定めている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

- | | | |
|-----------|--------------------------|-----------|
| 1. 一般教育科目 | (人文分野・社会分野・自然分野) …………… | 選択必修科目 |
| 2. 外国語科目 | (第1外国語・第2外国語) …………… | 選択必修科目 |
| 3. 保健体育科目 | (講義・実技) …………… | 必修科目 |
| 4. 基礎教育科目 | (専門教育科目の基礎となる科目) …………… | 必修科目 |
| 5. 専門教育科目 | (専門的知識を内容とする科目) …………… | 必修科目・選択科目 |
| 6. 他学部科目 | (履修可能な他学部公開設置科目) …………… | 選択科目 |
| 7. 随意科目 | (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… | 選択科目 |

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 平成3年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 132以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	16	
	第2外国語	3	6		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 平成2年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育	科目	2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

〔日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

〔考古学専攻〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	1	4	4	
専門教育科目	必修	10	38	72	
	選択		26		
	卒業論文(必修)		8		

社会学科
〔社会学コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	13	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔心理学コース〕

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教	育科目	3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

2. 卒業論文

卒業論文は、あらかじめ自己の研究目標に基づき、2年次以降その研究目標に関連する科目を履修し、4年次で提出しなければならない。

提出された卒業論文（1部）は審査の上、合格者には8単位を認定する。

イ. 論題提出について

- (1) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (2) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月25日（水）～6月10日（金）正午まで（教務部⑥番窓口）

ロ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 論文は所定用紙（大学売店にて販売）を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ハ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 卒業論文審査願と論文表紙の論題は同一であること。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月1日（木）～12日（月）正午まで（教務部⑥番・臨時窓口）

〔提出期限に遅れたとき、または授業料その他の学費を納入していない場合は受理しない。〕

ニ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査・口頭試問を行い合否を判定する。

口頭試問日 2月7日（火）

3. 卒業及び学位記の授与

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書・学位記が授与され、次の学士の学位が与えられる。

	国文学科	……	学 士（国文学）
	英米文学科	……	学 士（英米文学）
文学部	地理学科	……	学 士（地理学）
	歴史学科	……	学 士（歴史学）
	社会学科	……	学 士（社会学）

Ⅲ 授業科目の履修方法

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が示されている科目は、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科とも「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 各学科とも2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科	16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※()内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

分野 学科	人文分野			社会分野			自然分野			
	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	備考	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 { 日本国憲法 (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
	芸術学(音楽)	4								
英米文学科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 { 日本国憲法 (2単位を含む)	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			心 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4		地 理 学	4					
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
	芸術学(音楽)	4								
地理学科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 { 日本国憲法 (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	数 学	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			物 理 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			化 学	4	
	文 学	4		文 化 人 類 学	4			生 物 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
	芸術学(音楽)	4								
歴史学科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて4科 目16単位 選択必修	法 学 憲 法 { 日本国憲法 (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		経 済 学	4			地 学	4	
	哲 論 学	4		社 会 学	4			心 理 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
	芸術学(音楽)	4								
社会学科	宗 教 学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I」・ 「宗教学 II」を含 めて3科 目12単位 選択必修	法 学 憲 法 { 日本国憲法 (2単位を含む)	4	3 科 目 12 単 位 選 択 必 修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2 科 目 8 単 位 選 択 必 修
	宗 教 学 II (2年次必修)	4		政 治 学	4			生 物 学	4	
	論 理 学	4		経 済 学	4			地 学	4	
	文 学	4		地 理 学	4			人 類 学	4	
	歴 史 学	4								
	芸術学(日本美術)	4								
	芸術学(西洋美術)	4								
芸術学(音楽)	4									

※「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6か国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した英語以外の外国語の2か国語を履修することになる。その2か国語を、1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
3年次	—	—	1(1)	2(2)	—	—	—	—	—	—
計	4	8	5(5)	10(10)	4	8	4	8	4	8

第2外国語

学科 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2(2)	4(4)	2	4	2	4	2	4
2年次	—	—	1(-)	2(-)	—	—	—	—	—	—

※ () 内数字は、英米文学科平成2年度以前入学生適用

1年次の履修

6か国語のうち英語 I A・I Bの2科目と、入学手続の際に指定した英語以外の外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語LL I (定員30名)」に振り替えることができる。(ただし英米文学科は「英会話 I」に振り替えできない。)なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 I B	2		
英会話 I	2		
英語LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 I A	2	文 法	5か国語のうちから入学手続の際指定した1か国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイツ語 I B	2	講 読	
フランス語 I A	2	文 法	
フランス語 I B	2	講 読	
中国語 I A	2		
中国語 I B	2		
スペイン語 I A	2		
スペイン語 I B	2		
ロシア語 I A	2		
ロシア語 I B	2		

※ 英語科目内容

英語 I A：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 I B：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語 I B」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修した2か国語のうち、いずれかを第1外国語としてⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とする。ただし、英米文学科は英語を第1外国語とする。また、英米文学科（平成3年度以降入学生）は、1年次履修の英語以外の外国語を第2外国語としⅡAの1科目2単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 Ⅲ	2	講 読	1 科 目 必 修

※「英語Ⅲ」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし、所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号により該当するクラスで履修すること。

ロ. 1年次の9月26日（月）～30日（金）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1か国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。（ただし、英米文学科は『英語』のため登録の必要はない。）なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、登録は必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.34参照）。

ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は月曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰ（再履修クラス含む）の種目等の説明は、最初の授業に『体育実技受講要領』を配布して行うので、必ず出席すること。なお、当日の服装は、普段着でよい。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

基礎教育科目とは専門教育の基礎となる授業科目で、各年次別履修順序は次表のとおりである。

学科 年次	国 文 学 科		英 米 文 学 科		地 理 学 科		歴 史 学 科		社 会 学 科	
	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語ⅠA	2	基礎人文地理学	4			社会福祉原論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語ⅠB (会 話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語ⅡA	2						
			基礎英語ⅡB (会 話)	2						

(注意) 「社会福祉原論」は「社会福祉概論」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国文学科	英米文学科	地理学科	歴史学科		社会学科		
				日本史 東洋史 西洋史	考古学	社会学	社会福祉	心理学
必修科目	36(12)	28(7)	16(6)	32(8)	38(10)	48(12)	48(13)	28(8)
選択科目	28	36	48	32	26	16	16	36
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72

※ () 内の数字は科目数

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国 文 学 講 読 I	2		国 文 学 研 究	4	
2 年 次 必 修			国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修 3 年 次 で 必 修 ま た は 選 択 と し て 履 修 し た 科 目 以 外 を 履 修 す る こ と。
国 語 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
国 文 学 概 論	4		国 文 学 史 (中 世)	4	
国 文 学 講 読 II	2		国 文 学 史 (近 世)	4	
中 国 文 学 講 読	2		国 文 学 史 (近 代)	4	
3 年 次 必 修			国 語 学 演 習 II	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。
国 文 学 史 (上 代)	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	国 文 学 演 習 II (上 代)	2	
国 文 学 史 (中 古)	4		国 文 学 演 習 II (中 古)	2	
国 文 学 史 (中 世)	4		国 文 学 演 習 II (中 世)	2	
国 文 学 史 (近 世)	4		国 文 学 演 習 II (近 世)	2	
国 文 学 史 (近 代)	4		国 文 学 演 習 II (近 代)	2	
国 語 学 研 究	4		卒 業 論 文	8	7 頁 参 照
国 文 学 講 読 III	2				
国 語 学 演 習 I	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 原 則 と し て 卒 業 論 文 に 関 連 の 有 る 分 野 の 演 習 を 履 修 す る こ と。			
国 文 学 演 習 I (上 代)	2				
国 文 学 演 習 I (中 古)	2				
国 文 学 演 習 I (中 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 世)	2				
国 文 学 演 習 I (近 代)	2				

(注意) 原則として、3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は4年次は「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次は「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

選 択 科 目 (28単位以上) (2年次以降の履修科目)

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
A 群	上 代 文 学	4		国 文 学 特 講 II	4	
	中 古 文 学	4		国 文 学 特 講 III	4	
	中 世 文 学	4		国 文 学 特 講 IV	4	休 講
	近 世 文 学	4		国 文 学 史 (上 代)	4	選 択 科 目 として 履 修 を 希 望 す る 者 は 必 修 と し た 科 目 以 外 を 3 年 次 ま た は 4 年 次 で 履 修 す る こ と。
	近 代 文 学	4		国 文 学 史 (中 古)	4	
	国 語 史	4	休 講 } 隔 年 開 講	国 文 学 史 (中 世)	4	
	国 語 学 史	4		国 文 学 史 (近 世)	4	
	文 学 概 論	4	休 講	国 文 学 史 (近 代)	4	
	言 語 学 概 論	4		上 代 文 学 講 読	2	2 年 次 生 の み 履 修 す る こ と。
	有 職 故 実	4		近 代 文 学 講 読	2	
	国 文 学 特 講 I	4				

	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
B 群	中 国 文 学	4		日 本 民 俗 学	4	
	中 国 文 学 演 習	4		現 代 美 術	4	
	中 国 文 学 概 論	4		書 道 実 習 I	4	
	東 洋 思 想 研 究	4		書 道 実 習 II	4	
	英 米 文 化	4		書 道 概 論 (書 論 ・ 鑑 賞)	4	
	仏 教 概 論	4		美 術 史 概 説	4	
	日 本 史 概 説 I	4	古 代 ・ 中 世	書 道 実 習 III	2	
	日 本 史 概 説 II	4	近 世 ・ 近 代	書 道 史	2	半 期 科 目
	日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	編 集 実 務	2	半 期 科 目
	日 本 文 化 史 II	4				

(注意) 「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、時代・履修順序等との関係はない。

「A群」より5科目以上、「B群」より2科目以上選び履修されたい。

[廃講科目]

美 術 史

英米文学科

必修科目

A. 平成2年度以降入学生適用 (36単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 音 声 学	4		米 文 学 演 習 II	4	
2 年 次 必 修			米 文 学 演 習 III	4	
英 語 学 概 論	4		英米語学演習 (言語学)	4	
英 作 文 I	4		英米語学演習 (音声学)	4	
3 年 次 必 修			英米語学演習 (英語史)	4	
英 語 史	4	1科目4単位選択必修 (1科目のみ履修すること)	4 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 I	4		卒 業 論 文	8	7頁参照
英 文 学 演 習 III	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
英 文 学 演 習 V	4		英 文 学 史 I	4	2 年次1科目 3 年次1科目 計2科目8単位選択必修 (各年次1科目のみ履修すること)
英 文 学 演 習 VI	4		英 文 学 史 II	4	
英 文 学 演 習 VII	4		米 文 学 史	4	
米 文 学 演 習 I	4				

B. 平成元年度以前入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
英 語 学 概 論	4		卒 業 論 文	8	7頁参照
英 作 文 I	4		2 年 次 ・ 3 年 次 必 修		
3 年 次 必 修			英 文 学 史 I	4	2 年次1科目 3 年次1科目 計2科目8単位選択必修 (各年次1科目のみ履修すること)
音 声 学	4		英 文 学 史 II	4	
英 語 史	4		米 文 学 史	4	
シ ョ イ ク ス ピ ア	4				

選 択 科 目 (36単位以上)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 文 学 特 講 I	4	2・3・4		米 文 学 演 習 VI	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 II	4	2・3・4		英 米 演 劇 演 習	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 III	4	2・3・4		時 事 英 語	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 IV	4	2・3・4		商 業 英 語	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 V	4	2・3・4		ラ テ ン 語 特 講	4	2・3・4	
英 文 学 特 講 VI	4	2・3・4		英 米 文 化	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 I	4	2・3・4		日 本 文 化 史 I	4	2・3・4	休講 } 隔年開講
米 文 学 特 講 II	4	2・3・4		日 本 文 化 史 II	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 III	4	2・3・4		現 代 美 術	4	2・3・4	
米 文 学 特 講 IV	4	2・3・4		英 文 学 演 習 I	4	3・4	
米 文 学 特 講 V	4	2・3・4		英 文 学 演 習 III	4	3・4	
英 米 演 劇 特 講	4	2・3・4		英 文 学 演 習 V	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (英文法)	4	3・4		英 文 学 演 習 VI	4	3・4	
英 米 語 学 演 習 (英作文Ⅱ)	4	3・4		英 文 学 演 習 VII	4	3・4	※イ, ロ
英 米 語 学 演 習 (英会話)	2	3・4		米 文 学 演 習 I	4	3・4	
英 文 学 演 習 II	4	2・3・4		米 文 学 演 習 II	4	3・4	
英 文 学 演 習 IV	4	2・3・4		米 文 学 演 習 III	4	3・4	
英 文 学 演 習 VI	4	2・3・4		英 米 語 学 演 習 (言語学)	4	3・4	旧「英米語学演習(英語学)」
米 文 学 演 習 IV	4	2・3・4		英 米 語 学 演 習 (音声学)	4	3・4	
米 文 学 演 習 V	4	2・3・4		英 米 語 学 演 習 (英語史)	4	3・4	

※イ. 平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

※ロ. 平成元年度以前入学生は、3年次または4年次に選択科目として履修できる。

◇ 演習科目の履修方法

I) 履修科目数

- イ. 2・3・4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。
- ロ. 2年次で履修できる演習科目は1科目とする。
- ハ. 3年次で履修できる演習科目は3科目以内とする。
 ※ 平成2年度以降入学生は、1科目必修のこと。
- ニ. 4年次で履修できる演習科目は2科目以内とする。
 ※ 平成2年度以降入学生は、3年次必修科目として単位取得した科目を4年次でも選択科目として再度履修できる。

II) 履修上の注意

- イ. 各種演習科目とも先着50名で締め切る。なお、教務部に『履修届』を提出する前に、受講希望の科目担当の先生に本人が直接届け出て『履修届』に捺印を受けること。
- ロ. 担当の先生に届け出る日・時・場所については、教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地 理 学 科

必 修 科 目 (24単位)

2 年 次 必 修		3 年 次 必 修		4 年 次 必 修	
授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (7頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

(注意) 「地理学演習」および「野外巡検Ⅰ」・「野外巡検Ⅱ」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部の掲示板あるいは地理学教室の掲示板（体-8前）に掲示するので注意すること。

選 択 科 目 (48単位以上)

2 ・ 3 ・ 4 年 次 選 択			3 ・ 4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
地 形 学 I	4		地 質 学	4	
集 落 地 理 学	4		地 球 物 理 学	4	
郷 土 地 理 学	4		地 形 学 II	4	
経 済 地 理 学 I	4		土 壌 地 理 学	4	
交 通 地 理 学	4		環 境 地 理 学	4	
都 市 地 理 学	4		歴 史 地 理 学	4	
地 図 学	4		人 口 地 理 学	4	
日 本 地 誌 I	4		経 済 地 理 学 II	4	
日 本 地 誌 II	4		地 理 学 特 講 I	2	半期科目
外 国 地 誌 I	4		文 化 地 理 学	4	
外 国 地 誌 II	4		計 量 地 理 学	4	
気 候 学	4		空 中 写 真 判 読 法 及 び 測 量 学	4	
海 洋 学 及 び 陸 水 学	4		日 本 地 誌 III	4	
原 書 講 読	4		外 国 地 誌 III	4	
			応 用 地 理 学 I	4	
			応 用 地 理 学 II	4	

◎ 測量士補資格について

地理学科の学生で、「地図学」・「空中写真判読法及び測量学」・「自然地理学実習」・「地理学演習」の単位を修得し、さらに「地形学Ⅰ」・「地形学Ⅱ」・「地質学」・「地球物理学」・「応用地理学Ⅰ」・「応用地理学Ⅱ」のうち2科目の単位を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1か年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科

歴史学科学生が希望する各専攻については、1年次の9月27日（火）～28日（水）に、「歴史学科専攻指定届」を教務部に提出すること。

必修科目

(1) 日本史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替わる。
日本史学史	4		4年次必修		
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(日本史)	4	
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	7頁参照
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(2) 東洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)に振り替わる。
東洋史学史	4		4年次必修		
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(東洋史)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	7頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修			
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(3) 西洋史専攻 (40単位)

2・3・4年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		演習Ⅰ(西洋史)	4	
西洋史学史	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(西洋史)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4	2科目8単位 選択必修	卒業論文	8	7頁参照
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4				
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4				
考古学概説Ⅰ(日本)	4				
考古学概説Ⅱ(外国)	4				

(4) 考古学専攻 (46単位)

2・3・4年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
史学概論	4		考古学実習(写真)	4	1科目4単位 選択必修
考古学史	4		考古学実習(測量)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		考古学実習(石器)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		考古学実習(土器)	4	
日本史概説Ⅰ(古代・中世)	4	2科目8単位 選択必修	3年次必修		
日本史概説Ⅱ(近世・近代)	4		考古発掘実習	2	
東洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅰ(考古学)	4	他の専攻の演習Ⅰを振り替える。
東洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		4年次必修		
西洋史概説Ⅰ(古代・中世)	4		演習Ⅱ(考古学)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世・近代)	4		卒業論文	8	7頁参照

選 択 科 目（2年次以降の履修科目）

日本史専攻・東洋史専攻・西洋史専攻（32単位以上）

考古学専攻（26単位以上）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 史 各 説 I	4	休 講	東 洋 史 特 講 I（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 II	4		東 洋 史 特 講 II（古 代）	4	休 講
日 本 史 各 説 III	4		東 洋 史 特 講 III（古 代）	4	
日 本 史 各 説 IV	4		東 洋 史 特 講 IV（中 世）	4	休 講
東 洋 史 各 説 I（古 代）	4		東 洋 史 特 講 V（中 世）	4	休 講
東 洋 史 各 説 II（古 代）	4	休 講	東 洋 史 特 講 VI（中 世）	4	
東 洋 史 各 説 III（中 世）	4		東 洋 史 特 講 VII（近 世）	4	休 講
東 洋 史 各 説 IV（中 世）	4	休 講	東 洋 史 特 講 VIII（近 世）	4	休 講
東 洋 史 各 説 V（近 世）	4	休 講	東 洋 史 特 講 IX（近 世）	4	
東 洋 史 各 説 VI（近 世）	4		東 洋 史 特 講 X（近・現代）	4	
東 洋 史 各 説 VII（近・現代）	4	休 講	東 洋 史 特 講 XI（近・現代）	4	休 講
東 洋 史 各 説 VIII（周 辺 史）	4		東 洋 史 特 講 XII（近・現代）	4	
東 洋 史 各 説 IX（周 辺 史）	4		東 洋 史 特 講 XIII（周 辺 史）	4	
東 洋 史 各 説 X（周 辺 史）	4		東 洋 史 特 講 XIV（周 辺 史）	4	
西 洋 史 各 説 I	4	休 講	東 洋 史 特 講 XV（周 辺 史）	4	休 講
西 洋 史 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 I	4	
西 洋 史 各 説 III	4	休 講	西 洋 史 特 講 II	4	} 隔年開講
西 洋 史 各 説 IV	4		西 洋 史 特 講 III	4	
考 古 学 各 説 I	4		西 洋 史 特 講 IV	4	休 講
考 古 学 各 説 II	4		西 洋 史 特 講 V	4	
考 古 学 各 説 III	4	休 講	西 洋 各 国 史 I	4	
考 古 学 各 説 IV	4	休 講	西 洋 各 国 史 II	4	
日 本 史 特 講 I（古 代）	4		西 洋 各 国 史 III	4	休 講
日 本 史 特 講 II（中 世）	4		西 洋 各 国 史 IV	4	
日 本 史 特 講 III（中 世）	4		考 古 学 特 講 I	4	
日 本 史 特 講 IV（近 世）	4		考 古 学 特 講 II	4	休 講
日 本 史 特 講 V（近 世）	4		考 古 学 特 講 III	4	} 隔年開講
日 本 史 特 講 VI（近 代）	4		考 古 学 特 講 IV	4	
日 本 史 特 講 VII（近 代）	4		古 文 書 学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古 文 書 講 読 I	4		哲 学 史	4	
古 文 書 講 読 II	4		歴 史 哲 学	4	
日 本 仏 教 史 I	4	休 講	仏 教 美 術	4	
日 本 仏 教 史 II	4		西 域 美 術 史	4	
日 本 仏 教 史 III	4	休 講	美 術 史 概 説	4	
日 本 文 化 史 I	4	休 講 } 隔 年 開 講	ラ テ ン 語 特 講	4	※イ ※ロ 選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。
日 本 文 化 史 II	4		演 習 I	4	
西 洋 文 化 史 I	4		演 習 II	4	
西 洋 文 化 史 II	4		日本史概説I (古代・中世)	4	
西 洋 文 化 史 III	4	休 講	日本史概説II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (写 真)	4	選択科目として履修を希望する科目は、必修科目として履修した科目以外の科目を履修すること。 ※イ	東洋史概説I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (測 量)	4		東洋史概説II (近世・近代)	4	
考 古 学 実 習 (石 器)	4		西洋史概説I (古代・中世)	4	
考 古 学 実 習 (土 器)	4		西洋史概説II (近世・近代)	4	
考 古 発 掘 実 習	2		考古学概説I (日 本)	4	
有 職 故 実	4		考古学概説II (外 国)	4	
中 国 歴 史 文 学	4		日 本 史 学 史	4	
日 本 民 俗 学	4		東 洋 史 学 史	4	
歴 史 地 理 学	4		西 洋 史 学 史	4	
人 文 地 理 学 概 説	4		考 古 学 史	4	
地 誌 学	4				

※イ. 3年次の履修科目

※ロ. 4年次の履修科目

(注意) 歴史学科の学生は、2年次の外国語科目履修指定届(1年次の9月26日~30日提出)を提出する際、次のように指定すること。

- (1) 日本史専攻希望者(日本考古学を含む)
1年次に履修中の外国語の中、何れかを第1外国語として指定。
- (2) 東洋史専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。
- (3) 西洋史専攻希望者
ドイツ語またはフランス語を、第1外国語として指定。
- (4) 東洋考古学専攻希望者
中国語または英語を、第1外国語として指定。

社会学科（1年次の9月27日（火）～28日（水）に専攻コース決定のための届け出を行うこと。）

(1) 社会学コース

必修科目 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修			
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	5科目20単位 選択必修	
社会学史	4		産業社会学	4		
社会学方法論	4		都市社会学	4		
3年次必修			農村社会学	4		
社会調査	4		家族社会学	4		
社会調査実習	4		法社会学	4		
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4		
4年次必修			社会心理学	4		
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4		
卒業論文	8	7頁参照	外書講読Ⅰ	4		休講
			外書講読Ⅱ	4		
			社会学特講Ⅰ	4		
			社会学特講Ⅱ	4		
			社会学特講Ⅲ	4		

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【注】 イ. 「社会調査実習」の履修にあたっては、履修しようとする年度の「社会調査実習」履修登録前に、本学が定める調査実習費を別に納入しなければならない。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
マスコミュニケーション	4	(注)	図 書 館 学 II	4		
産 業 社 会 学	4		社会福祉援助技術総論	4		
都 市 社 会 学	4		法 学 (福 祉)	4		
農 村 社 会 学	4		社 会 保 障 論	4		
家 族 社 会 学	4		老 人 福 祉 論	4		
法 社 会 学	4		児 童 福 祉 論	4		
宗 教 社 会 学	4		地 域 福 祉 論	4		
社 会 心 理 学	4		基 礎 心 理 学 I	4	休 講	
社 会 病 理 学	4		産 業 心 理 学	4		
外 書 講 読 I	4		休 講	環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
外 書 講 読 II	4			民 法	4	
社 会 学 特 講 I	4			労 働 法	4	
社 会 学 特 講 II	4			行 政 法	4	
社 会 学 特 講 III	4			経 済 原 論	4	
社 会 学 原 論	4			社 会 政 策	4	
図 書 館 学 I	4					

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称 旧 名 称
環 境 心 理 学 —— グループ・ダイナミクス

(2) 社会福祉コース
必修科目 (56単位)

2 年 次 必 修			2 ・ 3 ・ 4 年 次 必 修				
授 業 科 目	単 位	備 考	部 門	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会福祉調査論	2		方法・ 援助技術 部門	社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※ ※ ※ 3科目12単位 選択必修	
社会福祉援助技術総論	4	※		社会福祉援助技術各論ⅠB	4		※
社会福祉援助技術各論ⅡB	4	※		社会福祉援助技術各論ⅡA	4		※
法 学 (福 祉)	4	*		リハビリテーション論	4		
				社会福祉計画論	4		構
				社会福祉運営論	4		
3 年 次 必 修			分 野 部 門	家族福祉論	4	3科目12単位 選択必修	
演 習 I	4	社会福祉		児童福祉論	4		*
社会福祉調査実習	2			障害者福祉論	4		*
				老人福祉論	4		*
4 年 次 必 修				地域福祉論	4		*
演 習 II	4	社会福祉		公的扶助論	4		*
卒業論文	8	7頁参照		医療福祉論	4		
				婦人福祉論	4		
				保健福祉論	4		

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

【注】イ. 本カリキュラムは『社会福祉士国家試験(社会福祉士及び介護福祉士法)』と日本社会事業学校連盟専門職養成基準に基づいている。

ロ. ※印および*印は国家試験の受験資格取得に必要な指定科目であり、特に*印は指定科目のうちの基礎科目である。

なお、「社会福祉原論(1年次の基礎教育科目)」も指定・基礎科目である。

ハ. 3年次選択科目の「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」および「社会福祉援助技術演習(Ⅰ・Ⅱ)」は、教員1人あたりの担当学生数が20名以下と規定されている。

従って、履修希望者は予め担当教員の面接試験を受け、許可された者のみ履修することができる。

ニ. 「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」(2年次選択科目)および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」(3年次選択科目)の履修時には、本学が定める実習費を別に納入しなければならない。

なお、社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する学生は、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」および「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」の両方を卒業時まで単位修得していなければならない。また、両科目の単位を修得した者については、成績証明書の上では両科目を合わせて「社会福祉援助技術現場実習」(6単位)と表記される。

選 択 科 目 (16単位以上) (2年次以降の履修科目)

2 年 次 選 択			2 ・ 3 ・ 4 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ	2	※旧「社会福祉援助技術実習」	社 会 保 障 論	4	*
			社 会 福 祉 発 達 史	4	
3 年 次 選 択			社 会 福 祉 外 書 講 読	4	休 講
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ	4	※旧「社会福祉援助技術現場実習」	海 外 社 会 福 祉 論	4	
社会福祉援助技術演習Ⅰ	2	※	社 会 学 (福 祉)	4	*
社会福祉援助技術演習Ⅱ	2	※	心 理 学 (福 祉)	4	*
			医 学 一 般	4	※
2 ・ 3 ・ 4 年 次 選 択			介 護 概 論	4	※
社会福祉援助技術各論ⅠA	4	※	障 害 児 教 育 原 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅠB	4	※	障 害 児 教 育 方 法 論	4	休 講
社会福祉援助技術各論ⅡA	4	※	障 害 児 病 理	4	休 講
リハビリテーション論	4		障 害 児 心 理	4	休 講
社 会 福 祉 計 画 論	4	備	家 族 社 会 学	4	
社 会 福 祉 運 営 論	4		法 社 会 学	4	
家 族 福 祉 論	4		産 業 社 会 学	4	
児 童 福 祉 論	4	*	社 会 病 理 学	4	
障 害 者 福 祉 論	4	*	心 理 検 査 法 Ⅰ	4	旧「心理検査法」
老 人 福 祉 論	4	*	環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」
地 域 福 祉 論	4	*	カ ウ ン セ リ ン グ	4	
公 的 扶 助 論	4	*	精 神 医 学	4	
医 療 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅰ	4	
婦 人 福 祉 論	4		図 書 館 学 Ⅱ	4	
保 健 福 祉 論	4		社 会 政 策	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		行 政 法	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		労 働 法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4		民 法	4	
社会福祉学特講Ⅳ	4		経 済 原 論	4	
社会福祉学特講Ⅴ	4	休 講			

(注意) 選択科目として履修を希望する者は、必修科目として履修した科目以外を履修すること。

「社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

〔名称変更科目〕

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
心 理 検 査 法 I	心 理 検 査 法
環 境 心 理 学	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス
社会福祉援助技術現場実習 I	社会福祉援助技術実習
社会福祉援助技術現場実習 II	社会福祉援助技術現場実習

(3) 心理学コース
必修科目 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ (実習)	2	休講 1 科目 2 単位 選択必修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ (実習)	2	
心理学実験 (実習)	2		心理学研究Ⅴ (実習)	2	
基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	1 科目 4 単位 選択必修	心理学研究Ⅵ (実習)	2	1 科目 4 単位 選択必修 2 年次で必修または選 択として履修した科目 以外を履修すること。
基 礎 心 理 学 Ⅱ	4		基 礎 心 理 学 Ⅰ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅲ	4		基 礎 心 理 学 Ⅱ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅳ	4		基 礎 心 理 学 Ⅲ	4	
基 礎 心 理 学 Ⅴ	4		基 礎 心 理 学 Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 Ⅴ	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ (実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ (実習)	2		卒 業 論 文	8	7 頁参照

(注意) 「基礎心理学Ⅰ～Ⅴ」の内容については、講義内容欄を参照のこと。

選 択 科 目 (36単位以上) (2年次以降の履修科目)

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	必修として履修した科目以外を履修すること。	心 理 学 特 講 I	4	
基 礎 心 理 学 II	4		心 理 学 特 講 II	4	
基 礎 心 理 学 III	4		心 理 学 特 講 III	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		精 神 医 学	4	
基 礎 心 理 学 V	4		情 報 処 理 I	4	旧「心身医学」
心 理 学 研 究 I (実 習)	2	休 講 3・4年次選択 3年次で必修とした 科目以外を履修する こと。	情 報 処 理 II	4	旧「精神病理学」
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		宗 教 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 III (実 習)	2		産 業 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 IV (実 習)	2		家 族 社 会 学	4	
心 理 学 研 究 V (実 習)	2		社 会 病 理 学	4	
心 理 学 研 究 VI (実 習)	2		マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	
生 理 心 理 学	4		社 会 福 祉 援 助 技 術 総 論	4	
児 童 心 理 学	4		障 害 者 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
環 境 心 理 学	4	旧「グループ・ダイナミクス」	児 童 福 祉 論	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		民 法	4	
心 理 検 査 法 I	4	旧「心理検査法」	経 済 原 論	4	
心 理 検 査 法 II	4		行 政 法	4	
禪 心 理 学	4		労 働 法	4	

(注意) 2年次における「基礎心理学I～V」の選択科目としての履修は、3科目以内とする。

[名称変更科目]

新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目の単位を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

新 名 称	旧 名 称
環 境 心 理 学	グ ル ー プ ・ ダ イ ナ ミ ッ ク ス
情 報 処 理 I	心 身 医 学
情 報 処 理 II	精 神 病 理 学
心 理 検 査 法 I	心 理 検 査 法

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.33参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 『履修要項』の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』用紙に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部⑩番窓口で配布する。

- (2) 『履修届』に記入し、『履修許可書』を添えて、所定の期日（履修届提出時）に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.34）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設 学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考	開設 学科	授 業 科 目	単 位	履修年次	備 考	
禪 学 科	禪 学 特 講 I	4	3・4		經 济 学 科	ア ジ ア 経 済 論	4	3・4		
	禪 学 特 講 II	4	3・4			日 本 経 済 史	4	3・4		
	禪 学 特 講 III	4	3・4			中 小 企 業 論	4	3・4		
	禪 学 特 講 IV	4	3・4			教 育 経 済 論	4	3・4	地理学科除く	
	禪 学 思 想 史	4	3・4			ア メ リ カ 経 済 論	4	3・4		
	哲 学 史	4	3・4	歴史学科除く		財 務 会 計 論	4	3・4		
仏 教 学 科	イ ン ド 仏 教 史	4	3・4		商 学 科	管 理 会 計 論	4	3・4		
	中 国 仏 教 史	4	3・4			会 計 監 査 論	4	3・4		
	日 本 仏 教 史	4	3・4			商 業 政 策	4	3・4		
	日 用 経 典	4	3・4			貿 易 論	4	3・4		
	仏 教 美 術	4	3・4	歴史学科除く		マ ー ケ テ ィ ン グ	4	3・4		
	現 代 哲 学 概 説	4	3・4			原 価 計 算 論	4	3・4	休講	
国 文 学 科	上 代 文 学	4	3・4	国文学科除く	法 律 学 科	勞 務 管 理 論	4	3・4		
	中 世 文 学	4	3・4	国文学科除く		経 営 管 理 論	4	3・4	歴史学科除く	
	近 世 文 学	4	3・4	国文学科除く		行 政 法 II	4	3・4		
	近 代 文 学	4	3・4	国文学科除く		民 法 IV (1)	4	3・4	社会学科除く	
	中 国 文 学	4	3・4	国文・歴史学科除く		民 法 IV (2)	4	4		
英 米 文 学 科	英 文 学 特 講 I	4	3・4	英米文学科除く	政 治 学 科	比 較 憲 法	4	3・4		
	英 文 学 特 講 II	4	3・4	英米文学科除く		地 方 自 治 法	4	3・4	休講	
	英 文 学 特 講 III	4	3・4	英米文学科除く		経 済 法	4	3・4		
	英 文 学 特 講 IV	4	3・4	英米文学科除く		国 際 関 係 論	4	3・4		
	英 文 学 特 講 V	4	3・4	英米文学科除く		西 洋 政 治 史	4	3・4		
	英 文 学 特 講 VI	4	3・4	英米文学科除く		宣 伝 広 告 論	4	3・4		
	英 米 演 劇 特 講	4	3・4	英米文学科除く		比 較 社 会 構 造 論	4	3・4	休講	
	米 文 学 特 講 I	4	3・4	英米文学科除く		政 党 論	4	3・4		
	米 文 学 特 講 III	4	3・4	英米文学科除く		国 際 経 営 論	4	3・4		
時 事 英 語	4	3・4	英米文学科除く	経 営 学 科	経 営 統 計	4	3・4			
地 質 学	4	3・4	地理学科除く		保 険 経 営 論	4	3・4			
地 形 学 I	4	3・4	地理学科除く		財 務 会 計 論	4	3・4			
人 口 地 理 学	4	3・4	地理学科除く		経 営 分 析 論	4	3・4			
応 用 地 理 学 I	4	3・4	地理学科除く		税 務 会 計 論	4	3・4			
文 化 地 理 学	4	3・4	地理学科除く		経 営 勞 務 論	4	3・4			
歴 史 学 科	日 本 仏 教 史 II	4	3・4	歴史学科除く	商 業 史	4	3・4			
	日本史特講Ⅶ(近 代)	4	3・4	歴史学科除く	短 大 国 文 学 科	国 文 講 読 I (上 代)	2	3・4	国文学科除く	
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4	歴史学科除く		国 文 講 読 II (中 古)	2	3・4	国文学科除く	
	西洋文化史 I	4	3・4	歴史学科除く		国 文 講 読 III (中 世)	2	3・4	国文学科除く	
	考古学特講 III	4	3・4	歴史学科除く 講義開講		国 文 講 読 IV (近 世)	2	3・4	国文学科除く	
	歴 史 哲 学	4	3・4	歴史学科除く		国 文 講 読 V (近・現代)	2	3・4	国文学科除く	
	哲 学 史	4	3・4	歴史学科除く	国 文 特 講 V (近・現代)	4	3・4	国文学科除く		
	日 本 民 俗 学	4	3・4	歴史・国文学科除く	短 英 文 大 学 科	英 文 タイ プ ラ イ テ ィ ン グ II	2	3・4	国文学科除く	
マ ス コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	4	3・4	社会学科除く	時 事 英 語		4	3・4	国文・英文学科除く		
産 業 社 会 学	4	3・4	社会学科除く	英 語 演 習 I		4	3・4			
社 会 学 科	都 市 社 会 学	4	3・4	社会学科除く	短 放 射 線 大 学 科	計 算 機 言 語 概 論	2	3・4	国文学科除く 半期科目 ※イ	
	社 会 福 祉 発 達 史	4	3・4	社会学科除く		臨 床 放 射 線 特 論 I	2	3・4	国文学科除く 半期科目	
	経 済 学 科	ロ シ ア ・ 東 欧 経 済 論	4	3・4		※イ	応 用 計 測 学	2	3・4	国文学科除く 半期科目
	社 会 政 策	4	3・4	社会学科除く						
経 済 学 科	国 民 所 得 論	4	3・4							
	中 国 経 済 論	4	3・4							

※イ、「ロシア・東欧経済論」については、旧名称「ソビエト経済論」の単位を既に修得している学生は履修できない。

※ロ、計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定する。

7. 随意科目の履修方法

各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
宗 教 学 概 説	4		日 本 仏 教 史	4	※イ 休講	ド イ ツ 語 PLL(中級)	2	
哲 学 概 説	4		日 本 文 化 史 I	4	休講 } ※二 隔年 開講	フ ラ ン ス 語 PLL(初級)	2	
倫 理 学 概 説	4		日 本 文 化 史 II	4		フ ラ ン ス 語 PLL(中級)	2	
宗 教 人 類 学	4		英 会 話 II	2	※へ	中 国 語 PLL(初級)	2	
民 間 信 仰 論	4		ド イ ツ 語 F	2		中 国 語 PLL(中級)	2	
日 本 宗 教 文 化 史	4		フ ラ ン ス 語 F	2		ス ペ イ ン 語 PLL(初級)	2	
民 衆 宗 教 成 立 史	4		中 国 語 F	2		ス ペ イ ン 語 PLL(中級)	2	
歴 史 哲 学	4	※イ	ス ペ イ ン 語 F	2		ロ シ ア 語 PLL(初級)	2	
日 本 民 俗 学	4	※ロ	ロ シ ア 語 F	2		ロ シ ア 語 PLL(中級)	2	
美 術 史 概 説	4	※ロ	英 語 L L II	2	※へ	英 語 (海外演習)	2	※ホ
東 洋 思 想 研 究	4	※ハ	ド イ ツ 語 PLL(初級)	2				

※イ. 歴史学科を除く。

※ロ. 国文・歴史学科を除く。

※ハ. 国文学科を除く。

※二. 国文・英米文・歴史学科を除く。

※ホ. 「英語(海外演習)」は、海外姉妹校で行なわれる短期留学セミナーで、1年次生より履修できる。なお、詳細については、講義内容(P.71)を参照のこと。

※へ. 「英会話II」・「英語LLII」の履修を希望する者は、最初の授業に『履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を受けること。

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目(受験しなかった科目を含む)を再度履修することをいう。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語科目・体育実技I・保健体育理論および宗教学Iを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」(本校で授業を行う)で履修すること。ただし、「英会話I」・「英語LLI」については、当該科目の振替科目である「英語IA」を再履修クラスで履修すること。

ホ. 外国語科目の再履修は『外国語再履修科目授業時間表』(教務部⑩番窓口で配布)から履修し、最初の授業で『外国語再履修票』を提出して担当教員の許可を受けること。ただし、原級者が同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。この場合の外国語科目は、『外国語再履修票』を必要としない。

へ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法

『外国人留学生』及び『海外帰国子女』の一部を対象とする科目で、原則として1・2年次において履修すること。

- 日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。
 - 日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。
 - 各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。
- (注) 詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P. 49参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1 (必修)・2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必修科目		1・2・3
選択科目		5・6・7・8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3・4・5・6・7・8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

所属する学科、学年に開講されている授業科目のうち履修を希望する科目を授業時間表から選び、所定の『履修届』用紙に必要事項を記入し届け出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる授業科目数（制限科目数）は次のとおりである。

年次	履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15科目	—
2年次	14科目以内	18科目以内
3年次	14科目以内	18科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ、随意科目は、上記表の制限外とする。

（注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は、再履修科目にならない。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

ニ. 課程・講座科目を履修する場合

認める …… 履修制限科目数 14科目以内+課程・講座科目数=18科目

認めず …… 履修制限科目数 15科目以上+課程・講座科目数=18科目

II) 登録上の注意

イ. 履修届は必ず本人が記入捺印し、指定された日時に学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は、学業の意志のないものとして処理する。なお、指定日時に提出できないものは事前に教務部⑨番窓口で相談すること。）

ロ. 履修届は、4月20日（水）9時30分から16時まで教務部臨時窓口で受付ける。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし、他学部履修科目（P.33参照）は、履修登録できる。

また、教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は『課程・各種講座授業時間表』（教職係窓口で配布）から履修し、教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. いったん提出（登録）した履修科目の変更は認めない。

ヘ. 『履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

III) 履修確認表の配布

下記の日・時に教務部臨時窓口において履修確認表を配布する。

（記）5月18日（水）・19日（木） …… 9:30～16:00 昼休み除く

履修届（本人控）と照合の上、誤りのある場合は、5月30日（月）・31日（火）・6月1日（水）の期間に教務部⑨番窓口で必ず訂正すること。

※ 受付時間（9:30～16:00 昼休み除く、土曜日は9:30～正午まで）

2. 履修届記入上の注意

授業時間表（例）

曜日	時限	科目名	科目コード	担当者コード	担当者名
月	1	ドイツ語ⅠA	212201	879	百済 勇
月	2	保健体育理論（前期）	214201	A10	長濱 友雄
		保健体育理論（後期）	214201	622	
月	3	宗 教 学 Ⅰ	210101	157	岡部和雄
月	4	論 理 学	210203	306	国嶋一則
月	5	自然科学概論	210401	104	宇和川正人

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担当	担当コード
	1		ドイツ語ⅠA	212201	百済	879
	2		保健体育理論（前期）	214201	長濱	A10
月	3		宗 教 学 Ⅰ	210101	岡部	157
(1)	4	○	論 理 学	210203	国嶋	306
	5		自然科学概論	210401	宇和川	104

- イ. 楷書体で正確に記入すること。
- ロ. 記入の際は、必ず黒のボールペンを使用し、捺印の上提出すること。
- ハ. 授業時間表のとおり記入すること。ただし、「担当」欄には、担当教員の姓のみを記入すること。
- ニ. 半期終了の科目は「再履」から「担当コード」欄までの中央に点線（上記、正しい記入例参照のこと）を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。
- ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。
- (1) 科目名・科目コード、担当名（姓のみ）・担当コードが一致しない場合
 - (2) 時限を誤って記入した場合
 - (3) 判読できない数字で記入した場合（例として間違い易い数字 0と6, 1と7）
 - (4) その他、不明瞭に記入した場合
- ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名（姓のみ）・担当コードを正しく記入すること。
- チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次の順序で履修する科目を決定すると容易である。

国文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学, 基礎国文学, 基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

英米文学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論, 基礎英語ⅠA, ⅠB（必修）	3
5	専門教育科目	英語音声学（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 社会分野 } 開講科目の中から4科目を選択必修 自然分野 } (不足単位は2年次で履修)	4
1年次履修制限科目数			15

地理学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学（必修）	2
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野：開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

歴史学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学（必修）	1
5	一般教育科目	人文分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野：開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野：開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

社会学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉原論, 心理学概論（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野	開講科目の中から5科目を選択必修 （不足単位は2年次で履修）
		社会分野	
		自然分野	
1年次履修制限科目数			15

4. 授業時間

授業時間は、次のとおりである。

時限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時間	9:00~10:30	10:40~12:10	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月14日（木）～7月20日（水）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月17日（火）～2月3日（金）に実施する。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日・時以外は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については提示で発表する。

（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。〔締切日は前期7月25日（月）、後期2月6日（月）〕

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

（注意）前期終了科目の追・再試験は9月26日（月）～10月1日（土）に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月23日（木）～3月1日（水）に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は追・再試験ともこれを行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部⑨番窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)および不可(59点～0点)とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。
なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期）	
1時限 9:20～10:20	4時限 14:40～15:40
2時限 10:50～11:50	5時限 16:10～17:10
3時限 13:10～14:10	

定期試験実施時間（後期）	
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50
3時限 13:00～14:00	

追・再試験実施時間（前期）	
1 時限	16：10～17：00
2 時限	17：10～18：00

追・再試験実施時間（後期）	
1 時限	9：30～10：20
2 時限	10：50～11：40
3 時限	13：00～13：50
4 時限	14：10～15：00
5 時限	15：20～16：10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.53）ので参照のこと。

7. 成績発表

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を提示すること。

前期成績発表	9月16日（金），19日（月）
後期成績発表（卒業年次生）	2月17日（金），18日（土）
“ （在 校 生）	4月9日頃

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。または90単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

※ 各科目区分・分野における卒業所要単位を超える単位を除いた修得単位数を計算する。

※ 随意科目・課程・講座の修得科目を除く。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
 ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	"	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
博 物 館 学 講 座	"	社会教育の場として博物館が十分に利用され、その目的、使命を達成するための学芸員の資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	"	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	"	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1か月前から掲示板で、その旨指示する。

IX 事務取扱いについて

1. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時から16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表等各申込の受付は、9時30分から16時までとする。

2. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑩番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

3. 掲示・連絡

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

4. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。(本大学の修業年限は4年)
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休 学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、事前に窓口で相談の上、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学 費
4月1日～9月20日	第1期(前期)分納入済のこと。(第2期分免除)
9月21日～11月30日	第1期(前期)分・第2期(後期)分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復 学

- イ. 休学した者が復学する場合は、第1期(前期)学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願出すること。

ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。

ハ. 退学年月日は次のとおりとする。

- (1) 当該期学費納入者 …………… 退学願提出日
- (2) 当該期学費未納者 …………… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

イ. 在学年数を越えた者

ロ. 休学期間を越えた者

ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。

ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学

本大学卒業者（卒業見込者を含む）または2年以上在学した者（在学中の者を含む）で、同一学部その他学科または他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可することがある。

ただし、編入学生の学年は、単位を修得した授業科目によっては、2年次となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。

ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。（出願時を基準とする）

ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部その他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。（学科により異なる）

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。

ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

11. 学生氏名・保証人

イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づき J I S 第 1 水準・第 2 水準文字で運用する。

ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。

ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。

ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。

ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。

ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

12. 学生番号

イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。

ロ. 学生番号は 6 桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分

--	--	--	--	--	--

: : :
 学 学 入 一
 部 科 学 (連
 年西 番
 度 号
 曆)

(例) 1994年度入学・文学部
国文学科14番の場合

2	1	4	0	1	4
---	---	---	---	---	---

: : :
 文 国 一 14
 学 文 九 番
 部 学 九
 科 四 年
 入 入
 学 学

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

XI 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1年次に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1年次に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位の算入される。

XII 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領 (必 要 書 類)	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届	履 修 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・各年度に単位修得しようとする授業科目を指定期日に必ず届け出ること 	要	不要	掲示
	欠 試 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること(締切日は掲示参照) 	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・掲示板にて提示 	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・戸籍抄本添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	⑤
	本籍地(都道府県名)変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・住民票記載事項証明書添付 ・変更後1週間以内 	要	不要	
	保証人変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・在学誓書(保証書)添付 	要	要	
	保証人住所変更届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・変更後1週間以内 	不要	不要	
死 亡 届	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・死亡が証明できる書類(写し可)添付 	/	要		
願 書	休 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による場合は、医師の診断書添付 ・外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届 ・その他の場合は、保証人連署の理由書 	要	要	⑤
	復 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・傷病による休学をした場合は、医師の通学可能である証明書添付 ・4月10日までに提出すること 	要	要	
	退 学 願	<ul style="list-style-type: none"> ・所定用紙あり ・学生証添付 	要	要	

※ 大学の定める諸届(願)の提出期限が、日曜・祭日の場合はその翌日までとする。

XIII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教 務 部 ④ 番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書	就 職 部	
人 物 考 査 書		
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	無 料
学 割		
通 学 証 明 書		

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口で申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、5月下旬から7月下旬まで及び3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試験及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容 目 次

一般教育科目 (共通)	(58)
保健体育科目 (共通)	(65)
随 意 科 目 (共通)	(66)
国 文 学 科	(73)
英 米 文 学 科	(85)
地 理 学 科	(95)
歴 史 学 科	(107)
社 会 学 科	(123)
他学部履修科目 (共通)	(141)

〔 卷 末 〕

教職および資格講座

一般教育科目（共通）

人文分野	
宗教学Ⅰ（佐々木 宏幹）	58
宗教学Ⅰ（洗 建）	58
宗教学Ⅰ（山岡 隆晃）	58
宗教学Ⅰ（佐藤 憲昭）	58
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	58
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	59
宗教学Ⅱ（青竜 宗二）	59
宗教学Ⅱ（峰岸 孝哉）	59
宗教学Ⅱ（角田 泰隆）	59
宗教学Ⅱ（原田 弘道）	59
宗教学Ⅱ（石井 修道）	59
哲学（久保 陽一・片桐 茂博）	59
論理学（寺田 誠一・中村 友太郎）	60
歴史学（粟野 俊之）	60
文学（平野 由紀子）	60
芸術学（日本美術）（松平 美和子）	60
芸術学（西洋美術）（矢野 陽子）	60
芸術学（音楽）（赤羽 由規子）	60
社会分野	
法学憲法（和知 恵一）	61
法学憲法（鶏徳 啓登）	61
経済学（徳永 俊明）	61
経済学（光岡 博美）	61
政治学（小林 正敏）	61
社会学（橋爪 敏）	62
文化人類学（蒲原 大作）	62
地理学（竹内 啓一）	62
地理学（矢野 陽子）	62
自然分野	
自然科学概論（宇和川 正人）	62
自然科学概論（篠原 正雄）	62
数学（三好 重明）	63
生物学（清水 善和）	63
生物学（中村 敏枝）	63
心理学（横山 剛）	63
心理学（大塚 秀治）	63
人類学（江藤 盛治）	64
地学（中島 義一）	64
化学（高木 正博）	64
物理学（篠原 正雄）	64

保健体育科目（共通）

保健体育理論（森本 葵）	65
保健体育理論（竹田 幸夫）	65
保健体育理論（江口 淳一）	65
保健体育理論（再クラス）（牧野 茂）	65

保健体育理論（再クラス）（宮沢 栄作）……65

随意科目（共通）

宗教学概説（松田 文雄）	66
宗教学概説（洗 建）	66
哲学概説（中村 璋八）	66
哲学概説（久保 陽一）	66
倫理学概説（国嶋 一則）	66
宗教人類学（佐々木 宏幹）	67
民間信仰論（谷口 貢）	67
日本宗教文化史（松田 文雄）	67
民衆宗教成立史（洗 建）	67
歴史哲学（麻生 建）	67
美術史概説（中島 亮一）	67
東洋思想研究（館野 正美）	67
日本文化史Ⅱ（廣瀬 良弘）	68
日本民俗学（谷口 貢）	68
英会話Ⅱ（P. A. Bendinelli・T. A. Grange W. Hubbard・D. J. Nolan J. K. Wells・P. Ziegler）	68
英語LLⅡ（T. J. Cogan・岩山 義春 大庭 直樹）	69
ドイツ語F（柴野 博子）	69
ドイツ語FL（初級）（小林 ゲアリンデ）	69
ドイツ語FL（中級）（松岡 晋）	69
フランス語F（桑田 禮彰）	69
フランス語FL（初級）（小玉 齊夫）	70
フランス語FL（初級）（M. マルタン）	70
フランス語FL（中級）（M. マルタン）	70
中国語F（釜屋 修）	70
中国語FL（初級）（松本 丁俊）	70
中国語FL（中級）（小川 隆）	70
スペイン語F（アウロラ・ベルエタ）	70
スペイン語FL（初級）（ホワン・ナバロ）	71
スペイン語FL（中級）（ホワン・ナバロ）	71
ロシア語F（杉山 秀子）	71
ロシア語FL（初級）（木村 英明）	71
ロシア語FL（中級）（滝川 ガリーナ）	71
英語（海外演習）	71

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I

佐々木 宏 幹

講義はつぎのように展開される。(1)宗教は諸文化のなかでどのような位置を占め、また社会的にどのような役割を果たしているか、(2)宗教をめぐるどのような学説が唱えられたか、(3)世界にはどのような宗教形態があるか、(4)仏教はどのような特色をもつ宗教か、(5)日本の仏教と日本人との関係はどうなっているか。具体的な事例を挙げて考察する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I

山岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化現象である。宗教は時代を超えて、人間社会の様々な場面で重要な役割を演じ続けてきた。人間はなぜ宗教を必要とし、宗教は人間にとってどのような意味をもち、個人または社会に対していかに機能してきたか。宗教の起源や構造・機能をめぐる学説を概観することにより、宗教に関する基礎的な理解を深めるとと

もに、人間理解の一助としたい。また、様々な宗教が共存する日本の宗教についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
¥2,000

宗教学 I

佐藤 憲 昭

呪術=宗教は、人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の文化諸領域との関連のもとに考察する。現在調査をこころみている地域の事例なども含めて、日本各地の事例をできるだけ多く紹介し、諸民族との比較において、1. 風土と宗教、2. 救いの諸相、3. アニミズム、4. シャーマニズム、5. 憑霊信仰、6. 妖術信仰、7. 先祖崇拜、8. 教義信仰、9. 呪術=宗教的複合、10. 日本人の宗教観などのテーマを取り上げて具体的に検討する。さらに仏教の基本的な観念や行動についても考えてみたい。なお、成績評価の方法は基本的には筆記試験のみで行なうが、59点以下の場合には出席点とレポート点を考慮して総合的に評価する。

〔教科書〕水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)
佐々木宏幹『仏(ホトケ)と霊(タマ)の人類学』(春秋社)
〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

宗教学 I (再クラス)

岡部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』(世界書院)
『仏教の歩んだ道1』(東京書籍)

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『仏教と人間』（東京書籍）

宗 教 学 II

青 竜 宗 二

この講座は「宗教学I」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

峰 岸 孝 哉

この宗教学IIは、宗教学Iを学んだ後を受けて、中国で成立し、大なる展開をとげた禅仏教の解説を内容としている。まずインド、中国、日本の禅仏教の歴史をたどり、その思想と行動の特色について考えてみる。とりわけ日本文化に与えた影響や、今日的意味については特に注意して考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学II』（更生社）
〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
¥2,000

宗 教 学 II

角 田 泰 隆

はじめに、「宗教とは何か」について、仏教の立場から見た宗教観について解説する。まず、宗教に対する考え方を見つめ直していただけたらと思う。

この講義は、「禅とは何か」をテーマとし、その歴史と教義を中心に学ぶ。また、その中で、禅の代表的な公案（禅問答）を取り上げて、そこに表われた禅の中心課題や、その思想的特色についても見てゆきたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

〔参考書〕教場にて指示する。

宗 教 学 II

原 田 弘 道

仏教就中禅を中心に講義を進めてゆく。まず禅及び禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、人間生活と禅の真理、禅的生活の展開、禅と文化、禅と現代といった問題を順次とりあげてゆく。

そして禅の日常性の構造、公案の意義、禅の人間像、実践規範と順次とりあげる。禅と文化、禅と現代においては、広く禅と芸術、西欧思想と禅との関係等についても触れるつもりである。

〔参考書〕水野・柴田編『宗教学ハンドブック』（世界書院）¥2,000

原田弘道『禅を喝破する』（曹洞宗宗務庁）¥800

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を受けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学II』（更生社）
¥2,370

哲 学

久 保 陽 一・片 桐 茂 博

哲学は生きるための支え、拠り所を求めつつ、同時にそれが確かめられた学問的知識であることを求める。その意味で、哲学は諸学と経験の基礎づけをめざし、それにより生きることを学ぶものである。授業では、最初、この哲学的思索がいかに行われ、いかなる問いが立てられねばならないか、について一般的な要点を説明する。それを、更に、具体的に過去の哲学の営みを通して検討しつつ、とりわけ現代の言語論的哲学と芸術の

哲学について学ぶことにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

論 理 学

寺 田 誠 一・中 村 友 太 郎

科学であれ哲学であれ、また日常的な行為においても、正しい論理的思考が求められるが、それを主題的に探求するのが論理学である。授業では、前期では主にアリストテレス以来の伝統的論理学（概念論、判断論、推理論等）を取り上げる。後期では、現代の記号論理学の基礎的内容（命題論理学と述語論理学）を学ぶ。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

歴 史 学

粟 野 俊 之

はじめに日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを概観する。次いで、中世から近世初期を中心として、大名・領主・村落・農民などの問題を取り上げ、当時の社会関係や習俗・慣習などをさまざまな角度から見て行きたい。

文 学

平 野 由 紀 子

文学の発生の問題や日本語の表記の歴史をとりあげ、さらに日本文学の原点とも言える万葉集について講義する。具体的には万葉集の歌をよみ、歴史・地理・社会的背景と歌との関連について考えていく。また、万葉集がその後の文学に与えた影響についても考えていく。

〔教科書〕小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

芸 術 学（日本美術）

松 平 美 和 子

近年、日本美術は西洋の美術とは異なる独自の価値感をもって語られるべきだという意識が強まっている。日本美術史のこの新たな動行を見つめ

ながら、古代から近世に至る日本の美術を考えていきたい。なお、美術史を学ぶ上で、実物を見ることは最も大切であるので、可能であれば美術館見学を行い、講義の中でもスライドを多く使っていくつもりである。

〔参考書〕辻 惟雄『日本の美術の見方』（岩波書店）

高階秀爾『日本美術を見る眼』（岩波書店）

芸 術 学（西洋美術）

矢 野 陽 子

古代から現代にいたるまで人類が絶えず行ってきた造形活動の流れを把握することを目的とする。各時代の代表的な作品を取上げて、その表現様式、美意識、社会的思想的背景などを考察していきたい。毎回スライド使用。

〔参考書〕高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）¥1,900

芸 術 学（音楽）

赤 羽 由 規 子

前期には、明治以来、日本で最高の音楽として学ばれてきた西洋の芸術音楽（クラシック）が、現代においてどのように展開されているかを見て、そこに至る音楽史の流れを簡単にたどる。実際に音楽を沢山聴きながら、わかりやすく講義を進めていくので、受講者は、特に専門的な知識や音楽的な教養を必要としない。

後期には、1960年代から始まった、アジアやアフリカの音楽をも視点に入れた“エスニック”，そして更に“ワールド・ミュージック”への動きについて、やはり音楽を沢山聴きながら考えていく。

なお、第1回目に、オリエンテーションを行うから、必ず出席すること。

〔教科書〕印牧由規子著『現代からの音楽史』（公論社）¥2,700

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

なぜ教養として法を学ぶべきなのか？それは、法が我々の日常生活に必要不可欠の存在であるにもかかわらず、そのことを認識していることが少ないため、さまざまな法的問題に直面して初めて法の存在を認識し、慌てふためく人があまりにも多いからである。街頭セールスにつかまって、高額な英会話の教材を買わされたり、3年契約で入居したはずのアパートを半年で追い出されそうになったり、ファミコン用のソフトだと思ってスーパーファミコン用のものを買ってしまったりと、枚挙に遑がない。その場になって慌てなくても済むように、この授業を、法とは何か、法によってどう我々の生活は守られているのかを理解する縁としてほしい。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』（八千代出版）

『ポケット六法』（有斐閣）

〔参考書〕授業の中で紹介します。

法 学 憲 法

鶏 徳 啓 登

よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学である。法に共通する根本的な理念は何か、法の目的は何かなど、法を研究する場合にどうしても解明しなければならない問題がある。

また憲法は、国家の基本法として他の諸々の法令の根幹をなすものであり、人権と統治機構よりなる。そして現代にいたっては、社会状況の変化に伴い新しい人権といわれるものの研究もなされている。

そこで、本講義では、これらのテーマを中心にまず一通り法学をやり、つぎに法の中でもその中枢をなす憲法の理念や原則などについて説明してゆきたいと思う。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編著『法学・憲法』（八千代出版）¥3,500

〔参考書〕『ケースメソッド現代法学入門』（主文社）等教場にて説明します。

経 済 学

徳 永 俊 明

学問への出発点は「私はどこにいるのか？」という問いにあります。言い換えれば、「私たちはどのような社会に生きているのか？」という問題です。そして、あるゆる社会の<土台>をなしているものが<経済>です。

この講義では、私たちが生きている今日の社会の<土台>をなす<資本主義経済>の基本的な構造を勉強したいと思います。

前期は、今日資本主義経済が直面している主な問題を具体的に観察します。

後期は、それらの問題の根底にある資本主義経済の基本的メカニズムを検討します。

講義はプリントを使ってすすめます。

経 済 学

光 岡 博 美

この授業では、経済学の基礎的な理論について解説する。講義は、戦後日本経済の諸問題について説明し、そこから、現代の経済問題を理解するための“キイ・ワード”とは何かを考えていくといった順番で進めることとする。そのうえで、経済学が、これらの“キイ・ワード”をどのように組み立てて社会を認識してきたのかを、これまでの経済学の理論と歴史のなかから考えていくこととしたい。

そして、再び現代世界の政治経済に目を向け、経済学の理論の世界から、現代という時代がどのように見えてくるのかについて述べてみたい。

〔教科書〕特に使用しない。

〔参考書〕授業のなかで適時指示し、また解説する。

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸領域を、政治理論、政治集団、政治機構等にわたって系統的に論述する。特に社会科学の政治学であることを考慮して、政治社会学、政治心理学的な視点をも重視したい。

〔教科書〕高橋正則他著『現代日本の政治構造』（芦書房）

社会学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものである。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくことにする。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』
(学文社)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

文化人類学

蒲 原 大 作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることの多い未開民族(未開社会)が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』
(有斐閣双書)

地理学

竹 内 啓 一

私自身、中学、高校の退屈な地理教科書執筆者の一人であるが、この講義では中学、高校の地理とはまったくちがった地理学の諸側面を紹介することに努めたい。主な内容は、(1)旅(探険、巡礼、観光)、旅行記、ガイドブック (2)地図の世界 (3)場所の意味 生きられた空間、タイム・ジオグラフィ、メンタル・マップ (4)文学における空

間、この最後のトピックについては、下記の本を教科書として用いる。

〔教科書〕杉浦芳夫『文学のなかの地理空間、東京とその近傍』(古今書院) ¥3,200

〔参考書〕その他の参考書は講義のなかで指示するが、次の拙著が全般的に役立つであろう。『とぼろうぐ。地理学雑記帖』(古今書院) ¥2,500

地理学

矢 野 陽 子

地球上最大の大陸と最大の大洋の間に位置する日本列島は、複雑な自然に富み、地震・火山噴火・集中豪雨・台風等多くの天災に見舞われながらも、今日の発展を日本国民にもたらしています。

本講では、この発展の母体である日本列島の自然と人間生活について地誌的立場から、日本全域を対象として地域の本質(地域的特性)を明らかにしたいと思います。

〔教科書〕『日本地誌』〔改訂増補版〕¥1,900
地図帳使用。

自然分野

自然科学概論

宇和川 正 人

自然環境と資源の諸問題について解説する。あわせて、資源の開発と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

自然科学概論

篠 原 正 雄

「現代科学の自然像と地球外文明探査」

現代の自然科学は細かい分野に分かれ、研究者も隣の分野の専門的なことはわからない。けれども、自然は一つであるから、どの分野も互いに深く関わりあっている。例えば宇宙の果ての天体の観測が地震予知に使われている。本講では地球外文明探査(SETI)をとりあげる。SETIは

SFではなく科学である。根底には、生命と文明に満ちた我々の世界が宇宙の中の極めて稀な偶然の産物なのか、それとも自然の進化の必然の結果なのかという問いが横たわっている。このテーマの下で、素粒子から宇宙に至る自然の階層構造と、自然の進化について現代科学諸分野を総合して得られる自然像を学ぶ。

〔教科書〕前田 坦著『自然科学への招待』

(培風館)

数 学

三 好 重 明

数学とは遊びである。人類は役に立つという理由だけで数学の研究を行ってきたわけではない。

350年間の世界中の数学者達の挑戦のすえ、去年(1993年)やっと解決されたフェルマーの最終定理(方程式 $x^n + y^n = z^n$ は n が3以上のとき整数解を持たない)は実際の生活に役に立つだろうか。すぐに役立つとは思えないだろう。だが人類は単にそれが知りたいから、わかりたいからこの問題を追及してきたのだろう。「わかる」ことは楽しい。そしてそうやって構築してきた数学が実際役に立ってしまうから素晴らしいのではないか。この講義ではこの原点に立ち返って、受講者達と共に数学の世界に遊びたいと思う。

生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起原から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦糸に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横糸に配して統一し、体系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

〔教科書・参考書〕なし

生 物 学

中 村 敏 枝

93年9月、8人の科学者が閉鎖空間「バイオスフィア(生命圏)2」から2年ぶりで帰還した。彼らは3か月分の食糧を持ち込み、後は自給自足の生活を送った。この長期実験の記録は、将来人類が宇宙に脱出するための参考資料となるだろう。

しかし私達は脱出の方法よりも、まずこの地球との共存を考えるべきではないだろうか。

この一年間、生物と環境について考えていきたい。まず生物の営みをいろいろな段階(個体・個体群・生態系)で紹介する。次に環境破壊の幾つかについて、その背後にある社会・経済問題も視野に入れて考察したい。人類が絶滅した恐竜たちと同じ運命をたどらないために、私達はどうかどうしたらよいかを一緒に考えましょう。

〔教科書〕未定

〔参考書〕講義中に紹介します。

心 理 学

横 山 剛

本講義は心理学の主要な領域と心理学の対象・方法について基礎的な知見を与える入門の講義である。内容としては、感覚や知覚、学習、記憶などの基礎の分野から情緒、知能、性格、異常などの応用・臨床的な分野などを解説する。いずれにせよ、学生諸子が己れの理解を深め、複雑な現代の社会現象を見ていく上の一助となれば幸いである。

〔教科書〕中村昭之編『心理学概説』

(八千代出版)

〔参考書〕村山貞雄監修、霜山徳爾編『臨床心理学』(学術図書出版)

心 理 学

大 塚 秀 治

心理学はその始まりから今日まで、その時代の思想と科学的方法論にもとづいて「人間の認識と行動」の理解を目的としてきた。そのため単に心理学といってもその分野は広い。本年度の講義では、知覚・記憶・学習・情動・社会行動といった分野を中心に解説する。講義の他、実際に簡単な実験や調査、検査等を行い心理学研究法のあり方を理解する。

評価は出席状況、課題の提出状況、期末試験に基づく総合評価による。なお、課題については原則としてワープロで作成したものを要求する。

〔教科書・参考書〕資料についてはプリントを配布する。教科書・参考書については開講時に示す。

人 類 学

江 藤 盛 治

生物としての人類について、自然人類学の視点から考察を加え、文化をもつ唯一の動物といわれている人類を総合的に理解することを目的とする。人類は生物に違いないのか、動物だと言い切ってしまう間違いはないのか。常識とされているはずのことについて検証を加えてみることから始まり、過去から現在に至る道程のなかから、動物としての人類の本質を探り、また人類の将来をみつめてみたい。3本の柱をおく。「進化」「変異」「適応」である。「進化」は長いタイムスパンのなかでの形態的「変異」としてとらえられるが、本質的には「進化」も「変異」も「適応」の所産に他ならない。「文化」とは何かを含めて、人類という特殊な動物にせまってみよう。

教科書は使用しない。参考書は必要に応じてそのつど紹介する。なるべく平易に講義するつもりである。できれば中学校程度の生物学の知識を思い出してくれれば有難い。

「光学」に限定することを意味しない。17世紀にはこの問題は力学的に議論されたし、19世紀には光が電磁波であることが示された。さらに、熱現象や、今世紀の物理学の二本柱である相対論、量子論とも深く関わっている。この間に導かれて、さまざまな主要な分野を旅することとなる。

数式の使用は極力避け、用いる場合は式の意味をできる限り平易な言葉に置き換えて説明する。

講義の理解を深めていただくために問題を考えていただくこともある。評価は期末の筆記試験と平常点により行う。中間試験を行うこともあり得る。

〔教科書〕教科書は用いない。

〔参考書〕講義の中で必要に応じ適宜紹介する。

地 学

中 島 義 一

地学のはんいは広いが、陸水学・気候学・地形学の主要問題を講義する。関連ある人文地理学・歴史学の諸問題にも言及する。地図帳（高校生の時に使用したものでよい）の持参が望ましい。

化 学

高 木 正 博

まず物質の本性について、原子の結びつきから解説する。次に地球化学および環境汚染の視点から、化学物質と自然環境の関係や、人間とのかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

「光とは何か」という問を立て、この問をめぐるさまざまな事柄を取り上げる。これは内容を

保健体育科目(共通)

保健体育理論

森 本 葵

体力づくり

- <若年層における体力づくりの必要性>
- <体力のメカニズム>
- <体力づくりの方法>
- <体力づくりかわる疲労の問題>
- <疲労の判定法>

オリンピックゲーム

- <歴史>
- <問題点>
- <その将来>

[参考書] 『保健体育理論』(科学書院)
『スポーツ・トレーナー教本』
(日体協)

保健体育理論

竹 田 幸 夫

体育・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行なう。とくに、スポーツ運動学の立場から人間の運動の様々な特徴を具体的な例によって解説する。また、現代における社会生活と健康・スポーツとの関わりを考えていく。

[教科書] 駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』
(カツサ出版部) ¥1,700

[参考書] 白石 豊編『スポーツ上達の基礎理論』
(自由現代社) ¥1,200

保健体育理論

江 口 淳 一

現代文明は経済性、利便性、効率性の名の下に人間を身体運動から遠ざけ、結果として運動不足症候群と呼ばれる様々な現象を生んできた。本講義では、このような社会において、より良く、より遅しく生きていく為に、人間生活の基本である健康、体力、身体運動に対する理解を科学的アプローチで深め、さらには、運動の文化的意義につ

いて学ぶことで“Quality of life”を実践するための基礎を養うことを主眼にしていくつもりである。

保健体育理論(再クラス)

牧 野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体力づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論(再クラス)

宮 沢 栄 作

大学保健体育の目的をふまえ、我が国体育の変遷にふれ、併わせてその時代時代の体育の特長を明確にとらえさせることを導入とし、身体運動の意義とスポーツの持つ価値の再認識を生理、解剖学的根拠をもって図る。

具体的には、栄養学を含めた体力トレーニング論と、価値あるべきスポーツが、方法を誤ると重大な障害を引き起こすスポーツ障害の原因、予防、更に日常生活に於ける救急処置法等についてふれていきたい。また現在大きな問題となっているエイズについて、ビデオ等を教材として過ちのないよう指導をしたいと考えている。

随 意 科 目 (共 通)

宗教学概説

松 田 文 雄

初めに宗教学の研究方法、その領域、宗教学で用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科であることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察などをとりあげる。

〔教科書〕なし

〔参考書〕その都度指示する。

哲学概説

中 村 璋 八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源より、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説する。哲学・思想は洋の東西にかかわりなく、その地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生し、それを展開して行くものである。中国は広大であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』（明治書院）¥1,600

哲学概説

久 保 陽 一

科学技術の進歩は今日めざましいが、反面様々な弊害をもたらしつつある。産業廃棄物による環境破壊などは我々、地球上の生物の生存そのものを脅かしており、それ故、科学技術の進歩を単純に手離しで楽観視することはできなくなっている。それだけでなく、科学のみが「客観的真理」を保障するという信念は、科学的抽象によって切捨てられた現象を見失うことになりかねない、という問題もある。科学はむしろ、「真理」の或る一面だけを捉えられるにすぎず、科学以外のアプローチによる「真理」への道もあるのではないか、例えば芸術や宗教は、（科学によって見えなくさせられた）人間と世界との根源的関係を体験させられるのではないか、少くとも科学にはそのような補充が必要ではないか。このような問題を今年の講義では取り上げ、それを次のような題目に即して扱いたい。

- 1) 近代の科学主義と認識論（デカルト、ガリレオ、ロック～ヒューム、カント）
- 2) ドイツ観念論における形而上学復活（ラインホルト、フィヒテ、シュリング、ヘルダーリン、ヘーゲル）
- 3) ラッセルのヘーゲル批判と現代英米系の言語論的哲学
- 4) 芸術の哲学（アリストテレス、ニーチェ、ハイデガー等）

〔教科書〕田島節夫他『西洋哲学の展開』（公論社）

〔参考書〕渡辺二郎『現代哲学』（日本放送出版協会）

渡辺二郎『芸術の哲学』（ " ）

倫理学概説

国 嶋 一 則

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリスト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、功利主義等—現代における倫理の問題（生命環境

倫理学等)について考えることにしたい。
〔教科書〕開講時に指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム, アニマティズム, シャーマニズム, 妖術, 邪術, 死霊, 祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに, これら諸形態が, 日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。ときにスライドまたはビデオを用いる。

〔教科書〕佐々木宏幹編著『宗教人類学』
(新曜社) ¥2,200

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら, 神と人が織り成すさまざまな世界には, どのような意味があるのかを探っていききたい。そして, 民間信仰の性格や機能, あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

日本宗教文化史

松 田 文 雄

近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして, 受講生と共に講読する。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題, 新宗教の展開, 発達史を概観し, 主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』(大明堂)
¥2,000

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で, 歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を, 「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは, 今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが, そもそもは「他者理解」の問題, 「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』(世界書院)
¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美術を, 後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を, 時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例えば「明日香村の石造物」, 「浄土教の美術」など)スライドなどをとおして考察し, それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕久野 健他『美術史〈日本〉』
(東京堂出版) ¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代のさまざまな思想家たち(いわゆる「諸子百家」)の哲学思想を概観する。すなわち, まず儒家の孔子・孟子・荀子らの考え方を垣間見る。いわゆる「人性論」(人間存在の本質, 本性論)と「天命説」(運命論)を機軸に, その思想の流れを把握する。

その際, これを墨家の思想と対比させることによって, そのおのおのの思想的特質を一層きわだたせたい。文字通り「似ていて非なる」儒家と墨家の両思想が, より明確になるであろう。

かくして, 中国古代における人性論と天命説の大きな流れが, ひととおり概観されることとなるであろう。

〔教科書〕館野正美著『中国古代思想管見』
(汲古書院) ¥1,200

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について講述する。

日本民俗学

谷口貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期（誕生・成年・結婚・厄年など）に行われる人生儀礼（通過儀礼）を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

英会話Ⅱ

P. A. Bendinelli · T. A. Grange
W. Hubbard · D. J. Nolan
J. K. Wells · P. Ziegler

全学で6クラスを設け、学部および短大の2年次生以上を対象とします。1年次で英会話Ⅰを履修した学生を対象とするクラスとそれ以外の初修者も参加できるクラスがあります。各担当者の講義内容（syllabus）を参考にし、場合によっては受講希望クラスの担当教師に相談してください。

担当者、曜日、時限、クラスは時間割表で確認してください。

P. A. Bendinelli

A course for highly motivated students.
(UPPER LEVEL II CLASS) Class will be student orientated, not teacher orientated.
Details in first meeting.

T. A. Grange

"...the English language is nobody's special property..."

You must learn to listen. Carefully.
And you must talk. Talk, talk, talk, talk,
talk, and talk some more. To your class-
mates. To yourself. To me.

"...it is the property of
the imagination..."

(Derek Walcott, Nobel laureate in
literature, 1992, quoted by Jervis
Anderson in "Derek Walcott's Odyssey",
The New Yorker, December 21, 1992)
W. Hubbard

This course presents the basic as well as more advanced language skills that one needs for everyday communication in English. The emphasis is on class interaction, comprehension, and application. A variety of dialogs, situations, topics and EIKEN oriented material will be used.

〔教科書〕 The text material will be decided depending on the ability of the students assessed at class time.

D. J. Nolan

At the core of this course is

- 1) a series of dialogues that are topical and should prove interesting to Japanese students, and
- 2) language activities that are meaningful and intellectually rewarding.

The material is advanced in the sense that it takes for granted the considerable familiarity Japanese students already have with English but recognizes a need to provide further opportunities to internalize what students have learned at lower levels.

The course specifically intends to help students prepare for the STEP tests (Eiken), either second level or higher, the targeted level depending upon the qualifications of those who apply.

Grades are determined on the basis of attendance, participation, and occasional short tests.

〔教科書〕 Dale Fuller/Clyde W. Grimm,
Milestones, Macmillan Language
House ¥1,800

J. K. Wells

Hello students! Welcome to my English ConversationⅡ course. Once again this year I hope to provide an opportunity for students to practice speaking English with

each other. So, if you like to speak English, please come to my class. There are no tests! See you in class!!

P. Ziegler

The course will consist of exercises designed to expand student vocabulary and improve oral communication skills. A wide variety of materials will be used.

[教科書] Mark Twain Huckle berry Finn
Yohan, ¥720

英語L L II

T. J. Cogan・岩山 義春
大庭直樹

英語L L Iのアドバンスト・コースとして全学で3クラスを設け、学部及び短大の2年次生以上を対象とします。1年次に英語L L Iを履修しなかった学生も参加できるようにしてあります。最後までやり通す意欲ある学生を歓迎します。

担当者及び曜日、時限、クラスは時間割表で確認して下さい。

T. J. Cogan

In this intermediate-advanced course we will study American English through video. The text this year will probably be either a popular movie or a video series. Since the class will be small, there should be ample opportunity for students to discuss in English what they see on the screen. The purpose of the course is to improve each student's ability to comprehend and speak English at a fairly high level. The course will be conducted entirely in English. I will announce the text on the first day of class.

岩山 義春

聞き取りと表現力の向上をめざします。毎週話題となっているニュースを選び、それを繰り返し聞き、英文でアウトラインを書いてもらい、毎回提出してもらいます。書くことなくして英会話上達はありません。毎回の熱心なクラス参加を強く望みます。

テキストはプリントを使用します。

大庭直樹

前期と後期にビデオ映画(英語の字幕付き)をそれぞれ1本ずつ観る。前期は、会話表現、語法等を検討しながら、各場面を英語で要約することに重点をおく。後期は、映画の各場面について、フリーにディスカッションする形式をとりながら、発話力を身につけていく。授業は英語でおこなう。

ドイツ語F

柴野 博子

我々がドイツ文化をどうとらえているか、また、ドイツ人が日本文化をどうとらえているか、といういわゆる異文化理解の問題は、国際化がさげばれている今日、非常に重要なテーマだと思います。そこで本年は、ドイツ人の講演や新聞・雑誌の記事等を手がかりにして、この異文化理解の問題を考えていきます。

なお、テキストは、随時コピーしてお渡しします。

ドイツ語F L L (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語F L L (中級)

松岡 晋

本講義はF L L (初級)修了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、受講してかまわない。また初級・中級の両方を同時に履修してもさしつかえない。

学習上の目標は、毎年秋におこなわれる「ドイツ語検定試験」(独検)の四級ないし三級に合格できるための会話力・耳からの理解力・文章理解力の養成にある。

目標をもってドイツ語を学ぶ意欲のある学生の受講を期待している。テキストはコピーを用意するが、受講者の希望もとり入れる。

[教科書] コピーを配布する。

フランス語F

桑田 禮彰

フランスの文化と社会を、いくつかのテーマに沿って具体的に概観しながら、日本との違いを考えていきます。テーマとしては、家族/教育/趣味/宗教/思想などを予定しています。いずれの

場合も、フランスの最新の社会科学・人文科学の成果を紹介しながら、授業をすすめます。出席者には資料を配布します。資料にはフランス語のものど日本語のものがありますが、フランス語の初心者でも歓迎します。フランス文化とフランス語は不可分です。この授業は特にフランス文化に重点を置き、フランス語については、出席者各人の能力を考慮した指導をしていきます。フランスという鏡に映る日本を見極めようとする意欲的な人の出席を望みます。

〔教科書〕 使いません。

〔参考書〕 授業の中で指示します。

フランス語 F L L (初級)

小 玉 齊 夫

ビデオ教材を利用して、初級の聞きとり・会話の練習を行います。この授業の良さは、自由な発想のもとに、教える者も教えられる者も、2年生も4年生も平等に、友愛感に溢れた雰囲気、しかも少人数で、フランス語に親しめるといふ点でしょう。ともすれば文字と文法とに片寄りがちなこれまでのフランス語習得を、音と映像とで補うのが主たる目的ですが、事情が許せば、フランスの絵画や映画を見に外へ飛び出したい、とも思っています(昨年は皆でvinをすすって、フランス文化を「実践」したりしました)。

授業時間が少いのが難ですが、その気になれば、一年後には初歩のフランス語会話は出来るようになる、はずです。Bon courage!

〔教科書〕 『Avec Plaisir 1』 (4月にLL事務室で購入のこと)

フランス語 F L L (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、少し高度な聞きとり、及び表現の練習をします。

教材は教室で指示します。

中 国 語 F

釜 屋 修

中国の民衆の生活の実態を微型小説(ショート・ショート)、新聞記事などを通してさぐりつつ、中国語読解能力の向上をめざします。中国語学習歴一年以上またはそれと同等の力を有し、中国と中国語に関心をもつ諸君を“熱烈歓迎”。

毎時間簡単な中国語会話の練習もとります。独自プリントを開講時に配布します。

〔参考書〕 開講時に紹介します。

中国語 F L L (初級)

松 本 丁 俊

ビデオ教材を使って、会話と聴き取りの練習をします。中国語 I 既習でいどの基礎力が必要です。ビデオの内容は、ごく日常的な場面での会話ばかりで、楽しく学んでいけると思います。

発音の復習から始めますので、イチからやり直したい人、中国語 I A・B の成績が芳しくなかった人でも大丈夫。

中国語 F L L (中級)

小 川 隆

中国語を1年以上履修したか、またはそれと同程度の学習歴のある人を対象に、映画・テープ等を使った会話と聴き取りの訓練を行います。新たな知識の獲得よりも、既習の知識の耳と口への定着を主な目標とします。教材はプリントを用意しますが、適宜、基本的な文法知識の復習を行うため、下記の教科書を毎回持参して下さい。

〔教科書〕 山下輝彦『中国語の入門』(白水社)
¥1,800

スペイン語 F

アウロラ・ベルエタ

1・2年でおぼえた基本のスペイン語を身につけよう! 最新のビデオを見てかんたんな会話をどういうコンテキストの中で使うかをたしかめてから実際に声を出して自分のものにします。必要に応じてカセットテープも使う予定です。

〔教科書〕 VIAJE AL ESPAÑOL 『SELF-ACCES COURSE』

BOOK 2』SANTILLANA発行
発売元：伸興通商株式会社 ¥2,000
Tel. (03)3353-1751

スペイン語F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度L L初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の表現力を身につけるための平易な読みものを取りあげ、ロシア語らしい言いまわしや、語いを広げて様々なスタイルのロシア語文に馴れてもらうことを主眼とし、第二には最新版のアガニョークやリテラトゥールナヤ・ガゼータの記事を取りあげ、現代ロシア社会のひずみや歪んだ部分に光をあててみたい。

〔教科書〕教場にてプリントを配布。

〔参考書〕露語辞書、NHKロシア語初級教科書の文法表（この教科書をもっていない人は文法表をさしあげます。）

ロシア語F L L (初級)

木村 英明

日常会話に役立つ簡単な表現をやさしい文章を用いて練習します。発音、イントネーションに重点をおいた反復練習により初等ロシア語の知識を耳と口から身につけることを目的とします。特に、

最初の段階では受講者一人一人の発音上の欠点を分かりやすく指摘し、正しいロシア語の発音に慣れるようにします。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語F L L (中級)

滝川 ガリーナ

ロシア語の正規授業を履修した人または同程度の学習体験を有する人を対象とします。ロシア語独特の言いまわし、イントネーションを小話等の短文を用いながら受講者の能力に応じて修得することを目的とします。またロシア語を通じユーラシア大陸におけるロシア連邦、各共和国、諸民族の生活や文化にもふれます。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

英 語 (海外演習)

この授業科目は、クインズランド大学・プリティッシュコロンビア大学・エクセター大学における短期留学セミナーでの四週間に及ぶ現地演習を中心として行なわれる英語随意科目である。受講対象学生は、全学部の1年次生から卒業年次生までとする。

現地演習後に三大学より受講生の成績・評価等が出される。仏教学部、文学部、短期大学の受講生には単位認定がなされる。

国文学科

基礎教育科目

基礎国文学 (高田 知波)	73
基礎国文学 (畑 實)	73
基礎国文学 (勝原 晴希)	73
基礎国語学 (若杉 哲男)	73
基礎中国文学 (中村 璋八)	73

専門教育科目

国文学概論 (水原 一)	74
国語学概論 (木村 晟)	74
国文学講読Ⅰ (村上 光徳)	74
国文学講読Ⅰ (田中 徳定)	74
国文学講読Ⅱ (高橋 文二)	74
国文学講読Ⅱ (田中 徳定)	74
国文学講読Ⅲ (日向 一雅)	74
国文学講読Ⅲ (林 達也)	75
国文学講読Ⅲ (富士 昭雄)	75
中国文学講読 (功刀 正)	75
国語学研究 (木村 晟)	75
国語学研究 (大友 信一)	75
国語学研究 (田中 章夫)	75
国文学史 (上代) (遠藤 宏)	75
国文学史 (中古) (日向 一雅)	76
国文学史 (中世) (村上 光徳)	76
国文学史 (近世) (林 達也)	76
国文学史 (近代) (勝原 晴希)	76
国語学演習Ⅰ (木村 晟)	76
国文学演習Ⅰ (上代) (小野 寛)	76
国文学演習Ⅰ (中古) (高橋 文二)	76
国文学演習Ⅰ (中古) (田中 徳定)	76
国文学演習Ⅰ (中世) (水原 一)	77
国文学演習Ⅰ (中世) (村上 光徳)	77
国文学演習Ⅰ (近世) (林 達也)	77
国文学演習Ⅰ (近世) (富士 昭雄)	77
国文学演習Ⅰ (近代) (勝原 晴希)	77
国文学演習Ⅰ (近代) (高田 知波)	77
国文学演習Ⅰ (近代) (畑 實)	77
国語学演習Ⅱ (木村 晟)	77
国文学演習Ⅱ (上代) (小野 寛)	78
国文学演習Ⅱ (中古) (高橋 文二)	78
国文学演習Ⅱ (中古) (田中 徳定)	78
国文学演習Ⅱ (中世) (水原 一)	78
国文学演習Ⅱ (中世) (村上 光徳)	78
国文学演習Ⅱ (近世) (林 達也)	78
国文学演習Ⅱ (近世) (富士 昭雄)	78

国文学演習Ⅱ (近代) (勝原 晴希)	78
国文学演習Ⅱ (近代) (高田 知波)	78
国文学演習Ⅱ (近代) (畑 實)	79
国文学研究 (高田 知波)	79
国文学研究 (畑 實)	79
国文学研究 (村上 光徳)	79
国語学史 (大友 信一)	79
言語学概論 (飯島 周)	79
上代文学講読 (小野 寛)	79
近代文学講読 (勝原 晴希)	80
上代文学 (小野 寛)	80
中古文学 (田中 徳定)	80
中世文学 (水原 一)	80
近世文学 (富士 昭雄)	80
近代文学 (勝原 晴希)	80
近代文学 (高田 知波)	80
国文学特講Ⅰ (三浦 廣子)	80
国文学特講Ⅰ (延広 真治)	81
国文学特講Ⅱ (佐伯 真一)	81
国文学特講Ⅲ (後藤 祥子)	81
中国文学 (中村 璋八)	81
中国文学演習 (中村 璋八)	81
中国文学概論 (南雲 智)	81
仏教概論 (平井 俊榮)	81
東洋思想研究 (館野 正美)	82
日本史概説Ⅰ (古代・中世) (渡辺 直彦)	82
日本史概説Ⅱ (近世・近代) (木槻 哲夫)	82
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘)	82
書道概論 (書論・鑑賞) (金子 卓義)	82
書道史 (那須 隆吉)	82
書道実習Ⅰ (金子 卓吉)	82
書道実習Ⅱ (富岳 智猛)	82
書道実習Ⅲ (那須 隆吉)	83
美術史概説 (中島 亮一)	83
現代美術 (矢野 陽子)	83
編集実務 (長谷川 孝)	83
英米文化 (荒井 良雄)	83
日本民俗学 (谷口 貢)	83
有職故実 (大塚 英子)	83

国 文 学 科

基礎教育科目

〔教科書〕『日本の詩歌 22 三好達治』
『 同 23 中原中也ほか』
(いずれも中公文庫)
立原についてはプリントを配付する。

基礎国文学

高 田 知 波

夏目漱石『坊っちゃん』, 川端康成『伊豆の踊子』, 村上春樹『ノルウェイの森』という3つの一人称小説を取り上げ, 大学で学問として近代小説を《読む》とはどういうことかについて学習する。受身で講義を聴くのではなく, 自分自身の《読み》を教師の《読み》と対決させるような能動的な姿勢を受講者全員に望みたい。

〔教科書〕夏目漱石『坊っちゃん』(新潮文庫)
川端康成『伊豆の踊子』(新潮文庫)
村上春樹『ノルウェイの森』
(講談社文庫)

基礎国語学

若 杉 哲 男

文語より口語への国語の史的変遷の考察を直接の目的とするが, 広く国語学の諸分野(音声・意味・語彙・文字・方言等)へも出来るだけ触れて, 国語に対する教養を深め識見を高め, 更には将来の各専門分野の研究に資するようにしたい。辞書必携。

〔教科書〕和田利政・森 昇一・岡崎正継著
『国文法要説』文語篇(桜楓社)
¥1,500

基礎国文学

畑 實

明治の文学評論

明治期に出た代表的な評論を読んでいく。その結果, 近代文学評論の発展の跡をたどっていく事になる。テキストはプリントを配布する予定。

基礎中国文学

中 村 璋 八

中国の先秦時代より唐・宋時代に至る散文・韻文, それに諸子百家を始めとする思想的な作品を歴史的な背景を考えながら解説し, それによって中国古典の読解力を養い, また, 漢字の構成, 中国の風土や習慣なども説明し, それらの中国の文化が如何に日本に伝来し, 日本の文化一般に影響を及ぼしたかも述べて行く。この講義によって中国古典・日本の漢詩文が抵抗なく読めるようにしたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』(明治書院)
¥1,600

基礎国文学

勝 原 晴 希

『四季』の詩人たち

高校の教科書に採用されることの多い『四季』の詩人たちを取り上げ, そこに共通に見られる特徴を抽出する。文学作品の〈鑑賞・享受〉と〈分析・研究〉の違いをはっきりとさせたい。①『四季』について, ②三好達治『測量船』, ③立原道造『萱草に寄す』, ④中原中也『山羊の歌』, ⑤その他の詩人たち, の順で進めていく。

専門教育科目

国文学概論

水原 一

国文学の領域、種類、思想的・芸術的理念について国文学史の視野から各種作品の実列に触れつつ講じ、研究課題・研究法等について概観する。
〔教科書〕麻生・松田・市古著『日本文学概論』（秀英出版）¥1,900

国語学概論

木村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って一般言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることが当然あり得る。しかしながら、一方国語には他の諸言語に見られない多くの特徴がある。そのため国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。—— こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置く。

- 〔教科書〕福島邦道著『国語学要論』（笠間書院）¥1,000
〔参考書〕橋本進吉著『国語学概論』（岩波書店）
時枝誠記著『国語学原論』（岩波書店）
山田忠雄著『国語学概論』（日大通信教育部）

国文学講読 I

村上 光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、つまり、語りもの・読みものなどの問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて多方面から平家物語を研究してゆく。

- 〔教科書〕『平家物語抄』（桜楓社）
〔参考書〕『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読 I

田中 徳定

古典文学の代表的作品である『源氏物語』の「桐壺」巻を読みながら、本文の読解方法及び作品研究の方法について学んでいく。また、古典文学に関する基礎的知識についても、小テスト等によって確認していく予定。

- 〔教科書〕『源氏物語（一）』（明治書院）¥1,200
〔参考書〕『日本文学史辞典・古典編』（角川書店）

国文学講読 II

高橋 文二

『更級日記』を読み、そこに表れた作者の自然観、宗教観、人生観を『源氏物語』の作者のそれらと比較対照しながら、女流文学世界の特質を考えたい。

- 〔教科書〕『翻刻・校注・影印 更級日記』（笠間書院）¥1,400
〔参考書〕高橋著『風景と共感覚』（春秋社）

国文学講読 II

田中 徳定

歴史物語である『大鏡』を読みながら、『大鏡』の捉えた平安貴族社会のありようについて考える。
〔教科書〕『大鏡』（角川文庫）¥640

国文学講読 II

日向 一雅

伊勢物語を読む。古注釈を利用しながら、この作品の多義的な面白さを分析し検討してみる。

- 〔教科書〕阿部俊子『伊勢物語』上・下（講談社学術文庫）

国文学講読Ⅲ

林 達 也

井原西鶴の『西鶴諸国咄』を精読して、西鶴の雑話ものの世界に親しむことにしたい。本年は前半を読む。

〔教科書〕野田寿雄『校註西鶴諸国咄』
(笠間書院)

国文学講読Ⅲ

富 士 昭 雄

西鶴の『懷硯』を講読し、西鶴の文学の特質を考察する。

〔教科書〕箕輪吉次編『懷硯』(おふう)(旧名・桜楓社) ¥2,500

中国文学講読

功 刀 正

一年時の学習を基礎に、先秦諸子百家・漢魏六朝・唐宋八家の代表的な文を解説し、中国文学の理解を深め、鑑賞力を涵養する。また、中国文学の日本文学への影響なども明らかにしてみたい。

〔教科書〕『中国思想文学通史』(明治書院)
¥1,600

国語学研究

木 村 晟

禅籍抄物の一つである『火堯和尚再吟』の国語学的研究を行なう。本抄は室町末期から近世初頭の国語研究資料として良質のものである。指定辞『ソ』による文体の口語性の高い万治二年の写本で、音韻・語法・語彙・表記の各方面にその特徴がよく見られる。中でも表記・用字面に禅籍抄物特有の借字『ア郎ズ』『走ズ』『指シマイ』『シ羊ダ』等の用法や撥音便・促音便の特にも興味深い。打消の助動詞「ナイ」も現われ、東国語成立の様相も窺われる。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。

〔教科書〕国語学国文学研究資料 1
『禅籍抄物火堯和尚再吟略注』

かみりん
翰林書房 ¥2,700

〔参考書〕授業中に紹介する。

国語学研究

大 友 信 一

「禅籍抄物」の一つである『火堯和尚再吟(略注)』を研究対象として取上げる。

近世の写本の影印もあるので、生の姿がしのばれる。まずは翻字の仕方、次に略注を参考にし辞書を引ながらの語釈と読解、そして問題となる文字・仮名遣・語彙・語法・文法を抽出し、先人の研究文献を参照しながら、各自、自分なりにその問題解釈をはかる。

〔教科書〕『禅籍抄物火堯和尚再吟略注』

翰林書房 ¥2,700

〔参考書〕講義中に指示する。

国語学研究

田 中 章 夫

日本語の語彙について、その性格を見わたす。前期は、類義語・対義語などを中心に、語彙の意味的構造と、外来語・漢語・和語など、語種の面での特徴を考察する。

後期は、語彙量・基本語彙・語彙調査など、語彙の量的構成のほか、史的変遷や地域的分布・位相による差異などにも触れる。

〔教科書〕プリント配布

〔参考書〕『講座・日本語の語彙』全12巻(明治書院)

田中章夫『国語語彙論』(明治書院)

玉村文郎『語彙の研究と教育(上・下)』

(国立国語研究所)

国 文 学 史(上代)

遠 藤 宏

文学の発生から奈良時代末の文学まで、上代の文学の展開を具体例に基づいて通観する。

〔教科書〕小野 寛・金井清一編『年表資料 上代文学史』(笠間書院)

国文学史(中古)

日向一雅

枕草子の日記的章段を主に取りあげて、枕草子と漢詩文との関わり、枕草子の方法の特色について検討しながら、その文学史的位置を考えてみる。
〔教科書〕増田繁夫校注『枕草子』(和泉書院)
¥2,500

国文学史(中世)

村上光徳

新古今和歌集をはじめとする中世和歌史を講ずる。

国文学史(近世)

林達也

近世文学を、歴史状況との関連、表現論・文体論・作家論等にわたって検討する。本年は、近世小説の恋の描かれ方を中心にして考えていくことにする。教材は、教場において、その都度配布する。
〔参考書〕原道生・林達也編『日本文芸史』
〔第四巻 近世〕(河出書房)

国文学史(近代)

勝原晴希

日本近代文学の始発

江戸から明治へ。何が受け継がれ、断ち切れ、また新たに生み出されたのか。私たちの対象とする〈日本近代文学〉とは、いったい何であるのか。『小説神髓』、『新体詩抄』、与謝野鉄幹の転回、正岡子規の意図など、近代文学形成期の諸相について、さまざまなジャンルにわたって考察する。近代文学研究史についても触れる予定。

〔教科書〕プリント配布。

〔参考書〕柄谷行人『日本近代文学の起源』
(講談社文芸文庫)

国語学演習 I

木村 晟

室町時代の国語資料である『仮名がき論語』の国語史的研究を行う。音韻・語彙・語法・仮名遣いの各方面から考察し、この資料の室町期の口頭語的性格や、古代からの伝統的な訓法の残存していることなどについても追究したい。またほぼ同時代成立の『論語抄』や『論語聞書』等の抄物の語法とも比較考察を加えたい。『名義抄』『字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の辞書類は常に参照する。
〔教科書〕プリントを用意する。
〔参考書〕授業中に紹介する。

国文学演習 I (上代)

小野 寛

『万葉集』から作品を選んで、各自一首ずつ担当し、本文の異同、諸注釈の検討、用語の調査研究など、徹底的によみ込んでゆく。今年度は、万葉集巻三の研究とする。
〔教科書〕鶴久・森山 隆編『万葉集』
(桜楓社)
〔参考書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)

国文学演習 I (中古)

高橋 文二

『源氏物語』の「螢」の巻を読み、王朝女流文学世界の特徴を考える。この巻には作者の物語観が披瀝されていると思われるので、本居宣長の『紫文要領』などをあわせ読みながら、王朝の物語の特徴についても考えたい。
〔教科書〕日本古典全書『源氏物語』3
(朝日新聞社) ¥1,500
〔参考書〕高橋著『物語鎮魂論』(桜楓社)

国文学演習 I (中古)

田中 徳定

『今昔物語集』を中心として、説話文学の伝承の様相について考えていく。特に、院政期あるいはその前後に成立した仏教説話集との関係について

では、丹念に比較検討を行う予定。

〔教科書〕今野 達編『新注今昔物語集選』（大修館書店）¥876

国文学演習Ⅰ（中世）

水 原 一

鴨長明研究。『方丈記』、『無名抄』、『発心集』など中世文学史上に注目すべき作品を残し、数奇な生涯を歩んだ隠者長明の、作品と人物の研究を行なう。時代背景となる新古今歌壇にも眼を及ぼすつもりである。

〔教科書〕授業中に指示する。

国文学演習Ⅰ（中世）

村 上 光 徳

『十六夜日記』の研究。その作者の生きざま、和歌の家の問題、和歌史、東海道の道行き文学等々を考察する。

国文学演習Ⅰ（近世）

林 達 也

上田秋成の演習。本年は、一昨年、昨年にひきつづき初期の『諸道聴耳世間猿』を読むことにする。尚、受講学生の数によっては、別の演習方法をも併せ行うことも考えている。

国文学演習Ⅰ（近世）

富 士 昭 雄

西鶴の『万の文反古』の読解を通して、西鶴の雑話物の特質を解明する。

〔教科書〕岡本 勝編『万の文反古』（おうふう〈桜楓社〉）¥2,200

国文学演習Ⅰ（近代）

勝 原 晴 希

戦後前期の短編小説

石川淳『焼跡のイエス』（昭21）から古井由吉『先導獣の話』（昭43）まで、戦後前期の代表的短編12篇を各2週かけ、読んでいく。同時期の政治・社会状況にも目配りをし、戦後史への理解をも少しでも深めたい。

〔教科書〕上杉省和・大里恭三郎編『現代短篇小説集』（双文社出版）¥1,700

国文学演習Ⅰ（近代）

高 田 知 波

〈近代の小説〉を年間テーマとする。明治大正期に書かれた代表的な小説を読んでいく。

〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習Ⅰ（近代）

畑 實

明治期の小説

明治に出た主要な作品を取りあげて演習を行う。取りあげる作品演習方法等は最初の時間に指示する。

国語学演習Ⅱ

木 村 晟

室町時代の天文頃の写本『和漢朗詠私注』（影印本）の国語史的研究を行う。同じテキストの中に収録されている「内閣文庫本」（室町時代写本）と比較しながら、特に本書に有つ豊富な傍訓を逐一的に採り挙げ、音韻・語法・表記（特に仮名遣い）について国語史の立場から考察する。『類聚名義抄』『色葉字類抄』『節用集』『日葡辞書』等の古辞書の類は常に参照する。併せて卒論指導も行う。

〔教科書〕山内潤三他編『和漢朗詠集私注』（新典社）¥2,500

〔参考書〕授業中に紹介する。

国文学演習Ⅱ（上代）

小 野 寛

記紀・風土記・万葉集など上代作品から名品を選んでよんでゆく。とり上げる作品は、開講時に相談してきめる。後期には、各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、みんなで考え、採み合いながら、それぞれの卒業論文への結実を図る。

国文学演習Ⅱ（中古）

高 橋 文 二

『古今和歌集』を読み、王朝文学世界の特質について考える。併せて卒論の指導をかねる。
〔教科書〕『古今和歌集』（新典社叢書）¥1,800
〔参考書〕高橋著『風景と共感覚』（春秋社）

国文学演習Ⅱ（中古）

田 中 徳 定

院政期を中心とした説話文学の研究。一つの説話の伝承過程を丹念に追いながら、時代や伝承者によって説話が変化していく様相を捉えていく。とりあげる説話については受講者と相談のうえ決める。

国文学演習Ⅱ（中世）

水 原 一

『山家集』を中心に、西行法師研究を試みる。『西行物語』『西行法師絵巻』『撰集抄』など周辺資料をも検討し、西行の人生・美意識・時代背景などについて考察する。
〔教科書〕後藤重郎『山家集』（日本古典集成）（新潮社）

国文学演習Ⅱ（中世）

村 上 光 徳

『平家物語』の研究。本年は特に「巻二」が中心。『平家物語』各テキストの比較検討を介して作品論・人物の考察を行う。

国文学演習Ⅱ（近世）

林 達 也

近世文学の作品を読み、作品の読解方法を身につけることを目的とする。読む作品は、開講時に、学生と相談のうえ、きめる。

国文学演習Ⅱ（近世）

富 士 昭 雄

受講生の卒業論文のテーマに関する近世文学の演習。併せて卒業論文の指導をする。
〔教科書〕教場でプリントを配布する。

国文学演習Ⅱ（近代）

勝 原 晴 希

学生の卒業論文テーマと関連させながら、主として昭和期の文学作品（ジャンルは問わない）を対象にした演習を行う。
〔教科書〕各種文庫及びプリント。

国文学演習Ⅱ（近代）

高 田 知 波

学生の卒業論文テーマと関連させながら、日本の近代小説を対象にした演習を行う。
〔教科書〕教場で指示する。

国文学演習Ⅱ（近代）

畑 實

大正期の小説

大正に出た主要な作品を取りあげて演習を行う。またあわせて卒業論文の指導も行う予定。取りあげる作品演習方法等については最初の時間に指示する。

国文学研究

高田 知波

〈一人称小説の構造〉を年間テーマとする。作中人物の一人が語り手を兼ねる形式の小説の特色を、具体的な作品に即しながら考察してみたい。
〔教科書〕教場で指示する。

国文学研究

畑 實

坪内逍遙と二葉亭四迷

坪内逍遙と二葉亭四迷の評論および小説を読み、近代文学成立期の問題を考えてみたい。テキストはプリントを配布する予定。

国文学研究

村上 光徳

中古の文学や作者についての中世に書かれた批評書『無名草子』の後半、平安女性批評論を中心に読む。

本書の作者は平安時代末から中世にかけて長く宮仕えをして宮廷生活の馴者として自他ともに許された、と自称する八十三歳の老尼と若い女性数人とで話は進むが要を得た批評がよい。作者の問題も考えてみたい。

〔教科書〕『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

国語学史

大友 信一

16・17世紀の外国人による日本語研究の時期を境にして、前期（古代・中世）と後期（近世・近代・現代）とに二分し、後期に力点を置く。

特に、いわゆる国学者の係結びの研究、西洋文典の導入と和化、主たる文法学説の展開、そして音響音声学と音韻語の進展を詳論したい。

なお、最近の、外国人に対する日本語教育の成果を踏まえた「対照日本語学」についても触れたい。

〔教科書〕此島正年『国語学史概説』（おうふう）¥1,900

〔参考書〕講義中に指示する。

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、方法、分野について略述し、“ことばの仕組み”や“ことばのはたらき”について具体的な分析を試みる。日本語を主な対象とするが、初歩的な英文法の知識を持つことが望ましい。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕V. マテジウス『機能言語学』（桐原書院）¥2,890

上代文学講読

小野 寛

上代とは奈良時代とそれ以前をさす。それは日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書記』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。そこにはまた「うた」が多く含まれている。古代人たちが節をつけ、楽器を伴奏に、唱い踊ったものである。これを「歌謡」という。そして「うた」はやがて文字で書き記されるようになり、記載文学としての「和歌」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

近代文学講読

勝原晴希

三島由紀夫『金閣寺』を読む。

〈自分を客観して、一人の芸術家の固定観念となった美意識が行動の場でどうつきぬけられて行くか、それを書きたかった〉と作家自らが語る、三島の代表作『金閣寺』を精読する。①年譜概観、②『金閣寺』第1～10章、③金閣放火事件との対照、④「花ざかりの森」から「憂国」まで、の順で進めていく。

〔教科書〕三島由紀夫『金閣寺』
同『花ざかりの森・憂国』
(いずれも新潮文庫)

上代文学

小野寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』を読むにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについて詳細にしらべながらよんでいく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕小野寛著『新選万葉集抄』
(笠間書院)
〔参考書〕金井清一・小野寛編『年表資料
上代文学史』(笠間書院)

中古文学

田中徳定

『後拾遺和歌集』の和歌解釈を中心に据えながら、和歌解釈の方法と八代集における歌風の変遷について考えていく。

〔教科書〕『平安詩歌選』(和泉書院)
¥1,500

中世文学

水原一

『平家物語』を伝本比較の角度から読み、表現や題材・思想などの多角的な背景を探究してみる。

併せて時代の実相理解に有効な、歴史書・公卿漢文日記等にも接する機会を設けたい。

近世文学

富士昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。(昨年度の継続)
〔教科書〕萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』
(ワイド版岩波文庫) ¥1,000

近代文学

勝原晴希

太宰治『人間失格』を読む。

〈ただ、一さいは過ぎて行きます〉と語る主人公大庭葉蔵は、なぜ〈人間失格〉の位置にまで追い込まれていったのか。作品の分析を通じて、太宰治の戦後の姿勢について考察する。①年譜概観、②『人間失格』、③『斜陽』、④戦後の諸短篇と未完作『グッド・バイ』の順で進めていく。

〔教科書〕『太宰治全集9 斜陽・人間失格・グッド・バイほか』(ちくま文庫)

近代文学

高田知波

明治前期の小説群の中から、二葉亭四迷『浮雲』と樋口一葉『たけくらべ』を取りあげ、精読していく。

〔教科書〕二葉亭四迷『浮雲』(岩波文庫)
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』
(新潮文庫)

国文学特講 I

三浦廣子

聖僧墮落を扱った清玄桜姫の物語は、歌舞伎・浄瑠璃に取り上げられて一つの世界を形成し、多くの作品を生むもとになった。鶴屋南北の「桜姫東文章」も清玄桜姫物であり、南北一流の「ない交ぜ」を用いた奇抜な趣向をもって知られている。この作に流れ入った種々の伝承や先行作との関連

を考えながら「桜姫東文章」を読み解いてみたい。
テキスト・参考書は講義のなかで指示する。

国文学特講Ⅰ

延 広 真 治

芸能と説話。講談・落語・浪曲などの江戸の芸能を、説話文学とみて、考察を加えたい。

〔参考書〕『中村幸彦著述集』第10巻。

延広真治『落語はいかにして形成されたか』

国文学特講Ⅱ

佐 伯 真 一

中世説話文学を読む。説話が、説話集のみならず、中世文学のさまざまなジャンルに、姿を変えながら息づいている様態を観察したい。

〔教科書〕池上洵一他編『説話文学選（中世）』

（和泉書院）¥1,400

国文学特講Ⅲ

後 藤 祥 子

和泉式部を読む。家集と日記、周辺資料を読みながら、伝・歌人的特質・文学史的位置づけなどを考察する。

〔教科書〕清水文雄編『和泉式部集・続集』
（岩波文庫）¥500

〔参考書〕佐伯梅友・小松登美『和泉式部集全釈』
『同続集全釈』（東宝書房・笠間書院）
増田繁夫『冥き途——評伝和泉式部』
（世界思想社）

中国文学

中 村 璋 八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれ

ている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

中国文学演習

中 村 璋 八

中国の風土の中から自然に発生した漢民族の智慧の結晶でもある易の書は、その後、儒教の根本経典、五経の第一に位置付けられ、「易経」として重要視され、長い時代、多くの人々に読まれた。この易は、占卜の書であると共に中国人の世界観、人生観をも記したものであり、中国の思想、宗教、文学にも大きな影響を及ぼしている。それだけでなく、日本の文学、宗教、習俗、建築など広い範囲に、その影響が見られる。この「易経」を読んで行き、中国人の考え方を究めると共に中国古典、日本の漢詩文の読解力をも養って行きたい。

〔教科書〕中村璋八・古藤友子『周易本義』

（明德出版社）¥2,900

中国文学概論

南 雲 智

中国文学の主流とされる詩と文だけでなく、文字に書き表わされた作品（資料）を時間の流れとともに可能な限り通覧することで、この授業が中国人の文学観、美意識、思考様式といったものがどのようなものなのかを考えるきっかけとなればよいと思っている。

〔教科書〕基本的には使用せず、必要があればプリントを配布する。

仏教概論

平 井 俊 榮

仏教の基本的要素である仏（教祖）法（教義）僧（教団）の三宝の体系にしたがって、仏教の基本的教理を概説する。原始仏教・インド仏教が中心となるが、併せて中国仏教・日本仏教への歴史的展開についても概観することとする。

〔教科書〕高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）¥1,600

東洋思想研究

館野正美

中国古代のさまざまな思想家たち（いわゆる“諸子百家”）の哲学思想を概観する。すなわち、まず儒家の孔子・孟子・荀子らの考え方を垣間見る。いわゆる“人性論”（人間存在の本質、本性論）と“天命説”（運命論）を機軸に、その思想の流れを把握する。

その際、これを墨家の思想と対比させることによって、そのおのおのの思想的特質を一層きわだたせたい。文字通り“似ていて非なる”儒家と墨家の両思想が、より明確になるであろう。

かくして、中国古代における人性論と天命説の大きな流れが、ひととおり概観されることとなるであろう。

〔教科書〕館野正美著『中国古代思想管見』（汲古書院）¥1,200

〔参考書〕授業中に適宜紹介します。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。

〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』（中公文庫）（中央公論社） ¥860

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店） ¥4,800

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末

から江戸期にかけての文化について講述する。

書道概論（書論・鑑賞）

金子卓義

漢字の起源といわれる甲骨文字から現代書まで、時代背景や書者の心理などを探りながら、書の美を鑑賞してゆきます。殊に鑑賞を重点におき、直観的な鑑賞と理論的な鑑賞をバランスよくできるようにします。

書道史

那須隆吉

現在見ることの出来る最古の文字である、殷代の甲骨文字を始めとし、その後時代と共に著しく変遷していく書体、書風、書法を通覧しながら、深遠な書道の歴史を講じたい。

〔教科書〕伏見冲敬著『書の歴史』（二玄社）

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら、古典の臨書を学び、表現技術の習得と、書の理解を深める。前半（9月頃までは）楷、行、草の各体の古典を広く学び、後半は中国北魏時代の楷書『高貞碑』を細かに深く研究する。

〔教科書〕『書道Ⅰ』（高校用教科書）（教育出版）『高貞碑』（書学名蹟選）（日本書道資料㈱）

書道実習Ⅱ

富岳智猛

代表的な古筆である高野切古今集・関戸本古今集・寸松庵色紙などの臨書を基として、かなの単体・連綿体に習熟し、表現力・鑑賞力を養い、かなの成立・発達の概略、古筆の基礎知識を学び創作へ導く。

〔教科書〕『書の古典美』（書芸文化新社）『字典かな』（笠間書院）

書道実習Ⅲ

那 須 隆 吉

伝統芸術である書には、多様なジャンルがあるが、本講では篆書及び篆刻を中心に実習したい。篆書、篆刻は書の原点とも言えるものであり書を理解する上で大変重要である。

古典を概観し、その特質を理解すると共に基礎的技法の習得に努める。

〔教科書〕コピーを配布。

〔参考書〕適宜紹介する。

美術史概説

中 島 亮 一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美術を、後期は鎌倉時代以後（できれば江戸時代まで）の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し（例えば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など）スライドなどをとおして考察し、それぞれの問題点を検討する。

〔教科書〕久野健他『美術史〈日本〉』

（東京堂出版）¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

現代美術

矢 野 陽 子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

編集実務

長谷川 孝

情報社会の今、多様な情報を主体的に選択し活用できる力が求められ、さらに自分から情報を発信できる能力も大事です。自分の中にある知識や体験、意見や批判、感動や思いなどを、さまざまな社会の出来事や状況との関係の中でしっかりと掴みとり形を与えて、他者に伝わるように表現することです。この講義では、物書き・編集者としての私の体験を語りながら、文章と印刷による表

現（メディア）の担い手に必要な知識・技能や心構えと、なぜ・なにを・どう「伝える」のか、を考えていきます。また、個人のミニ新聞（雑誌）を作ってもらい、作り方とともに「ものごとを見る目」を育ててほしいと思っています。

〔参考書〕長谷川孝編著『新聞をつくろう』

（さ・え・ら書房 ¥1,236）を随時、使用します。

英米文化

荒 井 良 雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』

（新樹社）¥2,060

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期（誕生・成年・結婚・厄年など）に行われる人生儀礼（通過儀礼）を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

有職故実

大 塚 英 子

平安貴族社会の文化について、儀式書・有職故実書に記されている儀礼・年中行事や服飾の制度を詳説し、物語や絵巻に描かれる風俗との関係を考察する。

〔教科書〕河籬実英『有職故実』（塙書房）¥1,900

奥平英雄『源氏物語絵巻』（保育社）

¥1,000

他、プリント使用。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論 (高松 雄一)	85
米文学概論 (杉浦 銀策)	85
基礎英語 I A (東 雄一郎)	85
基礎英語 I A (河崎 征俊)	85
基礎英語 I A (高野 正夫)	85
基礎英語 I B (N. Readdy)	85
基礎英語 I B (R. T. Rolf)	86
基礎英語 II A (東 雄一郎)	86
基礎英語 II A (河崎 征俊)	86
基礎英語 II A (高野 正夫)	86
基礎英語 II B (R. M. Baxter)	86
基礎英語 II B (N. Readdy)	86

専門教育科目

英語学概論 (坂本 武)	86
英語音声学 (坂本 武)	86
(平成元年度以前入学生：音声学)	
英作文 I (高野 正夫)	87
英作文 I (佐藤 千春)	87
英作文 I (R. T. Rolf)	87
英文学史 I (河崎 征俊)	87
英文学史 II (中岡 洋)	87
米文学史 (佐藤 千春)	87
英語史 (岡田 尚)	87
英文学演習 I (河崎 征俊)	87
英文学演習 II (広川 治)	88
英文学演習 III (荒井 良雄)	88
英文学演習 IV (高野 正夫)	88
(平成元年度以前入学生：シェイクスピア)	
英文学演習 V (高野 正夫)	88
英文学演習 VI (中岡 洋)	88
英文学演習 VII (高松 雄一)	88
英文学演習 VIII (芦澤 久江)	88
米文学演習 I (杉浦 銀策)	88
米文学演習 II (東 雄一郎)	89
米文学演習 III (佐藤 千春)	89
米文学演習 IV (松本 一裕)	89
米文学演習 V (R. T. Rolf)	89
米文学演習 VI (利根川 真紀)	89
英文学特講 I (石原 孝哉)	89
英文学特講 II (高野 正夫)	89
英文学特講 III (岡崎 寿一郎)	90
英文学特講 IV (中岡 洋)	90
英文学特講 V (高松 雄一)	90

英文学特講 VI (丸小 哲雄)	90
米文学特講 I (東 雄一郎)	90
米文学特講 II (杉浦 銀策)	90
米文学特講 III (原川 恭一)	90
米文学特講 IV (松本 一裕)	91
米文学特講 V (利根川 真紀)	91
英米演劇演習 (荒井 良雄)	91
英米演劇特講 (落合 和昭)	91
英米語学演習 (言語学) (R. T. Rolf)	91
英米語学演習 (音声学) (坂本 武)	91
英米語学演習 (英語史) (岡田 尚)	92
英米語学演習 (英文法) (岡田 尚)	92
英米語学演習 (英作文 II) (佐藤 千春)	92
英米語学演習 (英作文 II) (河崎 征俊)	92
英米語学演習 (英会話) (W. D. Hubbard)	92
英米語学演習 (英会話) (N. Readdy)	92
英米語学演習 (英会話) (B. Natusch)	92
英米語学演習 (英会話) (R. M. Baxter)	92
英米文化 (荒井 良雄)	92
時事英語 (坂本 武)	93
商業英語 (町井 靖)	93
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	93
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	93
現代美術 (矢野 陽子)	93

英 米 文 学 科

基礎教育科目

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕未 定。

英文学概論

高 松 雄 一

イギリス文学の基本的な問題について通史的に説明し、具体例をあげながら特質を明らかにしたい。

〔教科書〕教場にて指示する。

米文学概論

杉 浦 銀 策

アメリカ文学の史的展開および地域的多様性について講義を行う。テキストあるいは参考書については、教場において指示する。

基礎英語 I A

東 雄一郎

作品の精読を中心に読解力を高め、又作品の有益な表現から誘導式英作文へと進む。

〔教科書〕『老人と海』（南雲堂）¥1,200

基礎英語 I A

河 崎 征 俊

英語の基礎力の向上をねらいとします。したがって、Reading, Translation, Hearing, Composition などを中心とした総合的学習を行います。予習・復習を欠かさないことが大切です。

基礎英語 I A

高 野 正 夫

さまざまな英文を読みながら、総合的な英語力の向上を図るつもりです。

〔教科書〕教場にて指示します。

基礎英語 I B

N. Readdy

In the first semester, we will be using one of the textbooks in the English 900 Series. Emphasis will be placed on grammar, sentence structure, substitution drills and listening /comprehension skills. Group and individual participation is required.

In the second semester, we will be studying in preparation for the STEP Test level 3. Emphasis will be placed on pronunciation, intonation and individual speaking. The STEP Test is divided into two sections ; listening and speaking. This class will concentrate on the speaking part only as listening skills should have improved after the first semester.

There will be two examinations during the schoolyear and students are required to attend both to receive a grade.

Textbooks ; 1st Semester. To be chosen later depending on the ability of the class as a whole.

2nd Semester. All materials will be supplied by the instructor.

基礎英語 I B

R. T. Rolf

毎週集中的なりスニングの練習をして、そのテストを行う。発音の練習もする。

〔教科書〕 Kimie Saito 他著
Voices from America and Canada
(朝日出版社) ¥1,700

基礎英語 II A

東 雄一郎

2,300 語程度の作品を速読する。ペンギン版原書を読む。

〔教科書〕 『ベイビー・パーティ, 他』
(南雲社) ¥1,200

基礎英語 II A

河 崎 征 俊

英語の基礎力から応用力への向上をねらいとします。高度な英文構造の把握や、内容及び思考を必要とする Composition の演習を行ないます。予習・復習に努めて、積極的な学習を心がけることが大切です。

〔教科書〕 教場にて指示します。
〔参考書〕 未 定。

基礎英語 II A

高 野 正 夫

現代のイギリス作家の文章を読みながら、さまざまな英語的表現や言いまわしについてもふれていくつもりです。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 II B (会話)

R. M. Baxter

This class will be based on using primarily listening and speaking skills to promote effective communication. Students must

participate actively in English to attain fluency. This will be a rewarding class for those who put forth a good effort.

〔教科書〕 To be announced at the beginning of the term.

基礎英語 II B

N. Readdy

Method and materials similar to that of 1st year students but on a more intermediate level.

〔教科書〕 See content for 1st year students.

専 門 教 育 科 目

英語学概論

坂 本 武

英語学とは、英語を言語学の一部として捉え研究する学問である。なお言語学とは、音声学、文法論等を含め約10部門に分類されるが、それらに入る前の段階としての一般的、総論的知識の修得が必要となる。従って、この講義は、言語学や英米文学を学習しようとする学生諸君のために、その概説的知識を提供するものである。出欠は重視する。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英語音声学

(平成元年度以前入学生：音声学)

坂 本 武

言語学の一分野としての音声学は、当該言語学習の重要な基礎学問の一つである。本講義では、母音・子音・半母音についての調音音声学入門から、この科目に関する必須各論を講じる。音声記号のみをとりあげても、[t] や [f] をはじめとする初見のものが数多く出てくるので、十分注意して受講されたい。Tapeを併用して、nativesの発音に習熟してもらうよう配慮する。また、年間数冊のノート提出を求めるとともに、出欠およびassignmentsの提出は、いずれも重視する。過

去6年間学習してきた英(米)語発音について、各自の積極的な見直しが多分必要となろう。
〔教科書〕教場にて指示する。

英 作 文 I

高 野 正 夫

英作文を書く時に比較的誤り易い例文を、文法的に見ていきながら、基本的な英作文の力を養っていきます。
〔教科書〕教場にて指示します。

英 作 文 I

佐 藤 千 春

易しい英文の表現で、自分の考えを自由に書き記すことができるようになることを目指す。基礎力を充分に養ってもらいたい。テキスト、その他詳しい内容は授業開始の時に連絡する。

英 作 文 I

R. T. Rolf

英語の文章でイディオムの正確な使い方をマスターするのを重視する。又、勿論、英語のイディオム(つまり、語彙)の数を増やすのも強調する。可能なら、読書と作文との関係も探って見る。
〔教科書〕Robert J. Dixon著
Essential Idioms in English
(Prentice Hall Regents)

英 文 学 史 I

河 崎 征 俊

古代から中世をへて、ルネサンス及び18世紀までの英文学史を、時代背景、文芸思潮、作家、作品などの説明を中心に講義します。
〔教科書〕教場にて指示します。
〔参考書〕未 定。

英 文 学 史 II

中 岡 洋

英文学は世界に冠たる作品を数多く産み出してきた。Wordsworth, Scott, Austen らの時代以降それらの作品を年代順に跡づけ、現代に至る。不滅の作品群にふれる喜びを共に味わいたい。
〔教科書〕荒牧鉄雄・岡地 嶺著『英文学読本』
(開文社) ¥1,800

米 文 学 史

佐 藤 千 春

一般にアメリカの歴史は17c. から始まると言えるが、この地への植民がどんな夢を抱いてなされたものかという序論に始まり、ピューリタニズム、18c. の合理主義、やがてロマン主義へと、歴史は時代の動向と文芸思潮をからませながら進んで行く。この流れにそって、どのような作家が、どのような精神で、どのような作品を書きあげたのかを探ってみる。講義はできるだけ作家、作品の羅列を避け、作家の中心思想、作品の主要テーマなどに焦点をしばり分析と解説を行いつつ、これを味わってみたい。
〔教科書〕井上謙治編『アメリカ文学史入門』
(創元社)

英 語 史

岡 田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。
〔教科書〕教室で指示する。

英文学演習 I

河 崎 征 俊

14世紀の英詩人G. Chaucer の作品を読みます。詩人の後期の作品*The Canterbury Tales*を読みながら、大陸文学との関係を研究する予定です。積極的に授業に参加し、自らの研究に役立てるよう、着実に地道な努力を望みます。作品は、A. C. Baugh の edition をコピーにして配布します。詳細は開

講時に指示します。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕*A Chaucer Glossary*, ed. N. Davis
(Oxford U. P.)

英文学演習Ⅱ

広川 治

William Shakespeare (1564-1616) の *King Lear* を読みます。現代の英語とは異なる点もある Shakespeare の英語ですが、英米では台詞の一部が慣用句的に用いられたり、新聞、雑誌、文学作品に引用されたりと、その英語や作品の内容は文化の根底をなしています。

演習では、作品の精読を通して劇作家 Shakespeare の人生観、劇作術を考えていきます。
〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅲ

荒井良雄

イギリスの文化(文学・演劇・映画・美術・音楽など)についての英文の資料に基づく講読と発表とディスカッションが中心になる。各自が関心を持っている分野とテーマで小論文にまとめあげる作業を重視する。

〔教科書〕西崎一郎編『幸福な王子・他』(北星堂版) ¥950

英文学演習Ⅳ

(平成元年度以前入学生: シェイクスピア)

高野正夫

ロマン主義への移行期の詩人、グレイ、クーパー、コリンズなどの作品を読んでいます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅴ

高野正夫

30年代のオーデン、そして50年代のラーキンを中心に、現代詩人を読んでいます。

〔教科書〕教場にて指示します。

英文学演習Ⅵ

中岡 洋

Charlotte Brontë 作 *Jane Eyre* (1847) について勉強する。

〔教科書〕*Jane Eyre* (Penguin Classics)

英文学演習Ⅶ

高松 雄一

James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* を読む。ジョイスは20世紀モダニズム文学運動の中心人物の一人であるが、この自伝小説は基本的にリアリズムの手法によって書かれている。本年度の演習では特に後半を中心に厳密な訳読の訓練を行う。前半は要所を訳読して説明する。

〔教科書〕James Joyce, *A Portrait of the Artist as a Young Man* (英潮社)
¥2,300

英文学演習Ⅷ

芦澤久江

エミリー・ブロンテが書いた『嵐が丘』を読み、主人公キャサリンとヒースクリフの愛のあり方について考察する。

〔教科書〕Emily Brontë, *Wuthering Heighrs*
(Penguin Classics) ¥1,090

米文学演習Ⅰ

杉浦銀策

昨年はJ.D. Salinger の *The Catcher in the Rye* を読んだので、本年は同じ作者の短篇集 *Nine Stories* について勉強する。テキストは教場にて指示。

米文学演習Ⅱ

東 雄一郎

詩人・批評家ドナルド・ホール編の『アメリカの童心詩』を読みます。このオックスフォード大学出版のアンソロジーは絶版ですので、プリントを配布します。また同時に、エミリー・ディキンソンの作品を読みます。子どもの無垢で素直な驚き、その解釈は読者の手に委ねられます。ディキンソンの「欠乏の美学」、エクリチュールの詩人並びにランゲージ・ポエットとしての側面も考え合わせ、〈アメリカの子どもたちの詩〉を支える不可視の糸であるイロニーやウィット等の詩的要素を論じて下さい。子どもは無垢であるばかりか、残酷です。この意味では、シェル・シルヴァスタインの作品には、無気味な哄笑が潜んでいます。

〔教科書〕新倉俊一『ディキンソン詩選』
(研究社) ¥1,200

米文学演習Ⅲ

佐藤千春

Nathaniel Hawthorne (1804-64)は、エマソン、ソーロウ、ホイットマンに代表される、どちらかと言えば楽天的超絶主義が盛んな時代にあって、たえず人間に対し懐疑の念を抱きつづけ、暗い人間の内面を描いていた。その文学世界は、彼の影響を受けたメルヴィルの世界とつらなり、アメリカ・ルネッサンスにおいて一つの大きな流れを形成していると言える。ここではホーソーンを中心にこれらの作家との立場・関係にもふれつつ、この時代の展望を拓けてみたい。本年は“*Young Goodman Brown*” “*Minister's Black Veil*” その他を精読する。

〔教科書〕*Young Goodman Brown & Two Other Tales*
(グッドマン・ブラウン青年・他)
泉田 栄編注(北星堂) ¥1,100

米文学演習Ⅳ

松本一裕

エドガー・アラン・ポオの短篇を読み、現代的な視点から、さまざまな解釈を試みる。

〔教科書〕*Great Tales and Poems of Edgar Allan Poe*
(北星堂書店) ¥1,100

〔参考書〕Daniel Hoffman,
Poe Poe Poe Poe Poe Poe Poe Poe
(Doubleday) 約¥2,000

米文学演習Ⅴ

R.T. Rolf

19世紀後半アメリカ人女流作家ケート・ショパン(Kate Chopin)の傑作 *The Awakening*, そして、多くのショパンの短編小説を読んで、社会的且つ文学的な要素の立場から分析する。ルイジアナ州を舞台にするショパンの小説 *The Awakening* は、アメリカの地方文学の面白さもあるし、時代を越えて、女性の目覚めを描写する作品でも有る。

〔教科書〕Kate Chopin 著 *The Awakening*
(Bantam Classic)

米文学演習Ⅵ

利根川 真 紀

レイモンド・カーヴァー、アン・ビーティ、スーザン・マイノットなど1970-80年代に活躍を始めたベトナム戦争世代作家の短編を精読する。ニュー・ロスト・ジェネレーションと呼ばれることもあるこうした作家の作品と、1920年のロスト・ジェネレーションを代表するヘミングウェイの作品との比較も織りませ、その一方で現在活躍中の他の作家の作品にも目配りしたい。

〔教科書〕教室で指示します。

英文学特講Ⅰ

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』(三修社) ¥3,800

英文学特講Ⅱ

高野正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キー

ツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉を理解することはむつかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M.アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イエイツ、D.H.ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T.S.エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

米文学特講Ⅳ

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre*や*Wuthering Heights*を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指定する。

英文学特講Ⅴ

高松 雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸小 哲雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになります。前期

ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的思考方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

米文学特講Ⅰ

東 雄一郎

19世紀のホイットマン、ディキンソンから現在のアッシュベリー、リッチ、スナイダー、プラス、マーク・ストランドにいたる総計30人のアメリカの代表的な詩人たちの作品を読みます。特に、ロゴセントリック（論理的）なモダニズムの言葉の解体、作品の自律性神話の崩壊から、ポストモダニズムの恣意性という「修正・見直し」への移行に焦点を当て、アメリカ詩の「自己の歌」の伝統を考えます。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』

（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅱ

杉浦 銀策

19世紀および20世紀アメリカ小説における黒人像を追う。メルヴィル、トゥエイン、ライト、スタイロン等。

米文学特講Ⅲ

原川 恭一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廢とをもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社

会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選 - 風土と文学』（中教出版）

米文学特講Ⅳ

松本 一 裕

ホーソン、メルヴィルからフォークナー、アップダイクまで、代表的な作家の短篇を毎週一篇ずつ取り上げ、アメリカ文学における基本的なテーマについて講義する。

〔教科書〕*The Penguin Book of American Short Stories*
(Penguin Books) 約¥2,000

米文学特講Ⅴ

利根川 真 紀

20世紀前半に活躍したスコット・フィッツジェラルド、アーネスト・ヘミングウェイ、ウィラ・キャザーの主要作品を取り上げ、視点、人物描写などの小説技法に注目しながら、同時に当時のアメリカをこうした作家たちがどのように捉え、作品に昇華したのかを検討したい。

テキストは*The Great Gatsby*(1925)を中心に読み、他の作品についてはプリントを配布する予定。

〔教科書〕F. Scott Fitzgerald,
The Great Gatsby
(英潮社新社ペンギンブックス)
¥2,100

英米演劇演習

荒井 良 雄

今世紀のイギリス演劇界を代表する劇作家の一人であるテレンス・ラティガン(1911-1977)の代表作 *SEPARATE TABLES* (1954) の講読演習。読了語はノエル・カワード的一幕物を予定している。

〔教科書〕*SEPARATE TABLES* (南雲堂) ¥1,100

英米演劇特講

落 合 和 昭

ギリシャ時代から現代までの演劇史に見られる

主義(ism)を、その劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文(数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント)の要旨をまとめたレポートを十数回(一回につき四百字の原稿用紙2枚程度)ほど提出してもらう。

英米語学演習(言語学)

R. T. Rolf

前期も後期もアメリカの現代古典演劇の戯曲の台詞を例にとって、アメリカ人の会話の構造を考えて見る。そして、台詞のどこに演劇性が有るか、どこに無いか、台詞の何が「ドラマティック」であるか、台詞そのものが芝居の演劇性にどう貢献するかという様な問題を探ってみる。前期ではアーサー・ミラーの『セールスマンの死』、後半ではソーントン・ワイルダーの『我が町』を読む。

〔教科書〕Arthur Miller著 *Death of a Salesman*
(Penguin Twentieth Century Classics)
Thornton Wilder 著 *Our Town*
(Harper Perennial Paperback)

英米語学演習(音声学)

坂 本 武

1必または3必で既に学習した英語調音音声学の大意に、さらに下記の諸項目を付加する。

記

- (1) 英・米・黒人米・濠音の差異について、より詳述する。
- (2) Intonationの基本、応用、および英米表現における差異を考究する。
- (3) 英米語会話での、音韻変化(phonological process)につき詳説する。例えば、英音における母音脱落、米音のtappings(無声子音の有声音化の各様)について再考する。
- (4) その他、reading, understanding(会話理解)に必須の音変化について、より詳細、専門的に論説する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英米語学演習 (英語史)

岡田 尚

基本語について、諸君とともに英和字典を編集する立場から考察してみたい。ここでは語源・語義、語法、成句などと同時にその語あるいはその語を用いた表現の背景や日本語とのイメージ・連想・用法などの違いを比較文化の視点から考えていく。教科書は用いない。

英米語学演習 (英文法)

岡田 尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕教室で指示する。

英米語学演習 (英作文Ⅱ)

佐藤 千春

すでに英作文Ⅰで十分な基礎力が身についたとの想定で、ここでは応用力の段階に入ってみる。作文だけでなく、読むことも時に応じて行いたい。テキスト、その他詳しいことは授業開始の時に連絡する。

英米語学演習 (英作文Ⅱ)

河崎 征俊

短文から長文への応用力養成を主眼とします。予習、復習を欠かさず受講することが大切です。

〔教科書〕教場にて指示します。

〔参考書〕教場にて指示します。

英米語学演習 (英会話)

W. D. Hubbard

Practical English for third and fourth year students. A variety of dialogues, plays and topics will be used. Class discussion and hearing comprehension emphasized. Text

and class material will be furnished at class time.

〔教科書〕Will be decided later depending on the ability of the class.

英米語学演習 (英会話)

N. Readdy

Method and materials similar to that of 2nd year students but of a more advanced level.

〔教科書〕See content for 1st year students.

英米語学演習 (英会話)

B. Natusch

This course is designed to improve students' listening ability and speaking skills. The approach used will involve simulations such as phone calls, group problem solving activities, structured discussions, and quizzes. Practice will be given particularly in language functions such as description, instructing, and narrating. Another component of the course will broaden active vocabulary. Evaluation will be based on regular class tests and spoken presentations.

英米語学演習 (英会話)

R. M. Baxter

This will be an intensive conversation class which utilizes a variety of approaches which improve performance. We will study skills in listening comprehension and speaking. Students will be required to speak in English. The class will be challenging, exciting, and educational.

〔教科書〕開講時に指示

英米文化

荒井 良雄

イギリスの文化を、歴史、思想、教育、演劇、

映画、音楽、美術などを中心に、日本文化との比較を考えながら講義します。

〔教科書〕荒井良雄著『イギリス演劇と映画』

(新樹社) ¥2,060

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採りあげ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

商業英語

町井 靖

日本企業の国際的進出は、海外での子会社、合併会社の設立、外国企業の買収等めざましいものがあるが、「商業英語」では「商品の輸出入に関する英文の手紙」を勉強する。

取引先の発見、見積り、交渉、注文、船積み等、貿易取引の流れに従って良く使用される基本的表現を修得する。貿易の専門用語も解説する。

〔教科書〕町井 靖著『基礎商業英語』

(梓出版社) ¥1,700

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパ言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読をも行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著『ラテン語入門』(駿河台出版社)

〔参考書〕田中秀央編『羅和辞典』(研究社)

日本文化史Ⅱ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について講述する。

現代美術

矢野 陽子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

地理学科

基礎教育科目

基礎人文地理学 (佐藤 哲夫)	95
基礎人文地理学 (長野 覺)	95
基礎自然地理学 (長沼 信夫)	95
基礎自然地理学 (早船 元峰)	95

専門教育科目

人文地理学実習 (竹内 啓一)	95
人文地理学実習 (茭口 善美)	96
人文地理学実習 (佐藤 哲夫)	96
人文地理学実習 (土谷 敏治)	96
人文地理学実習 (橋詰 直道)	96
自然地理学実習 (小池 一之)	96
自然地理学実習 (高木 正博)	96
自然地理学実習 (長沼 信夫)	96
自然地理学実習 (中村 和郎)	97
自然地理学実習 (早船 元峰)	97
野外巡検 I (小池 一之)	97
野外巡検 I (佐藤 哲夫)	97
野外巡検 I (高木 正博)	97
野外巡検 I (橋詰 直道)	97
野外巡検 I (早船 元峰)	97
日本地誌 I (橋詰 直道)	97
外国地誌 I (前期: 茭口 善美)	98
(後期: 矢ヶ崎 典隆)	98
経済地理学 I (佐藤 哲夫)	98
郷土地理学 (長野 覺)	98
集落地理学 (竹内 啓一)	98
地形学 I (小池 一之)	98
地 図 学 (鶴見 英策)	98
交通地理学 (生井沢 進)	98
地理学総論 (佐藤 哲夫)	98
地理学総論 (茭口 善美)	99
地理学総論 (中村 和郎)	99
野外巡検 II (茭口 善美)	99
野外巡検 II (土谷 敏治)	99
野外巡検 II (竹内 啓一)	99
野外巡検 II (長野 覺)	99
野外巡検 II (長沼 信夫)	99
野外巡検 II (中村 和郎)	100
日本地誌 II (中俣 均)	100
外国地誌 II (土谷 敏治)	100
経済地理学 II (生井沢 進)	100
地地形 II (小口 高)	100
歴史地理学 (中島 義一)	100

人口地理学 (土谷 敏治)	100
原書講読 (梅原 弘光)	100
地 質 学 (貝塚 爽平)	101
地球物理学 (太田 陽子)	101
土壤地理学 (漆原 和子)	101
気 候 学 (江口 卓)	101
海洋学及び陸水学 (長沼 信夫)	101
環境地理学 (早船 元峰)	101
日本地誌 III (中島 義一)	101
外国地誌 III (梅原 弘光)	101
都市地理学 (橋詰 直道)	102
計量地理学 (土谷 敏治)	102
応用地理学 I (高木 正博)	102
応用地理学 II (今野 修平)	102
文化地理学 (茭口 善美)	102
空中写真判読法及び測量学 (小池 一之)	102
地理学特講 I (後期) (長野 覺)	102
地理学演習 (小池 一之)	102
地理学演習 (茭口 善美)	103
地理学演習 (佐藤 哲夫)	103
地理学演習 (高木 正博)	103
地理学演習 (土谷 敏治)	103
地理学演習 (竹内 啓一)	103
地理学演習 (中村 和郎)	103
地理学演習 (長沼 信夫)	103
地理学演習 (長野 覺)	103
地理学演習 (早船 元峰)	104
地理学演習 (橋詰 直道)	104

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎人文地理学

佐藤 哲 夫

高校で学んだ地理の基礎的な知識を復習しながら、人文地理学の基本的な考え方に立って、その知識を体系化し、人文地理学の方法を学ぶ。

評価は出席、レポート、試験による。

〔教科書〕浮田典良編『人文地理学総論』（朝倉書店）¥3,811

〔参考書〕木村辰男ほか編『現代地理学の基礎』（大明堂）¥2,400

基礎人文地理学

長 野 覺

地理学の発達史を概観したのち、自然と人間活動の相関性を、世界的視野から考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。プリント資料を多用するほか、開講後に参考書などは指示する。

〔教科書〕藤岡謙二郎著『五訂 人文地理学』（第二改訂版）（大明堂）

基礎自然地理学

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

なお、参考書は適時講義中に紹介する予定である。

〔教科書〕『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）¥2,300

基礎自然地理学

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかわりをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

竹 内 啓 一

まず下記の教科書を全員が読む。このテキストは関西在住者用に書かれているので、その内容に若干補足したり、内容にそくした作業（地図の読図、統計の調査、処理、文献検索など）をしてもらう。そのあとは、内外の人文地理学の研究論文を読んで、地理学を勉強するための足腰をきたえてもらう。読んでもらう文献のマスターコピーのみ当方で準備するから、あとは受講者が自主的にテキストを準備すること。欠席は論外、さらに、毎回レポートを全員に提出していただく。

〔教科書〕浮田典良（編）

『ジョグラフィック・パル』

海青社（大津市）¥2,200

〔参考書〕浮田典良（編）『人文地理学総論』（朝倉書店）

石井素介（編）『産業経済地理—日本—』（朝倉書店）

クラヴァル『現代地理学の論理』（大明堂）

竹内啓一『とぼろうぐ、地理学雑記帖』（古今書院）

人文地理学実習

こ
菱 口 善 美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

人文地理学実習

佐 藤 哲 夫

人文地理学で用いられる各種資料の収集、整理、分析の方法や技術を学ぶ。「駒沢大学周辺の景観」という題でレポートを書くことを目標にして、レポートに挿入する統計資料の分析、地図の読図と、主題図、グラフ、表の作成を行なう。

履修者は国土地理院の1万分の1地形図「自由が丘」と、製図用ペン（0.3mmおよび0.5mm）、色鉛筆（12色）、電卓を用意すること。

人文地理学実習

土 谷 敏 治

地理学の調査・分析に必要な資料の収集、整理、統計処理、作図、地図作成等について実習を行なう。また、コンピュータを使用した実習も合わせて行なう。毎回課題を与え、提出することを原則とする。

人文地理学実習

橋 詰 直 道

前半は、地形図の読図、空中写真判読、各種主題図の利用法など、人文地理に必要な基礎技術を学ぶ。土地利用図の作成、キャンパス内緑地地図（植栽図）の作成とそれらに関する課題レポートなどが中心となる。

後半は、各種統計資料の利用法や統計処理法、文献調査法などを学び、人文地理事象の基本的な

分析技術を修得する。パソコンによる統計処理、グラフ化、地図化作業とそれらに関するレポート作成が中心となる。

自然地理学実習

小 池 一 之

自然地理とくに地形学関係のデータ整理および野外調査法などについて実習する。

〔予定内容〕

1. 地形図の読図、主題図の作成
2. 各種統計データの整理
3. 野外調査データとその処理方法
4. 写真判読
5. その他

自然地理学実習

高 木 正 博

自然地理学を学ぶために必要となる基礎的な実習を行う。

作業内容については次の事項を予定しているが、授業の進捗状態に応じて指示する。

1. 地形図、空中写真の読み方と主題図の作成
2. 計測器材を利用した調査と、結果の整理
3. 各種の統計資料の解析、図化
4. コンピュータの使用を考慮する。

出席を重視し、提出物と併せて評価する。

自然地理学実習

長 沼 信 夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方等を実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕

- 谷岡武雄ほか著『新訂地理実習』（大明堂）
三野与吉編『自然地理調査法』（朝倉書店）

自然地理学実習

中村和郎

自然地理学の基礎的な実習を行う。次の内容を予定しているが、実施順序は変更することがある。

1. 計測（野外および机上で各種の計測を行う）
2. 統計処理（各種データの整理方法を学ぶ）
3. 地図化（主題図を作成する）
4. 読図（地図の読図を行う）
5. 空中写真判読（空中写真から必要な情報を読む）
6. 地上写真撮影（地理的事象を写真で表現する）

自然地理学実習

早船元峰

地理学を修める上に必要な自然関係に基礎的作業を中心に行う。

- 地形図を用いた主題図の作成
- 資料の収集・分析・整理の方法
- 調査器械・器具の使用法
- 空中写真判読
- 微地形・表層地質調査

野外巡検 I

小池一之

地形学を中心とした野外調査法の習得。

〔巡検予定地〕 佐渡島

〔日時〕 10月初 3泊4日

3泊4日のうち、2日間は地形学に関連する野外調査を行う。1日～1.5日は3～4人の班を編成し、それぞれテーマをえらび、自主的な地理学野外調査を行う。

野外巡検 I

佐藤哲夫

野外での観察、調査を通して地域調査法を学ぶ。とくに土地利用の研究に必要な資料の収集、聞き取りの方法、情報整理の方法を身につける。岩手県南地方を対象地域として、夏季休業中（7月下旬）に実施の予定。

野外巡検 I

高木正博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにする。

現地では班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

期日・内容については、ガイダンスの際に発表する。

野外巡検 I

橋詰直道

都市化の進展やリゾート開発によって変貌する地域を例に、フィールド調査を行い、調査報告書を作成する。巡検は事前調査（資料・データの収集と文献調査）、現地調査（現地での観察と聞き取り調査など）、まとめ作業（現地調査で得られた結果を分析・集約する）の3段階から成る。

巡検予定地は、真鶴半島とその周辺

巡検予定日は、6月後半から7月前半

野外巡検 I

早船元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

日本地誌 I

橋詰直道

日本の都市と農村は、いかに変容してきたか。この地域変容に関する事例研究成果を紹介しながら、動態地誌的に日本列島の空間構造とその変容過程を明らかにする。

講義では、日本列島の自然環境の特性、農村と農業地域、農林業と環境保全、リゾート化に伴う農山漁村の変容などについて学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

外国地誌 I

(前期) 菱 口 善 美
(後期) 矢ヶ崎 典 隆

本講義では、アメリカ合衆国の地域性と風土について考察を試みる。自然環境、植民・開発過程、文化景観と文化地域、人口と民族集団、都市の発展と機能、農業と農村地域の変貌などについて検討しながら、アメリカ合衆国の全体像を明らかにする。

〔教科書〕 指定しない。

〔参考書〕 授業の中で、参考となる図書をあげていく。

経済地理学 I

佐 藤 哲 夫

下記テキストの各章を問題提起の素材として取り上げ、現代世界の農林水産業が抱える諸問題について、地理学的な視点から解説する。受講者は予めテキストを読んで準備してくること。

夏季のレポートと、学年末の試験で評価する。

〔教科書〕 渡部忠世『現代の農林水産業』
(放送大学教育振興会) ¥2,060
放送大学テキスト

郷土地理学

長 野 覺

前期は郷土の地域概念を理解する必要上、古代から現代までの、日本の行政区変化を学習すると共に、域内の地名について(大字・小字など)、その意味するものを全国的視野から検討する。

後期は日本人の山岳信仰について講義し、郷土の山や、郷土から望見する山のもつ精神文化的意義を考えてみる。

〔参考書〕 『地名大辞典』(角川書店)、
『日本歴史地名大系』(平凡社)、
『山岳宗教史研究叢書』(名著出版)

集落地理学

竹 内 啓 一

生活空間論として集落地理学を体系的に講述する。社会理論にもとづいた集落地理学の提示を目的とする。およその内容は以下の通りである。

(1)行動空間と生きられた空間 (2)基礎地域、領域性 (3)ムラとマチ (4)空間の社会化(あるいは社会への包摂) (5)空間と居住 (6)空間と階級 (7)空間とエスニシティー (8)空間とジェンダー (9)空間と権力 (10)モノ・ヒト・情報・価値の移動と空間編成 (11)社会地理学思想史とプロフェッショナルの社会地理学的実践

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 講義中に指示する。

地 形 学 I

小 池 一 之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心に。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにしたい。(内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕 貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』
(東大出版会) ¥4,532

地 図 学

鶴 見 英 策

測量と地図の発達史、わが国の測量・地図体系にふれたあと、現代の地図作成工程と最新技術を解説する。さらに、地図の利用法について具体的な事例をもとに解説する。

交通地理学

生 井 沢 進

商品の流れ(貨物流)の変化について、この変化の要因となる港湾・道路等諸施設の変化ならびに情報システムの変化に焦点を当てて、現在の交通体系を理解してゆく。

〔教科書〕 講義の最初に指示する。

地理学総論

佐 藤 哲 夫

地理学の重要な概念の一つである「景観」を手掛りとして、環境論や地誌と関連させながら、地理学の方法論について検討する。

I. 地理学の方法

1. 対象と課題
2. 現地調査
3. 景観の分析
4. 生態構造

II. 地理学の理論

1. 地域概念
2. 地域区分
3. 空間スケール
4. 空間構造

III. 地理学の応用

〔教科書〕中村和郎ほか著『地域と景観』（古今書院）¥2,800

地理学総論

こも
荻口善美

現代地理学の概念と主要な地域分析法について講義を行なう。

地理学総論

中村和郎

3年生は年度の途中で卒論のテーマを決めなければならない。どんなテーマを選んで、どんな方法で研究すればよいかを思い悩む学年である。そのときに少しでも役に立つように、下記の内容で講義する。

1. 地理学ではなぜフィールド調査をするのか。
2. 地図を使わない地理学はない。
3. 人間と環境の関係についてどんな研究があったか。
4. 「景観」と「地域」からひろがる地平。

〔参考書〕中村和郎ほか著『地理学への招待』（古今書院）¥2,900
中村和郎ほか著『地域と景観』（古今書院）¥2,800

野外巡検Ⅱ

こも
荻口善美

目的：地域の変貌についての実態調査とレポート作成

調査地：富山県五箇山

野外巡検Ⅱ

土谷敏治

都市の地域構造・都市問題・都市計画・都市内交通を中心に巡検を行なう。また、各自がそれぞれのテーマに従って、現地調査を行ない、その結果をレポートとして提出する。巡検地域・日程については、追って指示する。

野外巡検Ⅱ

竹内啓一

東京および近郊の日帰り（1日または半日）エクスカージョンを、数回、ウィーク・エンドにおこなう。準備および総括としてかなりの量の文献を手分けして読んでもらい、報告（報告要旨を全員に配布すること）してもらおう。さしあたり、最初の顔あわせのときに、下記の文献のうちひとつを読み、レポートを提出すること。

- ・陣内秀信『東京の空間人類学』（筑摩書房）1985
- ・藤森照信『明治の東京計画』（岩波書店）（同時代ライブラリー 1990）
- ・田村 明『江戸東京まちづくり物語』（時事通信社）1992
- ・越沢 明『東京都市計画物語』（日本経済評論社）1991
- ・杉浦芳夫『文学のなかの地理空間、東京とその近傍』（古今書院）1992
- ・正井泰夫『城下町東京』（原書房）1987

野外巡検Ⅱ

長野 覺

北海道の自然と開拓と現代をテーマに、現地3泊4日の巡検を予定。6月下旬に実施。主な視点は、①函館の歴史と現況 ②札幌市と琴似の屯田兵村 ③先住民のアイヌコタンの訪問（白老町）④十勝平野の有畜農業の現状（農家に分宿）⑤道東または道北の自主巡検

野外巡検Ⅱ

長沼信夫

次の要領で実施する予定であるが、詳細については申込時（ガイダンス）に報告する。

1. 巡検地域：伊豆半島北西地域（戸田村）
2. 巡検期間：平成6年6月7日（火）
～10日（金）（3泊4日）
3. 巡検テーマ：自然環境と人々の生活

野外巡検Ⅱ

中村和郎

フィールド調査の訓練として、地形図作業と統計資料による事前調査、および現地における観察などを実施してレポートにまとめる。

実施日時と調査地域はガイダンスのときに発表する。

日本地誌Ⅱ

中俣均

地域は一定不変のものではない。高度な技術の進歩や産業構造の変革による経済の発達、社会機構の改編、それにとまなう人口の動向などにより、地域自体も複雑化し変容する。そうした地域の変貌のありさまを、具体的な地域の具体的な事例（全国各地にわたる）を通じて見ていくことにする。講義には下記テキストを用いる。また参考書などについては、講義中に随時、指示する。

〔教科書〕山崎謹哉編著『地域変貌誌』
（海青社）1998年 ¥1,751

外国地誌Ⅱ

土谷敏治

ヨーロッパ諸国，とりわけドイツを中心に，自然環境，国家の形成過程，都市の発達，都市内部の地域構造，都市交通，都市問題，都市システムなどについて講義する。事例については，スライド，ビデオ等で紹介する予定である。

経済地理学Ⅱ

生井沢 進

都市における経済活動の中心である商業活動について，流通構造ならびに都市構造の変化の観点から分析，講義を行う。夏季休暇中に各自調査を行い，レポートを作成することを条件とする。

〔教科書・参考書〕講義中にその都度指示する。

地形学Ⅱ

小口 高

山地の形成と解体に関連する地形学的問題について講義する。

1. 地下における岩石の形成
2. 岩盤の隆起
3. 火山と火山岩
4. 風化
5. 崩壊と地すべり
6. 溪流での土砂移動

〔教科書〕貝塚爽平ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）¥4,532

〔参考書〕武居有恒監修『地すべり・崩壊・土石流—予測と対策』（鹿島出版会）
¥4,017

歴史地理学

中島義一

一般の人文地理学では現在の事象を扱うが，歴史地理学では歴史時代の事象を対象とする。その点歴史学と共通するが，見方考え方は地理学の立場に立つ。学問分類上は地理学に属するが，実際には地理学と歴史学の接点という性格が強い。本講義では地域的には国内に，時代的には近世・近代に限定し，交通・集落等を取り上げて行く。この科目履修の機会に地理学科の人は歴史学に，歴史学科の人は地理学に親しんでほしい。

〔教科書〕山崎謹哉編『近世歴史地理学』
（大明堂）¥2,400

人口地理学

土谷敏治

人口の分布やその変化，人口移動について，研究の方法やこれまでの地理学の分野からの研究成果を紹介する。

原書講読

梅原弘光

熱帯地域の農業に注目して，そこの人びとと環

境との関係を考察する。

テキストは、E. L. Schusky, *Culture and Agriculture: An Ecological Introduction to Traditional and Modern Farming Systems* (London, 1989) から抜粋して配布する。

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

地球物理学

太田 陽子

本講で扱うおもな内容は、1. 活断層の特性、2. 活断層と地震、3. 地殻変動の地域性と時間に伴う推移、4. 地震と地殻変動、5. 古地震の復原、6. 変動地形の形成、などで、おもに日本を含む環太平洋地域を事例として取り上げる。地理学の専攻者を対象とするので、できるだけ具体例を通して、現在の地形の形成に直接関与する地殻変動の役割の理解、それに関する諸問題の認識に重点をおく。必要な文献は講義の際に指示する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕活断層研究会編『新編日本の活断層』1991（東大出版会）
米倉ほか編『変動地形とテクトニクス』1990（古今書院）
岩波講座 地球科学10『変動する地球』1978（岩波書店）

土壌地理学

漆原 和子

世界の土壌の生成と分布について解説する。土壌生成因子のうち、特に地形、気候、時間について詳しく考察する。さらに人間活動によって、土壌がどのように変わりつつあるのかについても述べる。

〔教科書〕『世界の土壌』（古今書院）¥3,800

気候学

江口 卓

最初に気候の成り立ちについて基礎的理解を深めた後、日本と世界の気候について具体的な現象をとりあげ講義する。日本の気候については各季節の特徴を中心に、世界の気候については各大陸の特徴およびその地域的つながりについて熱帯を中心に講義する。

海洋学及び陸水学

長沼 信夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学（水文学）の立場から水に関するテーマを選び講義する。また隣接分野における水の研究についても紹介する予定である。

環境地理学

早船 元峰

自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて、土地利用、水利用を通じ歴史的観点をふまえて論じる。

〔参考書〕水見山幸夫、岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

日本地誌Ⅲ

中島 義一

歴史地理学の諸問題に重点をおいて講義する。下記の教科書のほか、地図帳（高校生の時に使ったものでよい）を忘れずに持ってくる。

〔教科書〕矢守一彦著『空からみた歴史景観』（大明堂）¥2,400

〔参考書〕授業の際に紹介する。

外国地誌Ⅲ

梅原 弘光

対象地域は東南アジア。1960年代以降この地域の農業と農村は大きな変化過程に入っているが、

その実態ならびに空間的展開を検討して、変化の基本的性格について考察する。

都市地理学

橋 詰 直 道

都市の概念、都市の機能分類、都市システム、大都市圏、都市の内部構造、都市化、都市空間の知覚と行動、都市計画、都市環境などについて最近の都市地理学の研究成果を中心に概説する。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

計量地理学

土 谷 敏 治

地理学の分析に必要な統計的手法・計量的手法を紹介するとともに、実際にデータを用いて操作を行ない、分析の手順や解釈の仕方について学習する。データの処理には、コンピュータを使用する予定である。分析の結果は、レポートとして提出する。

応用地理学 I

高 木 正 博

河川と地域の関係を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』
(東京大学出版会)

応用地理学 II

今 野 修 平

応用地理学として、地域開発論の講義を行う。地域開発論の学的体系をのべる他、第四次全国総合開発計画および長期展望下の日本列島の将来や、地域開発政策の流れ等全般に亘る。

〔教科書〕『第四次全国総合開発計画』

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及び測量学

小 池 一 之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること(課題数は年間5-6)。また、対数、三角関数(数学I程度)の復習もしておくこと。実習も含まれる。

本年度は、自然地理の基礎となる写真判読法にも力を入れる予定である。

- (1)誤差論 (2)角の測定 (3)距離測定
- (4)水準測量 (5)多角測量 (6)地形測量
- (7)写真測量 (8)写真判読法
- (9)リモートセンシング

〔教科書〕〔前期〕小田部和司著『図解土木講座 測量学』(技報堂出版)
¥2,800

地理学特講 I (後期)

長 野 覺

高等学校・中学校社会科の教員を目指す希望者を対象とする。教員採用試験の体験や教育現場の地理・社会科教育の実情、カリキュラムの変更に伴う地歴科・公民科分離への対応など、現職教員と対話の機会などもつくりながら学習を進めたい。

〔参考書〕教育小六法・文部省学習指導要領・高等学校地理教科書(地図帳を含む)・中学校社会科教科書(地図帳を含む)。

地理学演習

小 池 一 之

前 期：地理学調査方法(野外調査・文献調査)の習得、調査資料の分析法、データの統計処理などについて学ぶ。

後期：各人のテーマにそった具体的な指導を中心とする演習。

地理学演習

こも
交 口 善 美

ここでは4年生を対象とする卒業論文の作成の指導を行う。前期においては、各履修者の論文の主題に包含される問題点の指摘と研究方法について、後期には、実態調査にもとづく論文作成の技術的方法について重点をおく。

地理学演習

佐 藤 哲 夫

都市・農村の景観・土地利用に関する文献を、参加者が分担して講読し、全員で議論する。これと並行して、次のスケジュールに従って卒業論文の作成指導を行う。

5月 参考文献調査 6月 論文構成提案
7月 現地調査計画 9月 現地調査報告
10月 論文構成決定・執筆開始
出席と発表・討論の積極性によって評価する。

地理学演習

高 木 正 博

卒業論文の作成指導を主体とする。まず、各自のテーマや、参考文献・資料の選択整理。現地調査後は、各自その成果を発表し、討論のうえ論文作成へと導く。

地理学演習

土 谷 敏 治

前半は、各自の研究テーマに関する論文を読み、内容の紹介をするとともに、研究の進め方、論文の書き方について学習する。後半は、各自が研究の中間報告を行ない、お互いに議論し合いながら、論文の完成をめざす。

地理学演習

竹 内 啓 一

はじめの5回で、下記の教科書を全員で読む。そのあと、受講者の関心を勘案しつつ全員で具体的研究事例の文献（マスターコピーは当方で用意する）を読むとともに、卒論の準備状況を報告してもらう。全員で読む文献についても、卒論の中間報告についても、全員に配布する資料（共通文献については、各自の読後評、コメントなど）をコピーして持参すること。卒論の関心は、社会地理学、文化地理学、経済地理学、地理学の歴史・方法論の分野に属するものであることがのぞましい。

〔教科書〕浮田典良（編）『ジオグラフィック・パル』（海青社（大津市））¥2,200

〔参考書〕クラヴァル『現代地理学の論理』（大明堂）

竹内啓一『とぼろうぐ、地理学雑記帖』（古今書院）

地理学演習

中 村 和 郎

卒業論文の作成指導を中心に行う。テーマの決定、研究の進め方、文献収集とその読み方、資料の整理の仕方、現地調査の方法、論文の書き方、口頭発表の仕方などについて指導する。

地理学演習

長 沼 信 夫

卒業論文の作成指導を中心におこなう。前期は論文の書き方、文献資料の蒐集・整理・調査方法、文献紹介等についておこなう。後期は各自の卒論テーマによる調査・研究成果を報告してもらう。

出席を重視し、平常点で評価する。なお、前期・後期に各1回合宿（総合報告・中間検討会）を行う予定である。

地理学演習

長 野 覺

卒業論文の課題に即して、調査・研究と論文提

出までの指導を行なう。前期と後期に必ず中間発表を行なうことを必要条件としている。

地理学演習

早 船 元 峰

卒業論文を作成する学生に対する演習である。前半には論文の作成・現地調査・文献資料の収集・整理等の方法について講じ、後半は卒業論文のテーマにしたがって調査研究した成果の発表（中間報告）や関連した論文の内容の紹介をさせる。

地理学演習

橋 詰 直 道

前半は、卒業論文の研究テーマ・地域の設定、研究方法、研究の計画などについて十分な検討を加えた上で、文献・資料調査法、現地調査法などについて指導する。

後半は、各人の調査結果の中間発表会を随時行い、議論を積み重ねながら、論文の書き方について具体的に指導する。

歴史学科

基礎教育科目

基礎歴史学 (飯島 武次)	107
基礎歴史学 (廣瀬 良弘)	107
基礎歴史学 (久保田 真継)	107

専門教育科目

史学概論 (伏島 正義)	107
日本史概説 I (古代・中世) (渡辺 直彦) ..	107
日本史概説 II (近世・近代) (木槻 哲夫) ..	107
東洋史概説 I (古代・中世) (松田 俊道) ..	107
東洋史概説 II (近世・近代) (渡辺 惇) ..	108
西洋史概説 I (古代・中世) (伏島 正義) ..	108
西洋史概説 II (近世・近代) (青木 道彦) ..	108
考古学概説 I (日本) (倉田 芳郎)	108
考古学概説 II (外国) (飯島 武次)	108
日本史学史 (葉貫 磨哉)	108
東洋史学史 (松田 俊道)	109
西洋史学史 (佐々木 真)	109
考古学史 (西江 清高)	109
演習 I (久保田 真継)	109
演習 II (久保田 真継)	109
演習 I (葉貫 磨哉)	109
演習 II (葉貫 磨哉)	109
演習 I (廣瀬 良弘)	109
演習 II (廣瀬 良弘)	110
演習 I (南 和男)	110
演習 II (南 和男)	110
演習 I (山口 一之)	110
演習 II (山口 一之)	110
演習 I (渡辺 直彦)	110
演習 II (渡辺 直彦)	110
演習 I (阿部 肇一)	110
演習 II (阿部 肇一)	110
演習 I (渡辺 惇)	111
演習 II (渡辺 惇)	111
演習 I (佐々木 真)	111
演習 II (佐々木 真)	111
演習 I (伏島 正義)	111
演習 II (伏島 正義)	111
演習 I (飯島 武次)	111
演習 II (飯島 武次)	111
演習 I (加藤 晋平)	111
演習 II (加藤 晋平)	112
演習 II (倉田 芳郎)	112
日本史各説 II (久保田 真継)	112

日本史各説 III (土肥 鑑高)	112
日本史各説 IV (山口 一之)	112
東洋史各説 I (古代) (宇都木 章)	112
東洋史各説 III (中世) (丸山 宏)	112
東洋史各説 VI (近世) (野沢 佳美)	112
東洋史各説 VIII (周辺史) (片岡 一忠)	112
東洋史各説 IX (周辺史) (田中 通彦)	113
東洋史各説 X (周辺史) (松田 俊道)	113
西洋史各説 II (岩本 裕子)	113
西洋史各説 IV (伏島 正義)	113
西洋各国史 I (青木 道彦)	113
西洋各国史 II (井村 行子)	113
西洋各国史 IV (佐々木 真)	114
考古学各説 I (西江 清高)	114
考古学各説 II (関根 孝夫)	114
古文書学 (葉貫 磨哉)	114
古文書講読 I (久保田 真継)	114
古文書講読 II (廣瀬 良弘)	114
日本史特講 I (古代) (渡辺 直彦)	115
日本史特講 II (中世) (宮本 由紀子)	115
日本史特講 III (中世) (久保田 真継)	115
日本史特講 III (中世) (芥川 龍男)	115
日本史特講 IV (近世) (土肥 鑑高)	115
日本史特講 V (近世) (小暮 正利)	115
日本史特講 VI (近代) (南 和男)	115
日本史特講 VII (近代) (山口 一之)	115
東洋史特講 III (古代) (宇津木 章)	115
東洋史特講 VI (中世) (丸山 宏)	116
東洋史特講 IX (近世) (野沢 佳美)	116
東洋史特講 X (近代・現代) (安藤 正士) ..	116
東洋史特講 XII (近代・現代) (渡辺 惇) ..	116
東洋史特講 XIII (周辺史) (片岡 一忠)	116
東洋史特講 XIV (周辺史) (田中 通彦)	116
西洋史特講 I (長谷川 岳男)	116
西洋史特講 II (三小田 敏雄)	116
西洋史特講 V (中村 純)	117
考古学特講 I (高浜 秀)	117
考古学特講 III (飯島 武次)	117
日本仏教史 II (廣瀬 良弘)	117
日本文化史 II (廣瀬 良弘)	117
西洋文化史 I (佐々木 真)	117
西洋文化史 II (三小田 敏雄)	117
考古発掘実習 (千葉 基次)	118
考古学実習 (写真) (鈴木 昭夫)	118
考古学実習 (測量) (栗山 稔)	118
考古学実習 (石器) (田中 英司)	118
考古学実習 (土器) (酒井 清治)	118
地誌学 (橋詰 直道)	118
地誌学 (長野 覺)	118
地誌学 (宮口 侗迪)	119
人文地理学概説 (小林 高壽)	119
歴史地理学 (中島 義一)	119
哲学史 (丸山 豊樹)	119
歴史哲学 (麻生 建)	119

美術史概説 (中島 亮一)	119
西域美術史 (相馬 隆)	120
仏教美術 (中島 亮一)	120
中国歴史文学 (中村 璋八)	120
ラテン語特講 (佐藤 玖美子)	120
日本民俗学 (谷口 貢)	120
有職故実 (大塚 英子)	120

歴史学 科

基礎教育科目

専門教育科目

基礎歴史学

飯島武次

中国古代史の考古学的研究。
〔教科書〕宮崎市定『アジア史概説』（中公文庫）
¥820

基礎歴史学

廣瀬良弘

歴史とは何か、なぜ歴史を学ぶのか、歴史意識はどのような展開を遂げてきたのか、など歴史研究を行っていく上での基本的な問題をはじめとして、研究方法論や史料批判等について講述する。また、その際には具体的な古文書や絵画史料等を用いて行う。さらに、現在の歴史学研究がかかえる史資料の保存利用問題や地方史論・地域史論等の問題にも言及してみたいと思う。テキストはコピーして配布。

基礎歴史学

久保田真継

「歴史」とは何か、また「歴史」を学ぶとはどういうことか。この基本的な問いかけについて考える機会としたい。その際、さまざまな歴史観や研究方法、史料などを紹介する。

これらを通じて「歴史」をみる眼を自分なりにひるげてほしいと思う。必要に応じて資料を配布する。

史学概論

伏島正義

古来多くの哲学者や歴史学を悩ましてきた『歴史とは何か』という古くて新しい問題について、その考究の跡を追ってみたい。また古典的名著を二、三取り上げ、この問題について考えてみたい。なお、教科書は特に指定しないものの、参考書については開講時に一括紹介し、また講義の進行に伴い、その都度挙げる。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

渡辺直彦

平安時代の諸様相について概観する。
〔教科書〕『日本の歴史5 王朝の貴族』
〔中公文庫〕（中央公論社）¥860

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

木槻哲夫

明治期を中心に、近世・近代にわたる日本社会の発展を概観し、併せて、新たな研究視角・問題点の発見に資するよう努めたい。教科書は特定しない。

〔参考書〕『地方史研究必携』（岩波書店）
¥4,800

東洋史概説Ⅰ（古代・中世）

松田俊道

西アジアのイスラーム世界を中心に、周辺諸民

族および中国をも含めたアジア地域全体を視野に入れつつ、歴史学界が問題としてきたことを重点的にとりあげていく。イスラーム世界の豊かな歴史を分析・紹介することで、「歴史」を学問的に取り扱うとはどういうことかを理解してもらいたい。(1)古代文明とイスラーム、(2)文明を支えた空間、(3)都市の論理、(4)公益・福祉制度、(5)秩序と正義、(6)世界に広がるイスラーム、(7)奴隷が支配する王朝、(8)イスラーム商人の活躍と東西文化の交流、(9)中華文明のなかのイスラーム、などを講義する。

〔参考書〕 講談社現代新書

『都市の文明イスラーム』、
前嶋信次編『西アジア史』
(山川出版社)
嶋田襄平著『イスラームの国家と社会』
(岩波書店)

東洋史概説Ⅱ (近世・近代)

渡 辺 惇

中国の近世(宋・元・明・清)、近現代の政治、対外関係、社会経済、文化等について、総合的に講義する。

〔教科書〕特に定めない。プリント資料を配布する。

〔参考書〕授業の中で指示する。

西洋史概説Ⅰ (古代・中世)

伏 島 正義

私達が日常経験する土地所有をめぐる問題は、さまざまな話題を提供している。しかしこの近代的土地所有形態も一つの歴史的形態である。本講ではそうした近代的土地所有形態の淵源を尋ねたい。つまり、西洋古代末期から近世初頭までを範囲として、土地の「所有」形態、経営形態の変遷について概説する。特にゲルマン民族大移動を契機として生まれた新しい社会、つまり西洋中世社会の成立過程、その社会構造、発展と盛衰を基軸に据える。講義では通説を紹介し、特にその力点を史料的根拠に置く。地域としてはイギリス、フランス、ドイツを中心とする。教科書は特に指定しない。参考文献を開講時および各講義時にその都度示す。

西洋史概説Ⅱ (近世・近代)

青 木 道 彦

ヨーロッパの近世初頭から現代に至る歩みを概観するが、必要な限りにおいてヨーロッパ中世にもふれて講義したい。中世においては必ずしも他の文化世界に対して優位にたつてはいなかった西欧世界が、なぜ近代工業化の先頭にあつて、他の文化世界に強い衝撃を与えるようになったのかという問題を念頭において、受講して頂きたい。西洋史に関する平易な文献を指定し、読書レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない者には受験資格を与えないので、注意すること。

〔参考書〕 祇園寺信彦編『西洋史要綱』(御茶の水書房) ¥1,200
大下・西川・服部・望田編『西洋の歴史』〔近現代編〕(ミネルヴァ書房) ¥2,000

考古学概説Ⅰ (日本)

倉 田 芳 郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ (外国)

飯 島 武 次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
(山川出版社) 1985年 ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』
(山川出版社) 1991年 ¥11,000

日本史学史

葉 貫 磨 哉

古代から近代に至る歴史書の成立過程と、その概要について講義する。

東洋史学史

松田俊道

史学史は狭義には「歴史叙述の歴史」といえるが、「歴史叙述思想」などをも含めて考察されなければならない。講義では、(1)近代歴史学がどのように成立し、発展してきたかをあつづける。(2)マックスウェーバー、ヴィットフォーク、バラシュらが展開した壮大な「東洋社会論」をとりあげる。(3)エドワード・サイード、コーエンなどによるオリエンタリズム批判、(4)中国、中央アジア、西アジアなどの歴史学の発展の推移、(5)歴史思想、などをとりあげる。

〔参考書〕参考文献はプリントに記載する。

西洋史学史

佐々木 真

西洋史学史を考える際に重要となる著作について、それが執筆された当時の時代状況をふまえて解説することにより、講義を進めていく。前期に前近代の史学史を概括的におさえた後に、後期には19世紀から今日にかけての歴史学のあり方を述べる。この場合、フランスのアナール学派に特に力点をおいて解説を加え、今世紀の歴史学の様々な試みを紹介することにより、現在の歴史学の課題についても考えてみたい。教科書は特に指定しない。参考文献は、必要に応じて授業時に紹介する。

考古学史

西江清高

今世紀における中国考古学の研究史を中心に、東洋考古学の流れを概論する。また欧米に生まれ発展した考古学研究の枠組や方法と比較することで、東洋考古学の特質を理解し、さらにその現状を把握することを目標としたい。必要な資料は授業の中で配布する。

〔参考書〕関野 雄監訳『新中国の考古学』
(平凡社)1988年 ¥18,000

演習 I

久保田 真継

織田信長の右筆太田牛一の著した「信長記」(池田本)をテキストとして、史料の読解力を養いながら、室町幕府の滅亡から織田政権の形成と展開過程を考えていきたい。なおテキストは適宜配布する。

演習 II

久保田 真継

室町・戦国期の諸相を追究し、あわせて卒業論文作成の指導を行なう。なお史料・参考文献は適宜指示したい。

演習 I

葉貫磨哉

『蔭涼軒日録』の長享元年10月より講読して、室町將軍の動静や時代思潮などを考える。また五山脈のあり方を理解するために見学も行う。

演習 II

葉貫磨哉

鎌倉・室町時代の歴史を通観し、研究発表を通して問題点を探り、併せて卒業論文の指導も行う。

演習 I

廣瀬 良弘

下記の史料を用いて、織豊政権期を経て近世幕藩体制社会が成立していく過程を考察し、併せて近世史料の読解力・分析力を養う。

〔教科書〕徳川家康の発給文書、歴代將軍の事歴

を記録した『徳川実紀』，家康の家臣である松平家忠の『家忠日記』と江戸前期から中期にかけて町奉行から町方へ出された法令を集めた『正宝事録』のコピーを配布する。

演習 II

廣瀬良弘

近世史料を講読し，その読解力を養い，併せて受講者の研究発表を通じて卒業論文の指導を行う。
〔教科書〕史料はコピーして配付。

演習 I

南和男

幕末の諸史料を読みながら，諸問題を考察する。また各自は研究発表をし，卒論作成の資とする。
〔教科書〕コピーを配布する。

演習 II

南和男

幕末維新の諸問題の研究発表を通して，卒業論文の作成指導をする。

演習 I

山口一之

近代文書のコピーを使用し，史料の読解力と批判力をつけることに主眼を置く。教材については当方で準備する。

〔参考書〕児玉幸多編『くずし字解読辞典』
〔普及版〕（東京堂出版）¥2,200

演習 II

山口一之

各自の研究報告とそれについての討論を行う。自分の研究テーマだけに興味を限定せず，歴史を色々な角度から考える様にしてもらいたい。

演習 I

渡辺直彦

桓武天皇の延暦十五（796）年七月条から，順次資料を講読する。

〔教科書〕『日本後紀』（吉川弘文館）¥2,060

演習 II

渡辺直彦

律令官制とその定員とを規定した「職員令」を講読する。

〔教科書〕『令義解』（吉川弘文館）¥3,300

演習 I

阿部肇一

『二十二史劄記』趙翼撰，前巻部分の講読と研究。

演習 II

阿部肇一

『入唐求法巡礼行記』（円仁）の講読と研究発表。

〔教科書〕プリント配布。

演習 I

渡辺 惇

趙翼著『二十二史劄記』の明代の部分（漢文）を講読する。

〔教科書〕プリントを配布する。

演習 II

渡辺 惇

范文瀾著『中国近代史』のアヘン戦争の部分（現代中国文）を講読する。

〔教科書〕プリントを配布する。

演習 I

佐々木 真

西洋史に関する古典的な文献をテキストとし、これを輪読する形式で授業を進め、外国語文献・史料の読解力を養う。また、4年次の卒業論文作成の準備として、後期には各受講生に、自分がテーマとする分野に関する報告を義務付ける。テキスト等は、開講時に受講生と相談して決定する。

演習 II

佐々木 真

欧文のテキストを輪読する。また、必要に応じて随時、各受講生に報告を課して、卒業論文作成の指導を行う。テキスト等は、開講時に受講生と相談して決定する。

演習 I

伏島 正義

当該演習では、歴史に抱く興味は人により多岐に亘るとはいえ、受講生にとって共通となる文献（論文、専門書）を分担発表などにより輪読する。

またこの演習は4年次に課される卒論作成の準備段階としての役割を負わんとするため、特にその年度の後半部分において、各自によって進められてきたその研究の成果を発表し、その質疑応答を通して、その研究の問題（疑問）点を認識し、4年次の卒論作成に資する。テキスト等は受講生と相談し、決める。

演習 II

伏島 正義

当該演習では、西洋史上の古典的名著を輪読する。また卒業論文の完成を目ざす。テキスト等は受講生と相談し、決める。

演習 I

飯島 武次

中国語原典の講読。パソコンの使用実習。

〔教科書〕栗山好夫『パソコン入門』（池田書店）
¥1,200

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
（山川出版社）1985年 ¥7,000

演習 II

飯島 武次

卒業論文の指導を兼ね、考古資料の調査研究を行なう。発表方法については、最初の授業の折りに指示する。また考古学におけるパソコンの使用について研究指導をする。

〔教科書〕栗山好夫『パソコン入門』（池田書店）
¥1,200

演習 I

加藤 晋平

旧石器時代から縄文時代にかけての生業活動に関する論文をとりあげ、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

演習Ⅱ

加藤 晋平

先史時代に関し、受講者それぞれが抱く関心について、適当な論文を与え、講読する。講読資料は、授業時に配布する。

東洋史各説Ⅰ（古代）

宇都木 章

中国古代史、特に西周時代、春秋戦国時代、秦漢時代に関する政治史及び社会史上の主要な問題の概説を行う。必要な史料はその都度、プリント配布する。

演習Ⅱ

倉田 芳郎

年度第1週目の授業に必ず出席のこと。
卒業論文の指導もする。

東洋史各説Ⅲ（中世）

丸山 宏

古代帝国崩壊以後、三国時代、魏晉南北朝、隋唐帝国までの中国の中世史をできるだけ全体的に理解する試み。当該時期の歴史の大きな流れを示すとともに、特色ある政治・経済・社会・思想・文化の解明をしたい。

〔教科書〕尾形 勇著『東アジアの世界帝国』

（講談社）¥2,200

谷川道男著『世界帝国の形成 後漢—隋・唐』（講談社）¥600

日本史各説Ⅱ

久保田 真継

鎌倉・室町時代について、研究史も紹介しながら講義する。とくに教科書・参考書は指定しない。

東洋史各説Ⅵ（近世）

野沢 佳美

明清時代の政治史を中心に、周辺諸国との関係をも合わせて概説する。教材等は開講時に指示する。

日本史各説Ⅲ

土肥 鑑高

江戸時代の元禄—天保期について、いわゆる三大改革を中心に講ずる。田沼時代や化政期についても再評価してゆきたい。

〔教科書〕『改革の虚像』（秀英出版）¥1,200

東洋史各説Ⅷ（周辺史）

片岡 一忠

日本と中国とは「一衣帯水」の間柄といわれ、二千年にわたる交流の歴史があるが、近百年に両国の間でおこった諸事件は、現在もなお両国の関係にカゲをおとしている。講義ではこの近百年の両国の関係の歴史を考え、今後の両国関係を展望したい。（資料を配布する）

日本史各説Ⅳ

山口 一之

本年は明治維新史の講義とする。

東洋史各説Ⅸ（周辺史）

田 中 通 彦

中国東北地方（旧満州）を中心に、東北アジアに展開したツングース系諸民族の歴史と文化について述べる。まず，“ナラ林文化圏”と総括できる特異な生態的条件に触れ、その基礎社会（共同体）の存在構造、国家形式の過程、その国家の存在型態の特異性を論ずる。その対象となる国家、王朝は、扶餘・高句麗・百濟・渤海・金・後金（清）等である。

〔教科書〕教科書は使用せず。

〔参考書〕その時間ごとにシラバス、図解、地図等を配布し、理解を助ける資料とする。
参考書・参考文献は必要に応じて紹介する。

東洋史各説Ⅹ（周辺史）

松 田 俊 道

イスラームを、狭い意味での宗教という枠組でとらえる思考が無意味であることは専門家の間では常識となっている。イスラームはひとつの文明体系として理解されるべきである。講義では、東は中国から西はアフリカやヨーロッパにまで広がる現代イスラーム世界を考慮に入れ、その背景となっている豊かなイスラーム文明の歴史も紹介する。

〔参考書〕講義のなかで紹介する。

西洋史各説Ⅱ

岩 本 裕 子

アメリカ「合衆国」史を概説する。1年目は時代を追って通史（植民地時代～現代）を、2年目はアメリカ史に特徴的なテーマ（先住民、黒人、マイノリティなど）ごとの歴史を扱う。今年度は通史を概説する。前期は、南北戦争の再建終了まで、後期は、19世紀末から現在に至る歴史を追う。昨年度テーマ別にアメリカ史を学んだ学生には、昨年度の講義を裏付けとなるよう、また今年度から受講する学生には、来年度の基礎作りとなるような講義としたい。とかく歴史が浅く若い国と言われがちな合衆国の、現在抱える諸問題に関して、受講生の興味を引き出し、「考える」ための問題提起を心がけたい。学生の積極的な講義への参加に期待している。

〔教科書〕有賀 貞・大下尚一編『概説アメリカ史』（有斐閣選書）

〔参考書〕清水 博編『アメリカ史〔増補改訂版〕』（山川出版社）

西洋史各説Ⅳ

伏 島 正 義

中世史に興味がひかれる契機は、ある伝説的物語のもつ魅力に負うところが少なくない。本講ではそうした物語を選んでみたい。そして、そうした物語がある特定の歴史的背景を反映したものであるとの認識に立ち、それがいかなる社会的背景に基づくものであるかについて考えてみたい。具体的にどのような物語を扱うかについては、受講生と相談のうえ決める。文献、関係論文（邦文、英文）、史料などを読みつつ、演習形式により授業を進めたい。テキスト、文献等は授業時に指示する。

但し、受講生の希望により、必ずしも物語に限定されるものではない。

西洋各国史Ⅰ

青 木 道 彦

今年度は「クロムウェルとピューリタン革命」をテーマにとりあげ、その頂点である国王チャールズⅠ世の処刑（1649年）の頃までを講義する。イギリスの政治・経済や国際関係にも留意するが、やはりピューリタニズムを軸とした宗教の動向と政治的変革の関係が中心となるであろう。担当者作成の英文年表を使用するが、この英文年表あるいはこの時代についての平易な概説書について、レポートを提出させる課題を課す。4年生を除き、この課題を提出しない学生には、定期試験の受験資格を与えないので、よく注意すること。

〔参考書〕今井 宏『クロムウェル』（清水書院）
浜林正夫『増補版 イギリス市民革命史』（未来社）

西洋各国史Ⅱ

井 村 行 子

かつてドイツの諸法規・諸制度は日本の近代化のモデルとして導入され、おそらく一部はその結果でもあろうが、両国の近・現代史の展開にはしばしば一定の類似性が指摘されている。好むと好

まざるとにかかわらず、ドイツと日本とのかかわりは深いと言わざるをえない。そして、今また統合された「大」ドイツ連邦共和国は、とりわけユーゴ内戦とのかかわりをめぐって、再びそのナショナリズムがとりざたされるにいたっている。本講義では「三月前期」以降のドイツ近・現代史の過程を、当時の言葉で言えば、「自由と統一」、言い換えれば、民主主義とナショナリズムの相克という視点から捉えなおしていきたい。

〔教科書〕特になし。

〔参考書〕授業中に適宜紹介する。

西洋各国史Ⅳ

佐々木 真

本講義では、絶対王政期からフランス革命を経て、19世紀へと至るフランスの歴史を、国家構造の問題を中心に考察する。フランスはヨーロッパ諸国のなかでも、中央集権的性格が強い国であると考えられているが、これは絶対王政期以降に中央政府が強力に行政的集権化と文化的画一化の政策を推進した帰結であった。講義では各時代における行政、経済、教育、軍事などの政策を分析し、いかにして「フランス」や「フランス国民」が形成されていったのか、またそれにより人々の暮す社会と国家との関係がどのように変化したのかを考えてみたい。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

考古学各説Ⅰ

西江 清高

中国南部、東南アジアの大陸部の考古学を概論する。多様な民族文化が複雑に共存する今日の同地域の文化的状況は、漢文化が波及した紀元前後の同地域において、すでにその基盤ができあがっていたように思われる。そのような文化の基盤の成り立ちを、考古学の観点から論じてみたい。土器のはじまり、稲作の波及、青銅器の発展などがテーマとなる。必要な資料は、授業の中で配布する。

考古学各説Ⅱ

関根 孝夫

土器の研究は、いつでも考古学研究にとって最も基礎的な作業となっている。最近急増した豊

富で多量な資料は、すでに確定していた土器研究にさまざまな面で問題を投げかけ、また新たな状況での研究の再編を必然化している。ここでは、とくに弥生時代後期から古墳時代前期にかけての土器を対象として、編年上の問題を研究史的に整理しながら、とくに関東地方の土器研究にアプローチしていきたい。

古文書学

葉貫磨哉

文書作成の目的や様式・保存・伝来等の理由、文章・料紙・筆蹟等の鑑賞用に至るまで、古文書についての概括的な講義を行う。後期は演習も行う。

古文書講読Ⅰ

久保田 真継

普段は兎角、活字などで読みがちな史料としての古文書を、写真版で解読することにより親しむことにつとめる。なおとくに中世古文書を中心に講読する。一応教科書を設定するが、随時コピーなども使用していきたい。

〔教科書〕『演習古文書選（古代・中世編）』（吉川弘文館）¥1,400

〔参考書〕『古文書解読辞典』（柏書房）¥2,500

古文書講読Ⅱ

廣瀬 良弘

どこの市町村にも豊富に存在するのが近世以降の古文書であろう。これらの新しい史料を解読し、地域の歴史を組み立てていくのは歴史を学ぶ者にとっての醍醐味である。しかし、せつかくの史料も解読できないのでは、どうすることもできない。本講座では、とまかく古文書に親しみ、読解できる力を養い、原文書から歴史を読みとる作業を試みたいと思う。具体的には織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の発給文書をはじめ、村・町・寺社・武家等の文書を解読する。古文書の写真等のコピーを随時配布する。

〔教科書〕日本歴史学会編『演習古文書選（近世編）』（吉川弘文館）¥1,500

〔参考書〕『くずし字解読辞典』（近藤出版社）¥2,000

『古文書解読字典』（柏書房）
¥2,500

日本史特講Ⅰ（古代）

渡辺直彦

平安初期の政治や文化について、基本史料を解読しながら講述する。

〔教科書〕『史料による日本の歩み 古代編』
（吉川弘文館）¥2,900

日本史特講Ⅱ（中世）

宮本由紀子

特に中世という時代にとらわれず、古代から近世に至る女性観について各階層の女性に焦点をあて、その時代の社会構造と関連させて講義する。具体的に女性の地位、性的役割分担などの考察によって「歴史のなかの女性」の実像に迫りたい。ノート中心とし、教科書の指定はない。

日本史特講Ⅲ（中世）

久保田真継

戦国期の社会を日本史上、中世封建制から近世封建制への移行（過渡）期とみるか、固有の社会とみるかは意見の分れるところであるが、戦国期の社会が中世の総括として、また近世の先駆としての時代的要請をうけていたことは認められよう。こうした問題関心により、本講座では「東国戦国大名」を例としながらその実態と歴史的意義を考えたい。

日本史特講Ⅲ（中世）

芥川龍男

本年度は中世の初期、つまり鎌倉期を中心に、武士の基本的性格・武士団・惣領制などについて考察する。一方的な講義でなく、教科書以外にも史料・文献を読破し発表するなどのゼミナル方式もとり入れるので積極的な学習を期待する。

〔教科書〕石井進著『鎌倉武士の実像』
（平凡社）¥2,300

日本史特講Ⅳ（近世）

土肥鑑高

近世は「米遣い経済」といわれている。そこで、米を軸としてその流通→統制の過程を考えるとともに、「天下の台所」といわれる大坂の市場構造にもふれてゆきたい。

〔教科書〕『米と江戸時代』（雄山閣出版）
¥1,800

『江戸の米屋』（吉川弘文館）¥1,200

日本史特講Ⅴ（近世）

小暮正利

主に近世村落の成立期や解体期の地方文書に直接ふれながら、村落生活のさまざまな様相について論じる。

〔参考書〕木村礎『近世の村』（教育社歴史新書）¥800

日本史特講Ⅵ（近代）

南和男

幕末期の政治や社会の推移を考察する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅲ（古代）

宇都木章

中国古代における時代の転換期といわれる戦国時代の諸侯の政治について考察を行う。主要なテ

ーマは (1)戦国史の史料についての考察。(2)戦国時代の歴史的位地付けに関する従来の諸研究。(3)戦国時代史の特質について。(4)戦国時代の文物について。

東洋史特講Ⅵ (中世)

丸 山 宏

後漢から六朝時代にかけて中国は分裂と変動の時期を迎え、非漢民族の侵入や仏教道教の成立と定着を経験した。本特講においては特に中国の民族的宗教とも称される道教をテーマとして、当該時期の宗教と社会の関連を具体的に考えたい。

〔参考書〕アンリ・マスペロ著 川勝義雄訳『道教』(平凡社)

東洋史特講Ⅸ (近世)

野 沢 佳 美

中国における書籍の発達と変遷を概述し、とくに仏典の周辺諸国(韓半島・日本)への伝播と影響を考えてみたい。教材等は開講時に指示する。

東洋史特講Ⅹ (近・現代)

安 藤 正 士

現代中国の政治外交史=中国の内政と国際関係について、近代化論、比較政治論の立場から講義する。

〔教科書〕安藤忠士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』(岩波書店) ¥540

東洋史特講Ⅻ (近・現代)

渡 辺 惇

近代中国民衆結社史。近代化中国における民衆史、社会史を理解する一環として、秘密結社(会党・帮会・黒社)をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕酒井忠夫『中国民衆と秘密結社』(ユーラシア文化史選書)(吉川弘文館) ¥1,900

東洋史特講Ⅼ (周辺史)

片 岡 一 忠

中国とその西方、すなわち西域との関係は、絹の西方への輸送や仏教と中国への伝来等、平和的な関係で知られるが、他面、中国にとって西域(狭義の意味。現在のタリム盆地)は政治軍事上きわめて重要な位置にあった。講義では、中国と西域の関係の歴史の変遷をみていき、今日の中央アジア情勢に及びたい。(授業の中で資料を配布していく)。

東洋史特講Ⅾ (周辺史)

田 中 通 彦

東アジア世界の史的構造の特異性を大きく把握しながら、朝鮮の史的展開を、その風土的・生態的条件と有機的に関連させつつ三国時代から李朝末までの通史として述べる。また外来文化と基層文化との関係にも論及し、その史的・文化的な在り方をも考察し、現在の韓国・朝鮮を理解するための基礎となるように努める。時間に余裕があれば近代以後の朝鮮史にも論及する。

〔教科書〕教科書は使用せず。

〔参考書〕その時間ごとにシラバス・図解・地図等を配布し、参考文献を挙げる。

西洋史特講Ⅰ

長谷川 岳 男

西洋史を専攻する学生諸君は、将来に備えて語学力を養うことが望まれる。この特講Ⅰでは、平易な英文をテキストとして、西洋史の概説的知識を身につけるよう、演習形式をとる。新2年生および昨年度履修できなかった西洋史専攻希望の3年生は必ず出席すること。テキストは第1時限目に指示する。

西洋史特講Ⅱ

三小田 敏 雄

キリスト教の起源から現代までを下記の教科書を使って学んで行く。著者はエール大学の教授であったが、キリスト教史研究者として世界的に著名であり、多くの著書を残している。本書は専門

書というより入門書であって著者自身の挿絵が多く使われ、楽しみながら書いたと思われる。本講義では出席を重視し欠席の多いものは受講したと認めない。

〔教科書〕ベイントン『世界キリスト教史物語』
(教文館) ¥1,800

西洋史特講V

中 村 純

古代ギリシア史上の諸問題、特に政治上重要と思われる諸問題を取りあげて論じる。詳しくは開講時に述べる。

〔参考書〕伊藤貞夫『古典期アテネの政治と社会』
(東大出版会)

考古学特講I

高 浜 秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

考古学特講Ⅲ

飯 島 武 次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
(山川出版社) 1985年 ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』
(山川出版社) 1991年 ¥11,000

日本仏教史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに、鎌倉仏教の成立と

展開、仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり、都市景観と寺院、一向一揆・無縁所寺院と戦国大名、寺院と檀家等について考察する。その際には各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・金石史料等も提示しながら行うことにする。

〔参考書〕黒田俊雄著『寺社勢力—もう一つの中世社会—』(岩波新書)
網野善彦著『無縁・公界・衆』(平凡社選書)
井上鋭夫『山の民・川の民』(平凡社選書)

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について講述する。

西洋文化史I

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式(人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位)や知の世界(読書行為、識字)、民衆の心性(価値規範、死生観)などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏 雄

本年度は下記の教科書を使用して、〈西欧的結婚パターン〉や〈ライフ・サイクル奉公人〉というような西欧の特徴を通してヨーロッパの家族関係の変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具

体的表現を学んで行く。

〔教科書〕ミッテラウア／ジューダー『ヨーロッパ
家族社会史』（名古屋大学出版会）
¥2,472

考古発掘実習

千葉 基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。充分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

考古学実習（写真）

鈴木 昭夫

前期に於ては、講義を主体とし随時実技実習を組み込み写真基礎技術をマスターし、後期には、実技を中心とし特殊写真特に考古、美術写真の撮影及び暗室技術の習得を旨とする。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

尚夏期に於て、発掘現場写真撮影の実習を行う事も考慮している。

〔参考書〕鈴木昭夫他共著『研究者のための資料写真の撮り方』（理工学社）

考古学実習（測量）

栗山 稔

遺跡調査等において必要となる測量の基礎知識と技術取得、特に後者に重点を置き講義・実習を行う。夏休みに3～4日の集中実習に参加することが必要である。年度第1週目の講義に必ず出席のこと。

〔教科書〕壇原 毅著『測量の基礎』（山海堂）

考古学実習（石器）

田中英司

石器研究の基礎である石器の観察と石器実測図についての講義を行う。石器の研究史と実測図の

歴史、石器製作と打撃の原理、投影法、表現法等の基本的知識と、それをふまえた実技を通して、考古資料の記録と観察法を学ぶ。

〔教科書〕プリントを配布する。

考古学実習（土器）

酒井 清治

出土遺物である「もの」の調査は考古学の基本であるとともに、その後の研究の基礎資料となる。出土遺物の一つである土器を通して、実測の目的および基礎技術、観察の方法などを理解できるようにする。

〔参考書〕大井晴男著『野外考古学』（東京大学出版会）

『発掘調査の手びき』（国土地理協会）

服部敬史著『発掘と整理の知識』

（東京美術）

『考古学調査研究ハンドブック 2. 室内編』（雄山閣）

地誌学

橋詰 直道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学

長野 覺

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもちたい国々の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、参考書は開講後に指示する。

〔教科書〕藤岡謙二郎他『世界地誌』（大明堂）

地誌学

宮口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にならわって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編『地理統計』

歴史地理学

中 島 義 一

一般の人文地理学では現在の事象を扱うが、歴史地理学では歴史時代の事象を対象とする。その点歴史学と共通するが、見方考え方は地理学の立場に立つ。学問分類上は地理学にぞくするが、実際には地理学と歴史学の接点という性格が強い。本講義では地域的には国内に、時代的には近世・近代に限定し、交通・集落等を取り上げて行く。この科目履修の機会に地理学科の人は歴史学に、歴史学科の人は地理学に親しんでほしい。

〔教科書〕山崎謹哉編『近世歴史地理学』（大明堂）¥2,400

哲学史

丸 山 豊 樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

美術史概説

中 島 亮 一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美術を、後期は鎌倉時代以後（できれば江戸時代まで）の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し（例えば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など）スライドなどをとおして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕久野 健他『美術史〈日本〉』（東京堂出版）¥2,000

〔参考書〕その都度指示する。

西域美術史

相馬 隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大な絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

仏教美術

中島 亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕高田 修『仏像の誕生』
(岩波新書 388) ¥480
佐和隆研『仏教美術入門』
(教養文庫 576) ¥720

〔参考書〕その都度指示する。

中国歴史文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』(明德出版) ¥2,170

ラテン語特講

佐藤 玖美子

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、特に文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。また平行して、やさしいラテン語で書かれた読物の講読も行いたいと思います。

〔教科書〕松本悦治著『ラテン語入門』(駿河台出版社)

〔参考書〕田中秀央編『羅和辞典』(研究社)

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期(誕生・成年・結婚・厄年など)に行われる人生儀礼(通過儀礼)を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

有職故実

大塚 英子

平安貴族社会の文化について、儀式書・有職故実書に記されている儀礼・年中行事や服飾の制度を詳説し、物語や絵巻に描かれる風俗との関係を考察する。

〔教科書〕河鱈実英『有職故実』(塙書房)
¥1,900
奥平英雄『源氏物語絵巻』(保育社)
¥1,000
他、プリント使用

社会学科

基礎教育科目

社会学概論(坪井 健)	123
社会福祉原論(伊藤 秀一)	123
心理学概論(篠原 英壽)	123

専門教育科目

社会統計学(前期:川崎 賢一)	123
(後期:三重野 卓)	123
社会学史(安藤 喜久雄)	123
社会学方法論(前期:金丸 由雄)	124
(後期:安田 雪)	124
社会調査(川本 勝)	124
社会調査実習(江上 渉・坪井 健)	124
山本 康正)	124
マスコミュニケーション(川本 勝)	124
産業社会学(安藤 喜久雄)	124
都市社会学(江上 渉)	124
農村社会学(江上 渉)	125
家族社会学(岩上 真珠)	125
法社会学(小林 弘人)	125
宗教社会学(芳賀 学)	125
社会心理学(坪井 健)	125
社会病理学(山本 康正)	125
外書講読Ⅱ(坪井 健)	126
社会学特講Ⅰ(橋爪 敏)	126
社会学特講Ⅱ(山本 康正)	126
社会学特講Ⅲ(前期:川崎 賢一)	126
(後期:三重野 卓)	126
社会学原論(渡辺 源樹)	126
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)	126
図書館学Ⅱ(源 昌久)	127
社会福祉調査論(坂田 周一)	127
社会福祉援助技術総論(高橋 重宏)	127
社会福祉援助技術各論ⅡB (社会福祉調査技法)(小林 昭二)	127
法学(福祉)(小林 弘人)	127
社会福祉援助技術各論ⅠA (ケースワーク論)(柏女 靈峰)	127
社会福祉援助技術各論ⅠB (グループワーク論)(川廷 宗之)	128
社会福祉援助技術各論ⅡA (コミュニティ・ワーク論)(川廷 宗之)	128
リハビリテーション論(原田 信一)	128
社会福祉運営論(坂田 周一)	128
家族福祉論(高橋 重宏)	128

児童福祉論(柏女 靈峰)	129
障害者福祉論(原田 信一)	129
老人福祉論(前期:中野 いく子)	129
(後期:東條 光雅)	129
地域福祉論(和田 敏明)	129
公的扶助論(伊藤 秀一)	129
医療福祉論(前期:松本 栄二)	130
(後期:春見 静子)	130
婦人福祉論(林 千代)	130
保健福祉論(安梅 勅江)	130
社会福祉援助技術現場実習Ⅰ(伊藤 秀一)	130
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ(伊藤 秀一)	130
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ (前期:高橋 重宏)	130
(後期:東條 光雅)	130
社会福祉援助技術現場実習Ⅱ(原田 信一)	130
社会福祉援助技術演習Ⅰ (前期:高橋 重宏)	131
(後期:東條 光雅)	131
社会福祉援助技術演習Ⅰ(佐々木 政人)	131
社会福祉援助技術演習Ⅱ (前期:高橋 重宏)	131
(後期:東條 光雅)	131
社会福祉援助技術演習Ⅱ(佐々木 政人)	131
社会福祉調査実習(前期:坂田 周一)	131
(後期:東條 光雅)	131
社会福祉学特講Ⅰ(児童)(長谷川 重夫)	131
社会福祉学特講Ⅱ(老人)(長浜 恭子)	132
社会福祉学特講Ⅲ(障害児・者) (金子 勇)	132
社会福祉学特講Ⅳ(相談・援護) (松本 栄二)	132
社会保障論(近藤 功)	132
社会福祉発達史(林 千代)	132
海外社会福祉論(中野 いく子)	132
社会学(福祉)(橋爪 敏)	133
心理学(福祉)(井上 孝代)	133
医学一般(小林 臻)	133
介護概論(石黒 チイ子)	133
心理学史(寺岡 隆)	133
心理統計学(篠原 英壽)	133
心理学実験(実習)(篠原 英壽・小野 浩一 谷口 泰富・茅原 正)	133
心理学研究法(小野 浩一)	134
基礎心理学Ⅰ(人格)(谷口 泰富)	134
基礎心理学Ⅱ(発達)(篠原 英壽)	134
基礎心理学Ⅲ(学習)(小野 浩一)	134
基礎心理学Ⅳ(社会)(萩原 滋)	134
基礎心理学Ⅴ(臨床)(前期:林 潔)	134
(後期:中村 昭之)	134
心理学研究Ⅰ(実習)(寺岡 隆)	134
心理学研究Ⅱ(実習)(茅原 正)	135
心理学研究Ⅳ(実習)(篠原 英壽)	135
心理学研究Ⅴ(実習)(小野 浩一)	135

心理学研究VI(実習)(谷口 泰富)	135
生理心理学(谷口 泰富)	135
環境心理学(山本 多喜司)	135
情報処理I(大塚 秀治)	135
情報処理II(牧野 晋)	136
児童心理学(横山 剛)	136
産業心理学(高橋 誠)	137
カウンセリング(鈴木 順一)	137
心理検査法I(森山 敏文)	137
心理検査法II(森山 敏文)	137
禅心理学(茅原 正)	137
心理学特講I(佐々木 雄二)	137
心理学特講II(佐々木 宏幹)	138
心理学特講III(讃岐 真佐子)	138
精神医学(柴田 出)	138
社会政策(光岡 博美)	138
民法(叶 和夫)	139
労働法(藤本 茂)	139
行政法(鷄徳 啓登)	139
経済原論(浅野 克巳)	139

社 会 学 科

基礎教育科目

社会学概論

坪 井 健

社会学は、多くの人にとって初めて出会う学問である。「社会学とは何か?」。この問いに答えることは難かしいが、要は私たちの日常的な様々の社会経験を社会システムとの関連で理解するための知的枠組の1つであると言える。

この講義では、そうした点を考慮して社会の経験的な諸事象に対する社会学的な見方の獲得を主眼とし、当初は社会学の基礎的概念の理解に努め、その後、現代社会の諸現象を選択的に分析していく中で、社会学的分析の有効性を見極めていきたい。

〔教科書〕『社会学概論』『統計からみる社会学』（学文社）

社会福祉原論

伊 藤 秀 一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）¥1,700

心理学概論

篠 原 英 壽

この講座は基礎教育科目に組入れられているが、専門科目であるので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで、心理学とはどの

ような学問か。その研究方法・研究対象、及び意義について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕『心理学概説』（八千代出版）

専門教育科目

社会統計学

（前期）川 崎 賢 一
（後期）三 重 野 卓

社会調査を企画・実施し、調査結果を集計・分析するための、知識と技術を習得することを目的とする。前半は、①社会調査のプロセス、②記述統計の理解、③ワープロソフトの基本操作、を目指す。後半は、①クロス集計、②統計的検定、③多変量解析、等の、分析法を中心にする。

いづれにしろ、出席を前提として、簡単なテストやパソコン実習なども、平行して行なう予定である。

〔参考書〕D. ロウントリー（加納（訳））『涙なしの統計学』（新世社）
ボンシュテット、ノーキ（海野・中村（訳））『社会統計学』（ハーベスト社）1990年 ¥2,987

社会学史

安 藤 喜 久 雄

過去から現代に至る主要な社会学理論を概観する。とくに、社会学理論の中であって現代に大きな影響を与えている主要な理論を中心に講義を進める予定である。

〔教科書〕児玉幹夫他『社会学史の展開』（学文社）¥2,500

社会学方法論

(前期) 金丸由雄
(後期) 安田雪

社会学に於いては、しばしば社会構造という言葉が用いられているが、この言葉ほど実は人により様々な使い方がなされてきた概念はないと言って良い。にも拘らず、社会の構造という概念は、社会の安定した状態のみならず変化を考える為にも不可欠である。本講に於いては、従来行われて来たいくつかの定義を比較検討し、更にそれらをいくつかの調査結果に適応し、より満足すべき定義を試みる。

〔参考書〕その都度指示する。

社会調査

川本 勝

社会調査は、社会的現実を科学的、実証的に把握、分析するための研究方法である。それは、直接現地調査によってデータを蒐集し、分析することに特色がある。

そこで、まず社会学理論と仮説と社会調査との関係を考察し、社会調査の手順にしたがって講義を進める。社会調査実習で具体的なテーマのもとに調査を実施するので、実習とのかねあいを配慮しながら、調査を実施する上で特に注意しなければならない点やデータ蒐集の技法、データの読み方、検定の仕方などを検討する。特に、前期は、パソコンを使ってのデータ集計、分析方法をマスターする。

社会調査実習

江上 渉・坪井 健
山本 康正

社会調査の技法をマスターすることを目的として、主として統計調査の実習を行う。まず社会調査の手順をひととおり理解した上で、調査の企画、設計、データの収集、集計、分析、報告書の作成の一連の作業を実施する。

データの集計及び解析には、コンピュータを使用する。

尚、調査実習は、通常の講義科目とは異なり、実際の作業を通じて社会調査の技法を修得することが目的なので、遅刻、欠席は厳しくチェックする。

〔参考書〕その都度指示する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』（学文社）
¥2,500

都市社会学

江上 渉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかということにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

農村社会学

江 上 涉

日本の農村社会は戦後50年間に大きく変貌した。農地改革を中心とする戦後改革や高度経済成長などが農村社会に及ぼした影響は大きいし、また農業政策によって農村社会が翻弄されてきたことも見逃すことができない。このような種々の要因と農村社会の変動との関連を、戦後の歴史をかえりみながら探っていくことを主なテーマとする。農村社会を理解するために必要な制度や慣行（例えば日本の伝統的家族制度、土地所有や用水確保にかかわる制度や慣行など）にも適宜ふれることになる。

〔教科書〕 蓮見音彦『苦悩する農村』（有信堂）
¥2,060

家族社会学

岩 上 真 珠

家族という領域は、非常に多くの人を経験する社会的領域である。この社会的領域の様態は、一方で社会の仕組みと密接な関連を持ち、他方では個人の人生の展開とも大きく絡み合っている。この講義では、「こういう家族が望ましい」といった議論ではなく、個人と社会の結節点としての家族を社会学的に分析するという目的のもとに、まずは家族社会学の基本概念や分析枠組みを学ぶ。その後、最近の理論の紹介や、家族をめぐる現象や言説で興味深いものを取り上げて社会学に接近する、といったことを試みたい。

〔教科書〕 森岡清美・望月 高共著『新しい家族社会学』（培風館）¥1,751

〔参考書〕 講義で適宜指示。

法 社 会 学

小 林 弘 人

前期は、法社会学の基礎理論（学説の説明が中心になる）の解説、後期は、法と社会の関連について、具体的テーマを設定して講義する予定である。

その他、諸般のことからについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 及川 伸著『法社会学入門』（新版）（法律文化社）

〔参考書〕 六本佳平著『法社会学』（有斐閣）

宗教社会学

芳 賀 学

現代日本は、第三次宗教ブームの渦中にあるといわれている。特に、青少年は、宗教現象に高い関心を見せている。この講義では、この宗教ブームの諸現象の紹介とその背後にある社会的背景・心理構造の解説を行うこととする。ジャーナリスティックな批判に反して、宗教現象に関与する人々の理解を中心に捉えつつ、その上で再度考察を加えていく。取り上げる予定の現象は、新新宗教・占い・自己啓発セミナー・エステ等。中には宗教の日常的なイメージには入らないものも含む。さらに、対比すべき対象として、新宗教・共同体の宗教も取り上げる。講義の中で適宜ビデオ映像を取り入れ、イメージをより喚起してもらうよう留意することとする。

〔教科書〕 開講時以降に指示する。

〔参考書〕 開講時以降に指示する

社会心理学

坪 井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会学的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会学的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的とした。

〔教科書〕 穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

社会病理学

山 本 康 正

前期には、社会病理現象の分析に使用されてきた諸理論を歴史的に概観する。後期には、犯罪、非行、公害といった具体的な病理現象について、わが国の現状を明らかにする。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

外書講読Ⅱ

坪井 健

外書講読Ⅱは、原書(英文)の講読を通して社会学的なものの方や考え方を深めることを目的とする。具体的には、いくつかの論文を輪読しながら、討議し、理解を深めていくことになるが、テキストは開講時に指示する。

社会学特講Ⅰ

橋爪 敏

政治社会学的諸問題について取り扱うことになる。政治社会学は、政治現象について社会的アプローチを試みる一分野である。したがって、社会学の対象としての人間諸関係の政治的側面とそれ以外の社会的諸側面との関連が問題となる。

本講では、政治社会学とは何か、大衆民主主義社会の状況、大衆とエリート、政治(社会)運動、政治的社会化といった問題を取り上げたい。

“特講”と名づけられているが、講義形式ではなく、参加学生諸君の主体的研究を促す意味において、1～2冊の専門文献の講読とそれに関わるディスカッションを行うことになる。成績は、出席状況、報告内容、前期・後期のレポートによって総合的に評価する。意欲的な参加が望まれる。

〔教科書〕参加学生との相談によって決定する。

社会学特講Ⅱ

山本 康正

災害の社会的な研究について、その歴史と現状を講義する。前期には、災害全般について、その本質論、意識論、及び災害現象分析のための理論的枠組みについて講義する。後期には、いくつかの具体的な災害事例をとりあげて、人々の行動特性や組織的、地域的な対応について検討する。教科書は特に指定しないが、参考文献については講義の中で随時指示する。

社会学特講Ⅲ

(前期)川崎 賢一
(後期)三重野 卓

前期は、川崎が、情報化と現代文化について講

じる。具体的には、①情報化について、②情報化による文化変容、③情報化と現代日本文化、の3つについて講じる予定である。

〔参考書〕川崎賢一『情報化と現代日本文化』(東京大学出版会)1994

後期は、三重野が「生活の質」と文化について講じる。予定としては、①社会変動と「生活の質」、②「生活の質」の概念と論理構成、③文化の在り方と「生活の質」、④システム・人間観、⑤計画化と文化・生活様式、⑥共生と生活様式、等を考えている。

〔教科書〕三重野卓『<生活の質>の意味』(白桃書房)1990

社会学原論

渡辺 源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点から、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

図書館学Ⅰ

山崎 慶子

小学校、中学校、高等学校等各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力がある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版(学芸図書)¥1,442

図書館学Ⅱ

源 昌 久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕 もり・きよし原編『日本十進分類法 新訂8版』（日本図書館協会）
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』（日本図書館協会）

社会福祉調査論

坂 田 周 一

本講義では、社会福祉の分野でなされる調査の特質をおさえた上で、調査ならびに統計に関する基本的な知識・技術について講じてゆく。

本科目は、「社会福祉調査実習」に結びつき、実習前教育としても位置づけられるものであるため、調査技法に関しても具体的に展開するつもりである。

〔教科書〕 開講時に指示する。
〔参考書〕 随時紹介する。

社会福祉援助技術総論

高 橋 重 宏

社会福祉援助技術総論（ソーシャルワーク実践）は、福祉専門職に必要な「福祉倫理」、「専門知識」、「専門技術」の基礎を学ぶことが中心となる。

具体的には、ソーシャルワークの基礎知識及び関連理論、歴史的展開過程、ソーシャルワーカーの専門性等についての入門的解説を中心に展開したい。

さらに、臨床事例を用いながら、ソーシャルワーカーになるための基礎理解を深め、福祉倫理や専門対人援助関係の形成の実際についても追求したい。

〔教科書〕 福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術総論』（中央法規）
¥2,500

高橋重宏他編『ソーシャル・ワークを考える』（川島書店）¥1,700

〔参考書〕 社会福祉実践理論学会編『社会福祉実践基本用語辞典』（川島書店）¥2,000

社会福祉援助技術各論Ⅱ B （社会福祉調査技法）

小 林 昭 二

この講義では社会福祉を考えてゆくのに必要な、調査と統計に関する知識と技法を説明する。

社会福祉に関する調査統計は、人口をはじめとし一般の世帯や、高齢者世帯、生活保護世帯、身体障害者等特定のニーズを有するものなど、範囲がきわめて広い。

このような調査の実施や統計の分析が、どのようにして実証性と客観性を持ち得るかを、具体的に取扱う。

〔教科書〕 『厚生統計テキストブック』
（厚生統計協会刊）

〔参考書〕 教場で指示する。

法 学（福祉）

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕 小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕 小川政亮著『社会事業法制』（第2版）
（ミネルヴァ書房）¥2,500

社会福祉援助技術各論Ⅰ A （ケースワーク論）

柏 女 靈 峰

直接援助技術における個別援助技術（ケースワーク）について概論的に理解し、さらに周辺領域の援助技術であるカウンセリング、心理療法についても学習を進める。

次に、児童に対する相談援助・ケースワークに焦点をあて、その中心的な実践機関である児童相談所に関する学習を進め、さらに、具体的事例（厚生省児童家庭局監修「児童相談事例集」より適宜選択）に当たりながら、児童に対する相談援

助の実際について学習する。模擬面接、模擬ケース・カンファレンス等の体験学習を適宜採り入れ、また、事例検討においては、各事例の要点を学生に発表してもらって討議するなど実践的な学習の機会としたい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編集
『社会福祉援助技術各論Ⅰ』（中央法規）1992 ㊦2,500
厚生省児童家庭局企画課監修
『児童相談所運営指針』（財）日本児童福祉協会）1990 ㊦2,000

〔参考書〕使用事例集は、別途作成し、配布予定。
厚生省児童家庭局監修『児童相談事例集』第17集～第25集（財）日本児童福祉協会）

社会福祉援助技術各論ⅠB （グループワーク論）

川 廷 宗 之

グループ・ワークは、ソーシャル・ワークにおける一つの専門技術と理解されるが、その原理および技術は単にソーシャル・ワークのみにおいて活用されているばかりではなく、生涯教育活動や企業内研修などにおいても広く活用されている。この科目では、そのグループ・ワークについて、原理となっているグループ・ダイナミクス理論、実際のグループ・ワーク実践上の各種の原理原則、そして、具体的実践における専門技術について、具体的な課題にもとづく演習を中心しつつ、講義や実験（授業内での）実習などの方法で学ぶ。なお、テキストとして、下記を使用するので用意されたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座9『社会福祉援助技術各論Ⅰ』（中央法規）
㊦2,500

社会福祉援助技術各論ⅡA （コミュニティ・ワーク論）

川 廷 宗 之

社会福祉実践を考える時、その実践のフィールドである地域をどう考え、その地域にどう取り組むかは、その実践の成否を左右する主要なテーマとなりつつある。そこで、この科目では、①地域福祉の諸課題、②地域福祉の目標、③地域福祉の主体と客体、④地域福祉と地方自治体、⑤地域分析の手法、⑥地域に取り組む方法と技術、⑦診断－計画－実行－評価、⑧留意すべき幾つかの事項、⑨当面する諸問題への対応、⑩基本的タームと論理、等について学ぶ事で、地域福祉の課題及びそ

の実践方法技術について学ぶ。

〔教科書〕高森敬久著『コミュニティ・ワーク』（海声社）㊦1,751
改訂社会福祉士養成講座10『社会福祉援助技術各論Ⅱ』

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔参考書〕必要に応じ適宜紹介する。

家族福祉論

高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さらに、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに1994年は国連が定めた国際家族年であり、その原則、目的、スローガン等についても講述する。

児童福祉論

柏 女 靈 峰

児童福祉とは、理想的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編集『児童福祉論』（中央法規）1992
¥2,500

〔参考書〕別途作成する『児童福祉資料集』をコピーの上、使用する予定。

障害者福祉論

原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』（改訂版）（有斐閣）

〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』（高文堂）
(2)原田・吉田編『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』（文化書房博文社）

老人福祉論

(前期) 中 野 いく子
(後期) 東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的

関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えていくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史の変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版（海声社）¥1,640
〔参考書〕三浦文夫編『図説高齢者白書1993』（全社協）¥2,800

地域福祉論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進展している。平成5年度から、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎理論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7『地域福祉論』（中央法規）¥2,500

〔参考書〕永田幹夫著〈改訂〉『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）
¥2,060

公的扶助論

伊 藤 秀 一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

医療福祉論

(前期) 松本 栄二
(後期) 春見 静子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論 医療の概念、医療の場、与え手と受け手医療法、現代医療の問題点
2. 医療領域のソーシャルワーク
歴史、意義、機能、方法、機関
3. 医療ソーシャルワークの実際
事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕 山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』
(誠信書房) ¥2,500

婦人福祉論

林 千代

私は、婦人(女性)問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時(父子家庭とも関連)、売買春の問題(性とは何か、婦人保護事業について)、女と老い(老後問題の中で)等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕 講義ノートによる。

〔参考書〕 林 千代著『母子寮の戦後史』
(ドメス出版)

保健福祉論

安梅 勅江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、

学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕 日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修
『保健福祉学概論』(川島書店)

社会福祉援助技術現場実習 I

伊藤 秀一

3年生での社会福祉援助技術現場実習の準備学習が中心となる。

社会福祉援助技術現場実習の意義を理解し、自己の実習分野を考え、かつ社会福祉実践の実態を把握することを目的に、グループ学習、現場の従事者らによる講義・講演等を行う。

〔教科書〕 開講時に指示する。

社会福祉援助技術現場実習 II

伊藤 秀一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

なお、本実習は、前年度末に学科が実施した選考試験に合格し、かつ、担当教員が許可した、学生が履修できる。

社会福祉援助技術現場実習 II

(前期) 高橋 重宏
(後期) 東條 光雅

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的展開は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行なう。

なお、本実習は、前年度に学科が許可した学生が履修できる。履修定員は20人以下である。

社会福祉援助技術現場実習 II

原田 信一

本実習は、「社会福祉士」国家試験受験資格の

取得に必要な指定科目の一つである。実習の具体的な展開内容は、「社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習指導マニュアル」に基づいて行うことになる。

社会福祉援助技術演習Ⅰ

(前期) 高橋重宏
(後期) 東條光雅

本演習は、「社会福祉士」国家試験受験資格取得の指定科目の一つである。

社会福祉士(ソーシャルワーカー)の業務は相談・援助が中心となる。そこで、社会福祉士として必要な専門援助技法の体得が演習Ⅰ、Ⅱの課題となる。

具体的には事例研究やロール・プレイ(役割演技法)の方法をもちいる。

なお、本科目は、「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」履修者の20人のみが履修可能である。

〔参考書〕追って指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅰ

佐々木 政 人

本社会福祉援助技術演習Ⅰでは、社会福祉機関、施設での援助活動に携わる上でのソーシャルワーク援助技法の基本や援助専門職としての態度等を身につけることを目的とする。特に、対人関係を形成するための面接技法の基礎を学ぶとともに、より効果的な対人援助の介入技法を体験的に習得する。取り上げる課題は以下の通りである。

- (1) 人間関係と自分
- (2) 社会福祉実践の実際
- (3) 効果的な面接技法
- (4) ケース・スタディ

〔教科書〕特になし

〔参考書〕武田 建著『カウンセリングの進め方』(誠信書房) ¥2,200
アレン・アイビー他『面接のプログラム学習』(相川書房) ¥2,800

社会福祉援助技術演習Ⅱ

(前期) 高橋重宏
(後期) 東條光雅

社会福祉援助技術演習Ⅰを基盤に、主として、ソーシャルワーカーに必要な自己覚知(Self-awareness)を深めるために自画像法により展開する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

佐々木 政 人

本演習Ⅱでは、ソーシャルワーク技法の理論と実際を総合的に、しかも体験的に学習し、ソーシャルワーカーとしての基本資質である福祉援助プログラムの企画・運営能力を培うとともに、家族援助技法に習熟することを目指す。本年度は、いろいろな児童・家族福祉問題に対するソーシャルワーク援助技法(家庭生活教育)の開発とその具体的な実践をシュミレーションなどを通して学ぶ。取り上げる課題は以下の通りである。

- (1) 家族福祉と家庭生活技能教育
- (2) 家庭生活技能教育プログラムの開発
- (3) 家庭生活技能教育プログラムの供給・普及システムの開発

〔教科書〕特になし

〔参考書〕Lieberman, R. P. et al. 『生活技能訓練基礎マニュアル』(創造出版)
¥2,678

社会福祉調査実習

(前期) 坂田周一
(後期) 東條光雅

本実習においては、実際に調査実査をすることによって、調査の企画・設計から集計・分析・報告書の作成に至る一連の作業を体得してもらう。集計・分析には、パーソナル・コンピュータを使う予定である。

具体的には、いくつかの班を作り、班ごとに社会福祉に関する調査を企画・設計してもらう。実査後、集計・分析結果をもとに報告書形式のレポート提出を各人に課す。

なお、パーソナル・コンピュータの使用法については、必要に応じて教授するので未経験だからといって心配する必要はない。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

社会福祉学特講Ⅰ

(児童)

長谷川 重 夫

社会福祉・児童福祉の発達史のなかで最古の歴史をもち、児童福祉の原型ともいわれ、いまま児童福祉体系の中の児童入所施設の中核的位置にある養護施設を中心に、施設養護全般並びに里親養護の理念、歴史および具体的な方法論等について講述したい。

後半では、ケース研究を加え、また施設現場を見学しながら、理論と実践についての統合的理解が深まるようにしたいと願っている。
〔教科書〕特定のものを使用しない。

社会福祉学特講Ⅱ (老人)

長 浜 恭 子

- 高齢化社会問題と老人福祉施設
- 施設ケアの特質とその課題
- 施設ケアの実際
主に痴呆性老人ケアとグループ活動

社会福祉学特講Ⅲ (障害児・者)

金 子 勇

日々の障害者福祉実践の中から導き出された身体障害者に対する専門的援助についての基本的な考え方及び諸技術（一般意味論、ケースワーク、カウンセリング、心理療法等）を障害者の様々な問題（生きがい、職業、結婚、人間関係、年金等）に沿って具体的に展開していくこととします。

なお、今年度は、昨年以上に人間理解を得るための実習を多く取り入れ、皆さん自身の課題の解決にも役立つよう配慮いたします。

社会福祉学特講Ⅳ (相談・援護)

松 本 栄 二

ケースワーク及びグループワーク等社会福祉実践方法について、特にその援助技法についての特殊講義。

ビデオによる対人援助場面を観ることで自由討議をする外、社会福祉実践事例の分析などを通して社会福祉実践方法としてのソーシャルワークの技法の習得することを目指す。

出来れば、ソーシャルワークとその隣接領域でもあるサイコセラピーらとの共通点、相違点について具体的事例、例えば医療の場におけるクリニカル・ソーシャルワーク心理療法の事例を用いて比較検討する。

教科書は使用しない。参考資料は適時配布（実費徴収の予定）

社会保障論

近 藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介

海外社会福祉論

中 野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策、制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会

保障』『アメリカの社会保障』
(東大出版会)

社会学(福祉)

橋 爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』
(中央法規出版)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』,
『わかりやすい社会学』(学文社)

心理学(福祉)

井 上 孝 代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

医学一般

小 林 臻

長寿社会を迎え、各自が心身ともに健全なライフサイクルを送れるための、医学に基礎をおいた健康科学の考え方を述べ、さらに社会福祉専門職としての社会福祉士・介護福祉士に要求されると考えられる保健学・医学の専門的知識について講義する予定である。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

介護概論

石 黒 チイ子

人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療における介護の役割について理解させ、介護行為の基礎知識、技術、態度を教授する。

後半では、特に成人期にある健康の維持増進の重要性を理解させ、また、老年期にある健康の特徴を理解し、老化に応じた介護、健康障害をもつ老人とその家族に対する介護について教授する。

さらに、社会福祉士及び介護福祉士と保健・医療関係者との連携の意義とすすめ方等について教授する。

心理学史

寺 岡 隆

本講義は2年目学生を対象とした授業である。一般にある科学を理解し研究していく場合、その領域の知識的理解を深めるにせよ、ひとつの問題を自ら深く掘り下げるにせよ、その科学の歴史的背景に関する知識をもっていることはきわめて有効であるといえる。本講義は、心理学とくに基礎心理学における諸学説の歴史的背景と発展形態を心理学の発展に影響を及ぼした周辺科学領域の状況もふまえた上で、できれば新しい視点も加えつつ考察していく予定である。本年は教科書は用いない。

心理統計学

篠 原 英 壽

精神現象の測定に伴う問題点——精神現象の数量化と尺度化に関する問題点、統計的、推計的処理方法の心理学への適用とその限界、心理学において工夫された測定法、処理方法などについて説明したい。

〔参考書〕随時示す。

心理学実験(実習)

篠 原 英 壽・小 野 浩 一
谷 口 泰 富・茅 原 正

心理学の各領域から基礎的な実験を選び、心理学における実験のデザインの組み方、実施方法、

結果の処理法等を実習を通して理解してもらう。
さらに、実験レポートの作成について指導する。
〔教科書〕吉岡一郎編著『心理学基礎実験手引』
(北大路書房)

心理学研究法

小野浩一

心理学における主要な研究法について概観する。その中で、心理学の方法全般にわたる根本的な問題、個々の技法の根底にある基本的な考え方や問題点を明らかにしながら、それぞれの具体的な手続き、また効用や限界について解説する。

講義内容は次のとおりである。

1. 心理学研究法総論
2. 文献研究法
3. 行動観察および記録法
4. 実験計画法
5. データ解析
6. テスト理論

基礎心理学Ⅰ(人格)

谷口泰富

人格(パーソナリティ)とは、個人の内部に存在する複雑で力動的な体制である。この講義は人格心理学の概論として、人格の本質論、形成発達論、諸々の人格理論の紹介、研究法の考察などを中心に進めてゆくつもりであるが、折りに触れて人格に関する興味あるトピックスを盛りこんでゆく予定である。

〔教科書〕講座心理学Ⅳ入門人格心理学
(八千代出版) ¥2,060

基礎心理学Ⅱ(発達)

篠原英壽

基礎心理学Ⅱにおいては、発達心理学を講述する。その内容は、心理学的成長の各位相である幼乳時期から青年期までを取扱う連続的過程としてのパーソナリティ発達に主眼を置きたい。

上述のことを特に、E.H.エリクソンの精神分析的理論、及びJ.ピアジェの認知理論を中心に上げたい。

〔参考書〕随時指示する。

基礎心理学Ⅲ(学習)

小野浩一

「あの子はなぜ学校に行かなくなったのか」
「あの人はなぜ最近あんなに明るくふるまうようになったのか」。

学習心理学はこのような行動変化の原因を解明し、科学的な言葉で説明しようとするものである。この領域の主要な知見は行動分析と呼ばれる学問体系に基礎をおいている。そこで本講義では、行動分析の基礎的な理論ならびに手法について解説し、それらが現代の行動科学の中でどのように活用されているかについて概観する。

教科書はとくに指定しないが、参考書および参考文献については講義の際に詳しく教示する。

基礎心理学Ⅳ(社会)

萩原 滋

対人関係に直接的なかわりをもつようなくつかのトピックスをとりあげながら個人の社会行動に関する心理学について概説する予定。

基礎心理学Ⅴ(臨床)

(前期) 林 潔之
(後期) 中 村 昭 之

- 一. 行動療法の基礎
- 二. セルフコントロールについて

心理学研究Ⅰ(実習)

寺岡 隆

本実習は3年目学生を対象とした演習形式の授業である。主題は本年度は「心理学的ゲーム論」・「意思決定論」または「問題解決論」などに限定されるが、主題・方法の細部は開講されてから実習参加者の人数・関心・水準などを考慮して決定する予定である。参考書は開講後必要に応じて示す。

心理学研究Ⅱ（実習）

茅原 正

応用心理学の諸研究を通して、文献、実験計画、方法、結果、論文のまとめ方、などを学ぶ。照明、騒音、温熱など、実際の生活場面における社会的・物理的条件が、人間の行動に如何なる影響を及ぼすか、基本的な実験を行う。
参考書、文献については講義の際に指示する。

心理学研究Ⅳ（実習）

篠原 英 壽

心理学研究Ⅳは、これまで開講されていた実験実習（上級）が各領域ごとに分化されて開設されたものである。したがって本来ならば実験心理学的内容を備えるべきものである。しかし取扱う領域が発達心理学であるため、装置及び被験者等の関係上、実験の内容を実習的に行うことには問題もある。

そこで本年は、欧文の専門書及びジャーナルを精読し、その中で扱われている実験・調査研究の方法を習得し、追試可能なものを選択し、その方法に準拠して実験等を行いたい。

なお主たる参考書は下記のもので、そのコピーを用いる

〔参考書〕 Readings in Child Development & Personality: Edited by P. H. Mussen, J. J. Conger, J. Kagan. Harper & Row. 1965

心理学研究Ⅴ（実習）

小野 浩 一

心理学研究のプロセスを統一的に習得することを目的として、文献検索法、論文の読み方、実験デザインの組み方、実験の実施方法、結果のまとめ方、論文の書き方などを含めた総合的な実習を行う。前期は味覚識別、言語、人間行動に関する代表的な研究をモデルとして、そこでなされた実験を追試するという形で進めるが、後期には受講者と相談の上適当なテーマを設定して実験を計画したいと考えている。

心理学研究Ⅵ（実習）

谷口 泰 富

ここでは主に、生理学的指標を用いた種々の測定を行う。実習内容については、初めの時間に説明する。

本講を受講する人は、予め、生理心理学を履修しておくことが望ましい。

〔参考書〕 随時紹介する。

生理心理学

谷口 泰 富

統合的有機体としての人間の行動を明らかにするため、本講は、心理学と生理学の隣接するところから出発し、意識・学習・知覚・情動などの諸概念について考えてゆく。

〔参考書〕 随時紹介する。

環境心理学

山本 多喜司

人間と自然環境・構築環境・対人環境・社会的環境との相互作用を環境心理学・生態心理学・建築学の立場から述べる。具体的には次のようなテーマがある。自然風土と人間、開発と環境、認知地図、ウェイファインディング、個人空間と対人距離、都市環境と人間行動、混み合い、災害と人間行動、住居環境と快適性、高齢者施設の問題、環境移行の問題、学校環境、労働環境、環境教育などである。

〔参考書〕 山本多喜司編『人生移行の発達心理学』（北大路書房）

情報処理Ⅰ

大塚 秀 治

(1) 講義目的（要旨）

現代の情報化社会において人間とコンピュータとはいっそう密接な関わりを持つことになる。大学における情報処理教育は過渡期にあり、本格的なカリキュラムの変更も検討されている。これにともなって今年度は従来の内容を全面的に変更する。本講義では「情報処理Ⅰ」というタイトルがつけられているが大学生に必要なコンピュータリテラ

シー（コンピュータを道具として使う場合の操作理解や応用力）の獲得と理解を目的とする。具体的には、コンピュータについてまったくの初心者が独力でコンピュータを活用して実験レポート等を作成する能力を養う。なお、本講義は情報処理Ⅱと密接な関係をもっているため、本講義を履修後に情報処理Ⅱを履修することが望まれる。

(2) 授業計画

授業は全て実習形式で行う。ビデオの映写が可能ならビデオ教材も使用したい。また、今年度よりキーボードのブラインドタッチの習得メソッドを変更する。1つのテーマに1から5時限をあて、毎回簡単な課題の提出を求める。今年度の具体的な内容については以下に記す。

- パソコンの基本操作とMS-DOSの基礎
- ブラインドタッチの完全習得（TypeQuickを利用して）
- 日本語ワードプロセッサの習得
（一太郎Ver.4を利用して：MS-Word等本格的DTP技術については実習環境がないのでビデオ教材を利用する）
- スプレッドシートの習得
（Lotus-123 R2.3Jを利用して：MS-Windows環境での統合ソフトについてはビデオ教材を利用する）
- データ解析への応用（記述統計を中心として、データの扱いや簡単な統計的な検定処理までを含む）
- 情報処理の基礎

(3) 授業・評価方法

出席および課題の提出を前提とし、年度末に行う筆記試験と合せて総合的に評価する。

(4) その他

授業は原則として4時限目内で行うが、予習が必要な場合は3時限目（情報処理Ⅱ配当時間）を利用できることとする（相談に応じられる体制を整備する予定）。年間約22回の実習となるので絶対的な時間が不足する。従って、週あたり2回から3回（1回2時間程度）の自習が必要となる。

(5) 教材・教科書・参考書

教材は授業の中で配布する。ただし、コピー代として数百円程度必要になる可能性がある。また、TypeQuickについては学内の紀ノ国屋書店で安価（約2,500円）に購入できるように手配する。その他に年間約5枚程度のフロッピーディスクが必要となる。参考書については、授業中に最新のものを指示する。

情報処理Ⅱ

牧野 晋

(1) 講義目的（要旨）

従来の講義内容を今年度より全面的に改訂する。情報処理の理解と心理学への本格的な応用力を育成するとともに、コンピュータを用いて、卒業レベルの実験や分析が独力で可能となることをめざす。

(2) 授業計画

授業はすべて実習形式で行う。一つのテーマに1から5時限をあて、毎回簡単な課題の提出を求める。今年度の具体的な内容に関しては以下に記す。

- MS-DOSの理解
- エディターの操作とシステムファイルの編集
- MS-Windowsの操作とアプリケーション（MS-Word, MS-Excel等）の基礎（授業の一部にビデオ教材を使用することがある）
- フローチャート入門
- BASIC言語の習得
- 汎用計算機の利用と応用（データセット編集から多変量解析まで）
- インターフェースの応用技術（実験制御を目的として）
- インターネットワークの現状とパソコン通信

(3) 評価方法

出席および課題の提出を前提とし、年度末に行う筆記試験と併せて総合的に評価する。

(4) その他

本講義の受講にあたっては、情報処理Ⅰの単位を修得していること、または同等の知識を持つことが条件となる。

授業は原則として3時限目内で行うが、授業時間内に終了しない場合および補習が必要な場合は、4時限目（情報処理Ⅰ配当時間）を利用できることとする。

なお、本講義は実習形式で行うので、2回以上続けて欠席すると授業の内容が理解できなくなるので、注意を要する。

児童心理学

横山 剛

ひとは、物理的環境・社会的環境との相互交渉を通して、その潜在的な可能性を実現してゆく。この発達の様相や発達メカニズム、それを促進する働きかけについて講義する。内容としては、児童期までの行動・知覚・思考・言語・情緒・社会性などの諸側面の発達を考えていく。

〔参考書〕随時紹介する。

産業心理学

高橋 誠

オフィスや工場において、近年のコンピュータ技術革新が労働組織、労働形態、ワーカーの健康にどのような影響を与えているか。コンピュータのインタフェースを始め、職場を快適にするにはどのような条件が必要か。こうした問題に対して、産業心理学・人間工学の分野からの知見をまとめるとともに、その研究方法を検討する。

カウンセリング

鈴木 順一

カウンセリングにおけるPerson Centered Approachを確立したCarl Rogersの実践する「人間中心の教育」を現実化したい。カウンセリング・ロールプレイ、サイコ・ドラマ、ゲシュタルト・ワーク、エンカウンター等の体験学習を通じて、お互いのパーソナリティの理解と開発（自己実現）をめざす。

〔教科書〕『カウンセリングの理論』（誠信書房）

〔参考書〕『暮しの中のカウンセリング』

（有斐閣）

『カウンセラーへの道』（創元社）

¥1,200

『カウンセリング』（芸林書房）

『新訂カウンセリング』（誠信書房）

『エンカウンター』（誠信書房）

『人間尊重の心理学』（創元社）

『エンカウンター・グループ』

（創元社）

心理検査法Ⅰ

森山 敏文

近年、特殊教育の領域、矯正教育の現場、精神神経科領域、さらに産業関係の領域などにおいて、各々の主な目的は異なるものの、様々な心理テストが行われています。中でも質問紙法によるパーソナリティ・テストや知能テストあるいは器具を用いた知能テストなどは、その評価や解釈に伴う専門的なトレーニングは常識的なこととしても、少なくともある程度の知識や技能を習得していることは、時代の要請といえましょう。

本講座では、心理テスト・マニュアルとして、受講者の実際の体験を基本にしながらも、グルー

プ・ディスカッション、レポート作成などを通じて、心理テストの原則について学んで頂きたいと考えています。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

心理検査法Ⅱ

森山 敏文

本講座では、ロールシャッハ・テスト、描画法、TAT、SCTなどという、いわゆるプロジェクトイブ・テクニクについて体験学習を中心に進めていきたいと考えています。実際の臨床場面に役立つことを目指すという意味では、心理診断法としては勿論ですが、心理的なケアや心理療法のための基礎になる体験になれば、さらに良いと思います。

専門性はともかく、一般的な興味や関心のある方々にとっても、プロジェクトイブ・テクニク・マニュアルとして学ぶことは、自分や他人の理解に役立つでしょうし、心の健康について考えていく上での手掛かりとなると思います。

〔教科書〕必要に応じて紹介したいと思います。

禅心理学

茅原 正

複雑で、ストレスに満ちた現代、瞑想に関する科学的研究がさかんに行われ、心身に及ぼす良好なる効果が数多く発表されている。本講では、坐禅を主とする禅の心理生理学的研究の歴史、および研究の成果について概観するとともに、実験的課題と展望、禅の心理理論学などについても考察する。

参考書、参考文献については、講義の際に指示する。

心理学特講Ⅰ

佐々木 雄二

1. 心理療法

- (1) 心理療法とは何か
- (2) 心理療法の歴史
- (3) 心理療法の対象
- (4) 心理療法の種類

2. 自律訓練法

- (1) 自律訓練法とは何か
- (2) 自律訓練法の歴史

- (3) 心理療法における自律訓練法の位置づけ
 - (4) 標準練習の理論と実習
 - (5) 特殊練習の理論と実習
- 〔教科書〕佐々木雄二『自律訓練法の実際』
(創元社) ¥1,000

心理学特講Ⅱ

佐々木 宏 幹

日本を含む東アジア諸社会において、人生観・世界観の形成に宗教はどのようにかかわっているか、個人や社会の危機に宗教はどのような役割を果たしているか、また教祖的・カリスマ的人格とは何か、その影響は何か、などの諸問題について考察する。時おりスライドやビデオを使用する。
〔教科書〕佐々木宏幹著『シャーマニズムの世界』
(講談社学術文庫) ¥950

心理学特講Ⅲ

讃 岐 真佐子

臨床心理学の勉強では、①人間の心をどう把握するのかという“理論的学習”，②多様な体験をとおして自分自身を理解していく“体験的学習”，そして③実際のカウンセリング場面で起こり得る様々な事柄を、事例によって学んでいく“事例研究”などが重要だと考えられる。

この講義ではこれらの点も考慮しつつ、主に事例の理解の仕方、そのプロセスの読み方などについて学んでいくことにしたい。扱う事例は幼児から成人まで多岐にわたる予定である。

〔参考書〕随時紹介する。

精神医学

柴 田 出

現代の厳しい現実社会で生きている現代人は、多くのストレスにさらされ、心を病む人も少なくない。しかし、現実の組織や集団に所属するからといって、全ての人が心の病いにおかされるわけではない。このように考えると、個人を取り囲む組織の問題だけに帰すわけにはいかず、個人の自我の成熟度も大きく関わっていることがわかる。演者はこのような観点に立って、個人の心の発達過程を臨床例にあげながら述べていきたい。

とくに、コドモからオトナへの移行過程の時期であり、コドモとオトナが共存している青年期を

中心に述べていくつもりでいる。

〔参考書〕『こころ自己分析』(有斐閣) ¥1,300

社会政策

光 岡 博 美

<社会政策の内容>

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作りだすために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

<本年度の講義内容>

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学思想と理論
- (2) 労使関係論思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本の労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)~(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働時間を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々^の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

<履修条件と成績評価>

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成上の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

民 法

叶 和 夫

開講時に指示する。

勞 働 法

藤 本 茂

わが国労働法は、戦後、国際的規準を受け入れたり、アメリカ法制を導入するなどして、発展してきました。その法理は、社会経済構造の変化、労働運動のあり様や社会生活における労働者意識の変化などによって、たえず既存の法理の妥当性が検証され、深化してきました。雇用平等法、労働時間法、労働契約法、労働協約法など今日の課題も多いのです。

また、諸君にとって労働法は、将来、就職し労働生活をおくるなかで、欠かせない法領域です。また、会社でも人事労務管理上、必須の法領域です。

授業は、諸君が見聞きするであろう事項を念頭に、それについての基礎的な考え方を、具体的な事例を取り入れておこなうつもりです。今年は、労働保護法の領域から始めます。

〔教科書〕最初の講義のときに話します。

〔参考書〕ジュリスト増刊『労働法の争点』菅野和夫著『労働法』（弘文堂）

行 政 法

鷄 徳 啓 登

現代国家は、一般に福祉国家又は文化国家といわれるようになり社会問題も多くなっている。そして、例えば社会の高齢化に伴う福祉問題では、必ずといってよいほど行政のあり方が問われるのである。このような問題を考える場合に、行政に関する法令はどんなものであり、行政はどのように行われるのか、ということを経理的側面から考えてみることも、社会問題を客観的に考慮できるようになるための1つの方法であると思われる。

その意味で、「行政法」とはどのような法律であるのかを知っておくことは、公務員をめざす学生ばかりでなく、一般の学生にも、今後増々要求されてくるようになるだろうと思われる。

〔教科書〕『行政法の話』（第一法規）¥1,800

〔参考書〕教場にて説明致します。

経 済 原 論

浅 野 克 巳

現実の経済の動きを念頭におきながら、現代経済学の基礎理論を以下の順序で解説する。なお、公務員試験（その他国家試験）の受験対策として必要に応じ問題練習も行うので、下記の問題集も用意されたい。

I マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長
4. 賃金・物価・インフレーション

II ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定
4. 市場と企業

III 公共政策

IV 国際経済学

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス 改訂版』（成蹊堂）1994年

〔参考書〕青山『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1993年 ¥906

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………	1	アジア経済論(小林 英夫)……………	10
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………	1	日本経済史(古庄 正)……………	11
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………	1	中小企業論(三井 逸友)……………	11
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………	1	教育経済論(谷敷 正光)……………	12
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………	1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………	13
哲学史(中村 友太郎)……………	1	財務会計論(遠藤 孝)……………	14
インド仏教史(池田 練太郎)……………	2	管理会計論(中原 章吉)……………	15
中国仏教史(佐藤 達玄)……………	2	会計監査論(飯岡 透)……………	15
日本仏教史(石川 力山)……………	2	商業政策(岩下 弘)……………	16
日用経典(皆川 広義)……………	2	貿易論(古沢 紘造)……………	16
仏教美術(中島 亮一)……………	2	マーケティング(曾我 信孝)……………	17
現代哲学概説(田島 節夫)……………	2	労務管理論(石井 脩二)……………	17
上代文学(小野 寛)……………	3	経営管理論(百田 義治)……………	18
中世文学(水原 一)……………	3	行政法Ⅱ(斎藤 寿)……………	19
近世文学(富士 昭雄)……………	3	民法Ⅳ(1)(叶 和夫)……………	20
近代文学(高田 知波)……………	3	民法Ⅳ(2)(叶 和夫)……………	20
中国文学(中村 璋八)……………	3	比較憲法(竹花 光範)……………	20
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………	3	経済法(川井 克俊)……………	20
英文学特講Ⅱ(高野 正夫)……………	3	国際関係論(首藤 素子)……………	20
英文学特講Ⅲ(岡崎 寿郎)……………	3	西洋政治史(浦田 早苗)……………	20
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………	4	宣伝広告論(上條 末夫)……………	21
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………	4	政党論(前期:岩井 奉信)……………	21
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………	4	(後期:早川 純貴)	
英米演劇特講(落合 和昭)……………	4	経営統計(相山 長知)……………	21
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………	4	国際経営論(茂垣 広志)……………	21
米文学特講Ⅲ(原川 恭一)……………	4	保険経営論(石名坂 邦昭)……………	21
時事英語(坂本 武)……………	5	財務会計論(渡邊 恵一郎)……………	22
地形学Ⅰ(小池 一之)……………	5	経営分析論(片桐 伸夫)……………	22
地質学(貝塚 爽平)……………	5	税務会計論(高木 克己)……………	22
人口地理学(土谷 敏治)……………	5	経営労務論(中村 真人)……………	22
応用地理学Ⅰ(高木 正博)……………	5	商業史(山田 勝)……………	23
文化地理学(荻口 善美)……………	5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………	23
日本仏教史Ⅱ(廣瀬 良弘)……………	5	国文講読Ⅱ(中古)(鈴木 裕子)……………	23
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)……………	5	国文講読Ⅲ(中世)(藺部 幹生)……………	23
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(安藤 正士)……………	6	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………	23
西洋文化史Ⅰ(佐々木 真)……………	6	国文講読Ⅴ(近・現代)(大室 英爾)……………	23
考古学特講Ⅲ(飯島 武次)……………	6	国文講読Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………	24
歴史哲学(麻生 建)……………	6	国文特講Ⅴ(近・現代)(笹瀬 王子)……………	24
哲学史(丸山 豊樹)……………	6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)……………	24
日本民俗学(谷口 貢)……………	6	時事英語(岡本 誠)……………	24
マスコミュニケーション(川本 勝)……………	6	英語演習Ⅰ(岡本 誠)……………	24
産業社会学(安藤 喜久雄)……………	7	計算機言語概論(杉田 徹)……………	24
都市社会学(江上 涉)……………	7	臨床放射線特講Ⅰ(本間 襄)……………	24
社会福祉発達史(林 千代)……………	7	応用計測学(櫃尾 英次)……………	25
ロシア・東欧経済論(山縣 弘志)……………	7		
社会政策(光岡 博美)……………	8		
国民所得論(吉野 紀)……………	8		
中国経済論(小杉 修二)……………	9		

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原 田 弘 道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典観と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒 丸 寛 之

道元禅師の主著として知られる『正法眼蔵』を読む。この講座では、道元教学の理解に資するため、次のテーマに関わる諸巻を重点的に講読する。

I 正伝の仏法 II 生命の実相 III 道元と法華経 IV 晩年の道元。

〔教科書〕『正法眼蔵』

〔参考書〕『法華経』

禅学特講Ⅲ

石 井 修 道

平成5年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明瞭である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにしたい。その折に和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕荒木見悟著『大慧書』（筑摩書房）

¥3,500

石井修道著『禅語録』（中央公論社）

¥5,200

禅学特講Ⅳ

鈴 木 格 禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に住した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が、一貫して流れている。

本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕教員より配布する。

禅学思想史

峰 岸 孝 哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』（講座道元Ⅱ）

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中 村 友 太 郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書の信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕開講時まで決定する。

〔参考書〕その都度指示する。

川岸宏教・速見侑等篇『論集・日本仏教史』（全11巻、雄山閣出版刊）

インド仏教史

池田 練太郎

インドにおける仏教の成立・展開の様相を、思想・文献・教団などの歴史の総体として捉えてみたい。また、インド仏教の歴史をインド史全体の流れの中に位置づけることを目指したい。

〔参考書〕平山 彰著『インド仏教史』（上・下）（春秋社）

中国仏教史

佐藤 達玄

中国民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説—中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

石川 力山

日本における「仏教伝来の意義」といった課題を軸にして、日本に仏教が伝来した当初からの歴史を辿りつつ、日本思想史・宗教史上において果たしてきた仏教の役割を明らかにしたい。特に、中世における鎌倉新仏教の成立は、急速に仏教が社会のすみずみにまで浸透する契機となり、それにともない、さまざまな社会問題にも関与することになって、正・負の両面に機能を果たすことになった。この授業では、仏教思想の流れとともに、こうした社会的機能の側面についても、あわせて検討していきたい。

〔参考文献〕辻 善之助『日本仏教史』（全10巻、岩波書店刊）

家永三郎・圭室諦成・赤松俊秀監修『日本仏教史〈古代篇〉〈中世篇〉〈近世・近代篇〉』（全3巻、法蔵館刊）

日用経典

皆川 広義

曹洞宗における日常依用の経典について、解説し、その平易な解釈をする

この講義でとりあげる経典は、般若心経、法華経（寿量品、普門品）、修証義、大悲心陀羅尼などである。また、偈文・回向文などについても、解釈したい。

これらの経典は、日本人の精神形成に大きな影響をあたえたものであり、その仏教経典としての正しい理解に心がけたい。

〔教科書〕テキスト プリント配布。

仏教美術

中島 亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。（スライド併用）

〔教科書〕高田 修『仏像の誕生』

（岩波新書 388）¥480

佐和隆研『仏教美術入門』

（教養文庫 576）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

現代哲学概説

田島 節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレイゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。

〔参考書〕田島節夫著『現象学と記号論』
（世界書院）¥2,500
田島節夫・他著『西洋哲学の展開』
（公論社）¥3,800

上代文学

小野 寛

『万葉集』をよむ。これは古代の日本人の心をよむことであり、古代の歴史をよむことである。『万葉集』をよむにあたって、一首一首、諸本の本文の異同をたずね、その訓みを明らかにし、上代語およびその独自の語法をしらべ、作者の心をさぐり、その作品の背景となる歴史・風土・民俗などについても詳細にしらべながらよんでゆく。毎年新しいテーマでよむ。

〔教科書〕小野 寛著『新選万葉集抄』
（笠間書院）

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料上代文学史』（笠間書院）

中世文学

水原 一

『平家物語』を伝本比較の角度から読み、表現や題材・思想などの多角的な背景を探究してみる。併せて時代の実相理解に有効な、歴史書・公卿漢文日記等にも接する機会を設けたい。

近世文学

富士 昭雄

芭蕉の『おくのほそ道』の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。（昨年度の継続）

〔教科書〕萩原恭男校注『芭蕉 おくのほそ道』
（ワイド版岩波文庫）¥1,000

近代文学

高田 知波

明治前期の小説群の中から、二葉亭四迷『浮雲』と樋口一葉『たけくらべ』を取りあげ、精読していく。

〔教科書〕二葉亭四迷『浮雲』（岩波文庫）
樋口一葉『にぎりえ・たけくらべ』
（新潮文庫）

中国文学

中村 璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,170

英文学特講Ⅰ

石原 孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『ノースロップ・フライのシェイクスピア講義』（三修社）¥3,800

英文学特講Ⅱ

高野 正夫

イギリス・ロマン派の詩人、ワーズワス、キーツ、ブレイクなどの詩を中心に読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅲ

岡崎 寿一郎

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく現代という言葉で

理解することはむづかしい。この認識の方法によって、十九・二十世紀の英詩について、その現代的意味を確認したい。具体的には、十九世紀ロマン派の詩人たち、テニスン、M. アーノルドの詩の検証を経て、ハーディ、イエイツ、D. H. ロレンス、さらに、エズラ・パウンド、T. S. エリオット以後の現代詩（モダニズム）について論究する。

〔教科書〕教場にて指示。

〔参考書〕教場にて指示。

英文学特講Ⅳ

中 岡 洋

イギリス小説の代表的傑作*Jane Eyre* や*Wuthering Heights* を残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講Ⅴ

高 松 雄 一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。世紀末の唯美主義批評、イエイツ、イマジズム、エリオット、ジョイスらの作品や批評を取りあげて、モダニズム文学運動の意味を考えたい。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講Ⅵ

丸 小 哲 雄

文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題であるから、批評研究は最終的には世界解釈あるいは世界認識ということになります。前期ではそのための有効な方法として伝統批評、ロシア・フォルマリズム；ニュー・クリチシズム、受容理論（読者の立場）、構造主義、記号論、ポスト構造主義などの批評的考え方を講義します。後期では、作品の読み方と研究の仕方を修得するためにテキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。読書のためのプリント・リスト、および適宜必要に応じてプリントを配布します。

英米演劇特講

落 合 和 昭

ギリシャ時代から現代までの演劇史に見られる主義（～ism）をその劇場史とともに、追いながら、重要な出来事、用語などの説明をする。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多く載っているアメリカの大学生用テキストを用いる。さらに、必要とあらば、英文の研究書などにも目を通し、多様な見方にも慣れる。

課題としては、講義の内容をまとめたレポートや他の英文（数冊のアメリカ大学生用テキストや研究書からのプリント）の要旨をまとめたレポートを十数回（一回につき四百字の原稿用紙2枚程度）ほど提出してもらおう。

米文学特講Ⅰ

東 雄 一 郎

19世紀のホイットマン、ディキンソンから現在のアッシュベリー、リッチ、スナイダー、プラス、マーク・ストランドにいたる総計30人のアメリカの代表的な詩人たちの作品を読みます。特に、ロゴセントリック（論理的）なモダニズムの言葉の解体、作品の自律性神話の崩壊から、ポストモダニズムの恣意性という「修正・見直し」への移行に焦点を当て、アメリカ詩の「自己の歌」の伝統を考えます。

〔教科書〕新倉俊一『アメリカ詩入門』

（研究社）¥2,200

米文学特講Ⅲ

原 川 恭 一

世界最大の内乱アメリカ南北戦争は、敗者南部に復しえぬ荒廃と頹廃をもたらした。その廢墟の中から、この南部の特殊状況を踏まえて、数多くの文学者が、文学作品が生まれ出たが、いわゆる「南部文芸復興」（Southern Renaissance）の興隆の様相を、William Faulkner以下数人の代表的作家の作品世界を中心に据えながら、歴史的、社会的視点をも構えて、出来る限り詳細に講じていきたい。

〔参考書〕福田陸太郎編著『アメリカ文学名作選 - 風土と文学』（中教出版）

時事英語

坂本 武

放送英語、新聞英語その他時事面に関する英語について、テープ等も随時併用して講義する。また、時事文を多用しての英作文の作法についても採り上げ、「読み書き聴く」の三点を重視していきたい。別名、Living Englishと呼ばれる程「生き役立つ」英語の筈である。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕教場にて指示する。

地形学 I

小池 一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント、スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。内容是最先端の知見を含む

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』（東大出版会）¥4,532

地質学

貝塚 爽平

前期には関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象（たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成）についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論と交えて解説する。

人口地理学

土谷 敏治

人口の分布やその変化、人口移動について、研究の方法やこれまでの地理学の方野からの研究成果を紹介する。

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、利水・災害・自然環境などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』（東京大学出版会）

文化地理学

こも
菱 口 善 美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本仏教史 II

廣瀬 良弘

仏教の歴史の流れを概観し、のちに平安後期から江戸期にかけての仏教と社会・文化とのかかわりについて講述する。とくに、鎌倉仏教の成立と展開、仏教諸宗派の僧侶・寺院と地域社会とのかかわり、都市景観と寺院、一向一揆・無縁所寺院と戦国大名、寺院と檀家等について考察する。その際には各地の寺院が所蔵する古文書・過去帳・授戒会帳・金石史料等も提示しながら行うことにする。

〔参考書〕黒田俊雄著『神社勢力—もう一つの中世社会—』（岩波新書）
網野善彦著『無縁・公界・楽』（平凡社選書）
井上鋭夫『山の民・川の民』（平凡社選書）

日本史特講 VII (近代)

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

安藤正士

現代中国の政治外交史＝中国の内政と国際関係について、近代化論、比較政治論の立場から講義する。

〔教科書〕安藤正士・太田勝洪・辻康吾『文化大革命と現代中国』（岩波書店）¥540

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 ¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年 ¥11,000

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そ

もそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲学史

丸山豊樹

この講義「哲学史」の内容は「近世哲学史」である。しかし、近世哲学も古代および中世の哲学の発展・展開であるから、まず始めに古代・中世の哲学を概観した後で、近世哲学を論ずることにする。

「イギリス経験論」と「大陸合理論」によって、近世哲学の歴史は開始されるが、それはカントの「批判哲学」によって総合され、後さらに幾多の曲折を経て、現代の哲学に結実する。それらの哲学の特色を捕らえて、現代の哲学と科学との関連を考慮しながら講義を進めたい。

〔教科書〕国嶋一則編『西洋哲学の展開』（公論社発行）

日本民俗学

谷口 貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期（誕生・成年・結婚・厄年など）に行われる人生儀礼（通過儀礼）を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかわりをもっているか、社会学的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安藤 喜久雄

産業社会学の主要領域 — 組織、企業経営と労働者生活および労働者意識、労使関係、労働組合、職業・産業と社会、などについて概観し、そこでの社会学的諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか検討する予定である。

〔教科書〕安藤喜久雄他『産業社会学』

(学文社) ¥2,500

都市社会学

江上 涉

都市社会学の主要なテーマは、都市という環境がいかなる人間を生み出すのかというところにあるが、これは2つに分けて考えられる。すなわち、環境としての都市そのものが何かということと、そこで生成する都市社会とはどのような社会かという問題である。このテーマをめぐって蓄積されてきた都市構造論、都市類型論、都市機能論、都市化論、生活構造論、ライフスタイル論、都市的生活様式論、ネットワーク論、コミュニティ論などを順次考えていくことにする。

なお、テキストは特に指定しないが参考文献を適宜紹介するので、それを読むことが重要である。

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に(部分的に米国にもふれる)社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』
(ミネルヴァ書房)

〔参考書〕随時紹介

ロシア・東欧経済論

山 縣 弘 志

〈授業内容と目標〉

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、いかなる方向かはともかくとして移行過程にあるが、この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも他と区別される経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてそれはまぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義になりえたか否か自体が問われなければならないという認識が、同時代史によって求められている。社会主義であれ資本主義であれ、個別の体制は独特のあり方として捉えなければならない。その意味からも、ロシア革命による歴史の断絶か連続かの問題は、今日においては、後者に重点を置いた捉え方が妥当であるということが明らかになったのであるから、しからばロシア・東欧圏の歴史的連続性と独自性を何に求めるか、という問題も併せて探究していく必要がある。

社会主義論の原理的な捉え直しの上に乗って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制への認識が深まり、我々の時代の当面している課題が明らかになれば、自らの姿を鏡に映すという外国研究の基本的役割をいささかでも果たすことになるであろう。

〈授業予定〉

トピックスにコメントする機会が多いと思われるので、以下はあくまで予定と考えて頂きたい。

1. 社会主義とロシア革命

- (1) 社会主義論の歴史
- (2) マルクスの社会主義論
- (3) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —

2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代

- (1) 1920年代から30年代への根本的転換
- (2) 工業化と農業集団化
- (3) ソ連型「社会主義」の特質
- (4) ソ連・東欧経済圏の形成

3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立
 - (2) 「計画化」と「計画経済」の実態
 - (3) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の到達水準
 - (1) 経済構造的特質
 - (2) 軍事生産と工業生産力
 - (3) 工業技術の諸問題
 - (4) 農業政策と農業制度
 - (5) 農業生産力
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) ブレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧社会の特質
 - (2) 市場経済化の諸問題 — 何から何への移行か —

〈成績評価〉

本講義に限らず、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを求めたい。そのような観点で、成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行なう。

〔教科書・参考書〕

教科書はない。授業中にノートを取るの当然である。参考書は適宜指示する。

社会政策

光岡博美

〈社会政策の内容〉

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する社会改良思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、当時ヨーロッパの後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から、社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提として、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は、政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対処していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題研究へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても、欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、日本の労働問題や労使関係の実態を分析し、労使関係をその実態に即して理解しようとする研究が大きな影響を及ぼしている。

〈本年度の講義内容〉

そこで、このような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うことにしたい。

- (1) 社会政策学思想と理論
- (2) 労使関係論思想と理論
- (3) 日本における社会政策の歴史
- (4) 日本における労使関係の歴史
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 現代日本の社会政策と労働問題
- (7) 日本的労使関係の現実とその未来

上に述べた(1)～(7)の項目について、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の紹介や解説、最近注目されている外国人労働者問題や女性労働問題などの時論、私が専門的に研究してきた問題なども、できるだけ分かりやすく解説してみたいと考えている。

また、授業とは直接関連はないが、労働問題を考えるうえでも有益と思われるような名作（映画）を鑑賞する機会も準備してみたい。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。そして、われわれにとっての“より良い”社会とはどのような社会であるのかといった事柄にも思いをめぐらしてみたい。

〈履修条件と成績評価〉

履修条件は特にないが、教場では私語を慎むこと。また必要に応じて、出欠の点検を行う場合もある。成績の評価基準や答案作成の注意は、年度末試験の2週間ほど前の授業で説明する。

〔教科書〕なし

〔参考書〕必要に応じて講義のなかで紹介する。

国民所得論

吉野 紀

220万の法人企業、6,200万人の就業者、そして4,200万の世帯、これらの間でさまざまな生産活動や取引が営まれている。これに政府や海外取引を含めると、日本経済では正に無数といってよいほどの取引関係が日々結ばれていることになる。

これらの取引関係は複雑に入りこんでおり、その1つ1つを追跡すると、経済という森に歩み入って、森全体の状況についての認識に到達することが難しくなる。そこで、森の上に飛び上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。こうして、上空から眺めると複雑に入りこんだ諸取引はいくつかの類似した性質を共有するグループに分けられることに気付くであろう。このような諸活動の1年間の成果が、たとえば、日本経済の場合、国民総生産（GNP）440兆円に結実してゆくのである。

「国民所得論」はこのような視点に立脚した経済分析方法である。しばしば、マクロ（巨視的）分析とよばれる所以である。モデル・アナリシスと、現実に観察される日本経済との対応が常に心懸けられるであろう。

〈授業計画〉

「国民経済計算」……………5回

GNP、GDPなど、国民経済全体をとらえるための経済指標の理解と、さまざまな諸取引間の相互関係をとらえることが主題となる。

『平成3年日本経済の循環図』（配布資料）

『国民経済計算の知識』西嶋・藤岡（日経文庫）

「総需要、均衡産出量、均衡所得……………4回

いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に即して説明される。このテーマの終了後、練習問題が宿題として課される。解答と解説は授業中に示される。

『入門マクロ経済学』中谷（日本評論社）第3章

「貨幣・利子率および同時均衡」……………8回

この段階で貨幣のはたす役割が導入され、前回までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の置かれている現況との関わりが登場する機会も徐々に増えてゆくであろう。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題が宿題として課される。正解と解説は授業中に示す。

「金融政策、財政政策」……………4回

前回までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。ただし、金融政策、財政政策ともに、その効果という点では一律ではなく、機動的なポリシー・ミックスが望まれる、といった点にも触れなければならない。

『マクロ経済学（上）』ドーンブッシュ・フィッシャー（マグロウヒル）第4章

「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」

……………4回

これまでに扱われてきたのは、財やサービスの

取引と貨幣市場であったが、これに労働力市場が明示的に組み合わされる。

「最終講義」……………1回

平成7年日本経済の予想。

海外経済との関わりは、主に為替レートを中心にここで触れられる。

〈成績評価〉

期末試験……………85%

2回の練習問題の提出（2回とも提出することが条件）……………15%

なお、練習問題を教場で黒板に解答して見せてくれる学生諸君（年間15名前後）には、学生諸君全体の意見を反映しつつ別途配点することもある。

〔教科書〕開講時に指示する。

中国経済論

小杉修二

1. 現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。

本講義ではこのような目前の変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

2. 前期授業のはじめに、キー・ワードを3週間分けて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。

3. 2について、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立（1949年）から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて(1)ソ連モデル（1949～57年）、(2)毛沢東モデル（1958～78年）、(3)鄧小平モデル（1978～）として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。

このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまりに近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えるからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の

延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。

4. 上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また、中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

5. 授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ(1-201 または1-301 教室)上映による説明の二本立てで行っている。

教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。

また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

6. 受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受け入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

7. 学習が正解当てクイズに終るかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

〔教科書〕小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎) ¥3,300

アジア経済論

小林英夫

今日ほどアジアが目されるようになった時期

もめずらしい。アジア一般というより、その目ざましい経済成長が目されたのである。1970年代は韓国、台湾、香港そしてシンガポールが、そして80年代後半になるとタイやマレーシアといったアセアン諸国が、その高成長のゆえに注目された。韓国をはじめとする4ヶ国は、一つの高成長グループとしてくられ、その名をニックス(NICS)と称された。

では、なぜ、この時期、アジアで経済成長が生じたのであろうか。それは、どのような歴史を背景に生まれたのか。そして、こうした成長地域の出現は、世界政治と経済にどのような影響を与えたのであろうか。アジア経済論は、こうしたアジアの経済成長の歴史的背景と現状そして将来を展望し、それが日本と世界の政治、経済に与えたインパクトを考察することにある。

授業は、講義形式でおこなう。ただし、原則として年間2回外部講師をまねいて、実際のアジアの実情を紹介してもらっている。昨年は残念ながら実現できなかったが、これまでに野村証券の調査員にシンガポールの金融事情を、ジェトロの調査員にマレーシアの実情を紹介してもらった。今年も同様の“アジア・ガイド”を計画している。

今年度の授業項目と授業スケジュールは以下の通りである。

4月

アジアの実情

5月～7月

日本とアジアの経済関係(戦後日本とアジアの関係を、Ⅰ. 賠償過程、Ⅱ. 借款過程、Ⅲ. 直接企業進出の3期に分けその過程を追うと同時に、それが日本の産業構造に与えた影響について検討する。7月の夏休み前に、外部講師をよび、直接企業進出に的をしぼった、実態報告を行う。

9月～12月

東南アジアの日本企業の活動(1972年以降開始された日本企業の東南アジアでの活動実態について、主に輸出加工区でのそれをめぐってその活動実態を検討する)

1月

まとめ(1年間の講義について、まとめを行なう)

授業の受講にあたっては、あらかじめ指示した教科書を講読しておくこと。テストは、夏休み直前と期末のテストの2回を実施し、両者の総合成績で決定する。

〔参考書〕小林英夫『戦後日本資本主義と「東アジア経済圏」』(御茶の水書房)

¥3,200

小林英夫『東南アジアの日系企業』

(日本評論社) ¥3,200

開港前の日本は、極東の一封建国家にすぎなかった。1853年（嘉永3）のペリー（M. C. Perry）来航に始まる鎖国体制の解体と欧米列強による領事裁判権・協定関税率・最恵国条項を内容とする安政条約の強制は、政治的にも経済的にも軍事的にも、幕末日本を植民地化の危機に陥れた。にもかかわらず、開港後わずか数十年の間に、日本は工業化を達成し、アジアにおける唯一の工業国家になった。この講義では、幕末開港後のこうした工業化過程とその歴史的条件をできるだけ系統的に、また分かり易くお話してみたいと思っている。日本経済史の対象はすこぶる広いが、時間的・能力的制約から今年度はこの問題に限定した。お話の中身としては今のところ次のテーマを予定している。ただし、年度内に生起する事件の中で、経済史との関連で特に重要なものについては、適宜取り上げてお話するよう心掛けたい。生きた具体的な現実との緊張関係を抜きにした講義は、社会科学の講義としては適切なものではないと思うからである。

- (1) 幕藩体制の動揺
- (2) 開港と植民地化の危機
- (3) 明治維新
- (4) 明治政府の工業化政策
- (5) 政商と天皇・華族の資本蓄積
- (6) 農民の分解と士族の没落
- (7) 自由民権運動と天皇制国家
- (8) 産業革命と工業化
- (9) 紡績と製糸業
- (10) 工業化と在来産業
- (11) 重工業と鉱山業
- (12) 工業化と公害
- (13) 資本主義と地主制
- (14) 鉄道業と海運業
- (15) 外国貿易の発展と構造
- (16) 工業化と財政・金融
- (17) 植民地の領有とその矛盾
- (18) 工業化は民衆にとって何であったか。

経済史を含めて、いま、なぜ歴史を学ぶ必要があるのだろうか。講義要綱を書くたびに、いつも気になるのはこの点である。大学の教員のような研究を商売にしている人間は一応別として、一般の学生や市民にとって、果たして歴史を学ぶ必要などあるのだろうか。結論的にいえば、私はやはりその必要があると思っている。戦後補償裁判に事例をとって、その理由を若干述べておきたい。

第2次大戦中、日本政府と日本企業は百万を越える朝鮮人を軍人・軍属・従軍慰安婦として、あ

るいは労務要員として日本に連行し、酷使虐待の果てに多くの人々を死傷させた。にもかかわらず、日本政府も関係企業もこれに対して何の補償もしなかっただけでなく、未払金さえ支払わずに戦後処理に決着をつけた。

こうした理不尽な戦後処理の再検討を求めて、被害者たちはいま東京地裁その他に提訴し、裁判を始めてる。しかし、日本政府も関係企業も強制連行・強制労働・差別待遇の事実を一切認めず、未払金問題は1965年の日韓協定で解決済として、被害者の要求を突っぱねている。

日本政府と関係企業はなぜこういう傲慢な態度を取り続けているのだろうか。それは、研究者であるわれわれの怠慢と資料不足（敗戦後、国と企業は関係資料を徹底して焼却した）のために、事実の究明が充分でなく、多くの日本人が無知・無関のままに放置されているからであろう。歴史を学ぶことの意義は、現在を知り未来を洞察する武器を仕入れることにあるといわれるが、それは、具体的にはこういうことをいうのではなからうか。

中小企業論

三 井 逸 友

「中小企業」を論じるというのは実は存外に容易ではない。世界的な「中小企業フィーバー」の続いた80年代をへて、深刻化する不況と「構造転換」のすすむ今日こそ、さまざまな俗論や安直な先入観念を排し、きちんとした学問的方法と総合的でグローバルな現状認識をはかり、さらに21世紀を展望した「政策観」をつくり上げていく必要がある。

日本の中小企業は約600万、企業の99%、従業員の80%を占め、製造業中小企業に限っても80万をこえ、付加価値の50%以上を生み出している。つまり、日本の経済社会にとって中小企業はきわめて重要な「メジャー」な存在であるとともに、諸外国からうらやましがられる「日本産業の競争力」を支えているのである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が恵まれていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差、不利、経営不安などの「問題状況」も依然広くみられ、今日また深刻となっている。しかもこうした「期待」と「困難」の交錯する事態は先進国に共通して確認されているのである。

この講義ではこうした中小企業の存在状況と役割、当面する問題を概観し、次にこうした中小企業の存立と問題性をめぐる理論・研究を検討し、「中小企業問題」の二面性と、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけを明らかにする。講義の後半では、「下請制」、「地場産業産地」

などの中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追い、結合生産力の「効率性」と、これに対する競争と統制・管理の貫徹がもたらす「経済的關係」のうえでの問題状況を示す。事態は独占大企業の「支配・利用」と「過剰・淘汰」の間で現われるのである。さらにこうした「中小企業問題」に対応して展開されてきた「中小企業政策」の国際比較研究を行い、「生産力」的に成功を収めてきた日本の「中小企業近代化政策」の特徴と限界、これに対する欧米の政策の相違点と近年の「収斂傾向」を解明する。加えて補論として、最近の政策課題として注目される、「構造転換」（リストラ）対応策、分業にもとづく結合生産力の目的意識的な組織としての、企業間連携・共同促進策、新規開業促進策、そして「基本法30年」での中小企業政策の見直し動きについてもふれてみたい。

授業は主に講義の形で進めるが、企業経営のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、企業経営者の方の話などもとり入れたい。その中で産業分析の基礎知識も伝え、さらに担当者の世界各地や全国での見聞も活用する。

〈構成予定〉

- I. 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況
- II. 「中小企業論」研究の方法と「存立」論・「問題」論
- III. 中小企業の現代的存在形態
- IV. 「中小企業政策」の展開と国際比較

なお、毎年夏休みには、補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。成績評価は、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。

〔教科書〕三井逸友『現代経済と中小企業』
(青木書店) ¥2,800 (税抜)

〔参考書〕巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』
(有斐閣)

中小企業庁編『中小企業白書』
(各年次)

教育経済論

や しよ
谷 敷 正 光

〈授業内容〉

経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について考察する。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連していると

の観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2,000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2,000年のアメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランス「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした各国の経済再建と教育改革の動向と、日本の現状をまず考察する。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確定期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した復興期から平成景気までを中心に、それぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の教育要求と国の教育政策、産業教育政策を考察する。

〈授業形態〉

講義の他、その都度現実的理解のために年間5～6回程、視聴覚教室でビデオを使用する。

〈授業項目と授業スケジュール〉

- (1) 欧米先進国の経済の現状と教育

- ①アメリカ
- ②イギリス
- ③フランス
- ④ドイツ
- ⑤日本

- (2) 戦前の経済発展と実業教育の振興

- ①学制時代(明治10年前)
- ②教育令時代(明治20年代)
- ③学校令時代(明治30年代)
- ④実業学校令時代(明治30年代)

- (3) 戦後の経済発展と産業教育の振興

- ①復興期
- ②高度成長期
- ③1970年代
- ④1980年代
- ⑤1990年代

(1)(2)は前期に、(3)は後期に講義する予定。

〈履修条件〉

欠席しないこと。

〈評価方法〉

定期試験の成績

〔教科書〕特に使用しない。年間25～30枚のプリントを講義資料として配布する。

〔参考書〕豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』
(東大出版)

文部省『産業教育百年史』

(ぎょうせい)

本庄良邦著『産業教育体制研究』

(三和書房)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

☆ 現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します。

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのが、この講義です。それとともに、アメリカでのできごとと関係のふかい世界の情勢を、ひろく検討します。

☆ 特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。

この講義を受講するためには、特別な経済学の予備知識などは必要ありません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済について関心をもつ学生諸君には、さらにふかめた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探求をこころみるものではなく、奥ふかく興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

☆ 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。

1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

前期

[導入の話題]

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

[総論]

◇アメリカ的特質

◇アメリカ経済の歴史的背景

[アメリカ経済各論]

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家

◇アメリカの労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの金融

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

後期

[世界とアメリカ]

◇国際通貨ドルの地位とIMF

◇アメリカと貿易(GATT)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークと経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

[アメリカと世界の諸地域]

◇アメリカとEU

◇アメリカと日本

◇アメリカとアジア・太平洋

◇アメリカとカナダ・メキシコ

[むすびの話題]

◇アメリカの経済学(あたらしい学派の見解)

毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

☆ あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらないで、この真相や本質的なことから、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

☆ アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です。

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

☆ 最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません。

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。今、どうしてもといわれれば、日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書です。

☆ 熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です。

この講義は、3年生、4年生いずれもが受講できることはいうまでもありませんが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生のうちに受講することをすすめます。また、この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。

財務会計論

遠藤 孝

〈授業の主たる内容〉

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計（FINANCIAL ACCOUNTING）について、その伝達、開示の手段である貸借対照表（BALANCE SHEET）、損益計算書（INCOME STATEMENT）を中心に、その性質、内容、役割などについて講義する。

財務会計論は会計学原理ともいえるもので、企業会計とは何か、企業が作成する貸借対照表などの決算書は、どのようにして作成されるか、それはどのような性質、内容をもつものであるか、それはどのような役割を果たすものであるか、また決算書はどのように読んだら良いのか、など実例をもって説明する。

〈授業形態、講義〉

できるだけ多くプリントを配る予定。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期

- ① 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- ② 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- ③ 5月第1週
財務会計の制度性について。企業会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- ④ 5月第2週
先週に引続き、日本の企業会計制度の問題点、「企業会計原則」について。
- ⑤ 5月第3週
貸借対照表論、貸借対照表とは何か。実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。

- ⑥ 6月第1週
資産評価について。流動資産 — 棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- ⑦ 6月第2週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- ⑧ 6月第3週
繰延資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- ⑨ 6月第4週
引当金について、引当金とは何か。引当金の設定基準 — 商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- ⑩ 7月第1週
同上
- ⑪ 7月第2週
資本会計について。

後期

- ⑫ 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- ⑬ 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- ⑭ 9月第3週
同上
- ⑮ 10月第1週
企業内容、会計内容の開示について。注記 財務諸表附属明細表（書）
- ⑯ 10月第2週
同上
- ⑰ 10月第3週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- ⑱ 10月第4週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
- ⑲ 11月第1週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- ⑳ 11月第2週
同上
- ㉑ 11月第3週
日本、世界企業会計の最新動向。
- ㉒ 12月第1週
同上
- ㉓ 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。
— 総括
- ㉔ 最終週
予備

以上のスケジュールは学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

〈成績評価の方法〉

試験による。（前期、後期2回実施の予定）
〔教科書〕講義の際指示。

管理会計論

中原 章 吉

〈授業の主たる内容〉

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って始めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの階段を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。

「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

〈授業項目と授業スケジュール〉

前期は、管理会計の本質、体系その中での意思決定会計と業績管理会計をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきたいと思えます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。

「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

〈予め読むべき文献など〉

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思えます。例えば、『企業会計の基礎知識』（創成社）

〔教科書〕講義の際、指示します。

会計監査論

飯 岡 透

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化および企業活動の複雑化に伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。

本講座では、次の内容につき順次講義する。

1. 会計監査の目的と種類
 - (1) 会計監査の目的
 - (2) 会計監査の種類
 - (3) 監査基準の必要性とその構造
2. わが国における監査制度の発展
 - (1) 戦前におけるわが国監査制度の展開
 - (2) 戦後におけるわが国監査制度の展開
3. 証券取引法による監査制度
 - (1) 証券取引法による企業内容開示制度
 - (2) 公認会計士監査制度
4. 商法による監査制度
 - (1) 商法による計算と公開制度
 - (2) 監査役監査制度
 - (3) 会計監査人監査制度
5. 監査人の要件と責任
 - (1) 監査人の要件
 - (2) 監査役および会計監査人の選任と解任
 - (3) 監査役および会計監査人の職務権限と責任
6. 監査証拠の種類と内容
 - (1) 監査証拠の意義と分類
 - (2) 十分な証拠とその決定要因
7. 内部統制と監査リスク
 - (1) 内部統制の構成要素とその評価
 - (2) 監査リスクと重要性
8. 監査要点と監査手続の選択適用
 - (1) 監査要点の意義と種類
 - (2) 監査手続の意義と分類
9. 監査計画の設定要件と組織的監査
 - (1) 監査契約と予備調査
 - (2) 監査計画の目的とその設定
 - (3) 組織的監査の必要性と審査機能の整備
 - (4) 他の監査人の監査結果の利用
10. 監査調書の目的と種類
 - (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
11. 経営者による確認書の意義と記載内容
 - (1) 経営者による確認書の役割
 - (2) 経営者による確認書の記載内容
12. 監査報告書と監査概要書
 - (1) 監査報告書の意義と機能
 - (2) 監査報告書の種類
 - (3) 短文式監査報告書の記載内容
 - (4) 特記事項の記載内容
 - (5) 監査概要書の目的と記載内容

会計監査は、財務諸表の適否についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論、簿記論および財務会計論などの講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。なお、成績は、レポートおよびテストの結果によって評価する。また、教材・参考書については、最初の授業時に指示する。

商業政策

岩下 弘

<授業項目>

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 80年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策
 - 2 流通近代化政策
 - 3 流通システム化計画
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制
- 六 「大型店問題」と訴訟－中小小売業者運動論
 - 1 大型店の出店をめぐる諸問題
 - 1) 社会問題としての大型店の出店
 - 2) 消費者と大型店
 - 2 江釣子訴訟
 - 1) 北上市の商業とジャスコの出店及びその影響
 - 2) 訴状と判決の問題点
 - 3 生業権訴訟
 - 1) 名古屋市の大型店問題
 - 2) 名古屋市の商業と小売市場

3) 生業権論

七 流通問題と消費者保護政策

- 1 消費者問題論
- 2 消費者保護基本法
- 3 消費者行政
- 4 生協

八 流通問題と独禁政策

- 1 独占禁止法
- 2 不正取引
- 3 取引慣行

以上

<成績評価>

試験、レポート、出席により評価する。

〔教科書〕教科書は特に指定しない。必要な文献は指示する。

貿易論

古沢 紘造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまでできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめます。生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

<授業内容>

- I. 農産物と貿易
- II. 水産物と貿易
- III. 林産物と貿易
- IV. 資源と貿易
- V. 工業製品と貿易
- VI. 援助と貿易
- VII. 企業進出と貿易
- VIII. 総括

I～VIIIの具体的な内容については、最初の講義のときに話したいと思います。

<評価方法>

基本的にはペーパー・テストにより評価しますが、自主的にレポートを提出してもらい、それを含めて評価をすることも考えています。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたいと思

ます。思考の跡がうかがえないものは評価の対象にはならないでしょう。

<教材>

とくにこれといった教科書はありません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえば内容は充分理解できると思います。講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいということがありましたら、遠慮なく話に来て下さい。いろいろな文献や訪れたらよい機関を紹介します。講義の内容と卒業論文のテーマが関連しているということで研究室(第2研究館4階34号室)を訪ねる人もいます。

マーケティング

曾我信孝

1. 前期はマーケティングの基本政策を収奪構造の観点から解明する。

(1) 製品政策

- ① 概念と差別化政策
- ② 多様化・細分化政策
- ③ ライサイクルと計画的陳腐化政策

(2) 価格政策

- ① 概念と価格設定の方法(1)
- ② 価格設定の方法(2)と消費者支配
- ③ 差別価格と収奪

(3) チャンネル政策

- ① 概念と流通機構
- ② 商業の排除と系列化政策
- ③ 流通支配の形態

(4) 販売促進政策

- ① 概念と人的販売政策
- ② 広告政策と広告業界

(5) マーケティング・ミックス

※前期の講義のねらいは、マーケティングの基本理論を理解してもらうことにある。しかし、講義中は理論の説明に固執するわけではなく、とりわけ消費財のマーケティング事例を豊富に取り入れるつもりである。それは学生諸君が今後マーケティングを応用できる能力をつけることを期待しているためである。

2. 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングの分析を課題にする。とりわけ、総合商社を軸として、日本企業が激変する国際市場にどのように対応しているかを、マーケティングの観点から分析する。

(1) 激変する市場環境

- ① 国内市場の変化
- ② ブロック経済化
- ③ 経済規制の緩和

(2) 総合商社の新事業

- ① 川下戦略
- ② 消費財生産部門への参入
- ③ 新事業への対応政策

(3) 総合商社の国際マーケティング戦略

- ① 消費財マーケティングの展開
- ② 総合商社の需要創造活動
- ③ ネットワークと支配

(4) 総合商社と子会社

- ① 子会社戦略
- ② マーケティング管理と子会社

(5) 情報化戦略

- ① 国際化と情報の対応
- ② 通信事業と支配
- ③ 情報関連事業と支配

※地球規模での市場の変化は、日本企業だけではなく、世界の企業がマーケティングを限定した地域で展開することはできなくなっている。また、日本市場だけを考えても、生産から消費までを考えなければならぬマーケティングでは、国際マーケティングを抜きには論じられなくなっている。そのなかで、日本企業の国際マーケティングに総合商社は深く関与している。したがって、総合商社の行動を分析することで、総合商社の国際マーケティングはもとより、日本企業の国際マーケティングの実態を解明することにねらいがある。

<評価の方法>

- ① 年一回の定期試験……70%
夏休中の課題……20%
出席状況……10%
- ② 評価基準
講義内容の理解……60%
問題意識……30%
分析力・応用力……10%

〔教科書〕曾我信孝『総合商社とマーケティング』(白桃書房) ¥4,000

〔参考書〕三浦 信・来往元郎・市川 貢『マーケティング』(ミネルヴァ書房) ¥2,200

石原武政『マーケティング競争の構造』(千倉書房) ¥2,800

労務管理論

石井 脩 二

<講義目的>

日本経済の繁栄を支えてきた日本企業の存在意義が問われはじめている。国際的には依然としてくすぶり続ける経済摩擦や経済ブロック化への動

き、国内的には政財界ゆ着による倫理性のない企業犯罪の頻発、過労死や長時間労働に示される労働生活の貧しさ、いわゆるバブル崩壊に伴う企業業績の悪化といった情勢のなかで、あらためて日本企業のあり方が問われている。日本企業をとり巻くこれらの環境変動は、日本企業が今後どのような方向へ進んでいくのかという「将来予測」を難しくしている。この変化の激しい時代に必要なことは、現実には生起している事実を可能な限り把握し、そのなかで次なる時代の方向を自分なりに見定めることである。この講義の目的は、日本企業の現実に焦点を合わせ、これから到来するであろう社会がいかなる様相をもつことになるかを考えるための情報を提供することにある。

〈講義内容〉

企業は、一般にヒト・モノ・カネ・さらに情報といったさまざまな経営資源を調達・購入し、その効果的な組み合わせによって目的とするものを実現していく。日本企業が国際的に強い競争力を発揮しえたのは、これら諸資源のうちヒト資源つまり人的資源の活用の卓越性によるといわれている。企業活動のうちで人事・労務管理といわれてきたものが専らこのヒト資源の有効利用に関係している。

ところが現在、日本企業がつくりあげてきた強い競争力そのものが問われはじめている。このことは、競争力の源であった日本企業での人的資源管理つまり人事・労務管理そのものがその妥当性を問われているということにはかならない。この講義では、日本企業が直面している企業環境の変化のなかで、どのような人的資源管理が展開されようとしているかを極力最新の情報によりつつ明らかにし、新しい制度・方式の展開の先にどのような日本企業の将来が浮上してくるかを考える。

前期は、人的資源管理に関わるもののうち、一般に「雇用管理」といわれている領域の問題を扱う。雇用管理とは、企業が必要とする量と質の人的資源を調達し育成する一連の計画的・組織的活動である。この雇用管理を貫いていた原理・原則は、周知の終身雇用慣行であり、年功制度であった。しかし、今日、日本企業を取りまく環境変動は、従来の雇用管理の原理・原則をゆり動かし、解体の様相さえみせはじめている。この講義では、その変動に関する事実情報を可能な限り把握し伝えようというわけである。講義は、以下の順序で進めていく。

序章

労務管理ないし人的資源管理とは

第1章

日本企業が直面している諸問題

第1節 企業環境の変化と日本企業の戦略転換

第2節 事例研究

第2章

雇用管理の内容と新しい動き

第1節 募集・選考

第2節 教育訓練・配置

第3節 昇進・昇格

第4節 給料・報酬

第5節 労働時間

第6節 定年退職

第3章

人事制度の新しい展開

第1節 変化を促進した要因

第2節 具体的制度とその有する意味

〈授業方式〉

授業は、講義方式、板書。出欠にはこだわらない。但し前期・後期それぞれに試験を行う。

〈成績評価〉

前期（50点）、後期（50点）を総合して判定する。試験内容の評価は、答案の論理性と説得性にもとづく。勿論、講義内容をふまえていることを条件とする。優・良・可・不可の配分は行わない。全員の答案がすぐれていれば全員が優と判定されることもありうる。また、その逆も極端な場合には生じうる。

〔教科書・参考書〕

テキストは使用しない。しかし、以下の文献は必読。講義時間にプリント配布。

①日本経済新聞社編『ゼミナール現代企業入門』（日本経済新聞社）¥2,800

②日本経済新聞社編『会社解体新書』（日本経済新聞社）¥1,300

③日本経済新聞社編『テラスで読む当世労働事情』（日本経済新聞社）¥1,300

④佐野陽子『企業内労働市場』（有斐閣）¥1,700

経営管理論

百田 義治

〈講義の要旨〉

今日、日本的経営システムは、「トヨタイズム」という言葉に象徴されるその「効率性」の側面においても、また「長時間労働」や「過労死」という言葉に象徴される「否定的」な側面においても大きな関心が寄せられている。現代社会における我々の生活は、その大部分が企業の活動を媒介に実現されているのであり、物質的にも精神的にも豊かな社会を実現し、働きがいのある労働生活を回復するために、現代企業における経営管理問題に無関心でいられないことは多言を要しないであろう。

経営管理論は、企業の経営管理諸活動を近代化

・合理化する技法・制度・理念の提供を課題として誕生したものであり、今日においても、その基本的な性格が実践性にあることは否定できない。すなわち、現代の経営管理論は、めざましい技術革新の進展や著しい国際化の展開、あるいは急速に進行する高齢化社会の到来や深刻化する環境問題、さらには自覚した市民として登場しつつある消費者の行動の多様化など企業を取り巻く諸条件の変化に起因する諸問題に対する実践的な指針・政策を提供するという方策論的性格を一面において有している。

本講義では、このような方策論的経営管理論が提起するさまざまな経営管理の技法・制度・組織あるいは理念・思想の歴史的展開と現状を事実即して具体的に考察する。しかし同時に、経営管理の諸問題は、広義の経済学、あるいは社会科学の対象として位置づけて考察することが必要である。なぜなら、一つには、現代企業の諸活動は、経営者や管理者ばかりではなく、圧倒的多数の従業員の「総労働」として表現されているのであり、そのような総体としての企業構成員すべての労働と生活の豊かな未来を展望することが経営管理論の課題でもある。二つには、現代企業は私企業とはいえ「社会的存在」・「社会的公器」でもあり、国民全体の豊かな未来を展望するという立場から、現代企業の経営管理問題の多様な諸相を歴史的、客観的、科学的に認識し、その問題点を解明することも経営管理論の重要な現代的課題である。すなわち、現代企業の諸活動は企業構成員全体の労働に支えられたものであり、またその諸活動は一般株主や消費者あるいは取引業者や地域住民などの、さらには国際化（グローバル化）の現状を踏まえれば進出国との関係をも含めて、数多くの利害関係者との多面的で密接なネットワークの中で展開されているのであり、したがって現代企業の経営管理の諸問題は、実践的・方策論的な立場からだけでなく、一般従業員、下請・関連企業、地域住民、消費者などの労働と生活との関係をも視野に入れて検討されなければならないであろう。本講義では、できる限り、このような視点からも経営管理の諸問題にアプローチすることにしたい。

〈授業の方法〉

授業は、主として、教科書と参考書を素材に授業スケジュールに従って行いが、経営管理問題への関心を鼓舞する意味でも、また経営管理の歴史的展開を学ぶことの現代的意義を理解する意味でも、新聞や雑誌の記事などでできる限りアップ・トゥ・デートな生きた題材の利用にも努める。とくに、技術革新や日本の経営や国際化など経営管理の現代的課題を扱う後期の授業では、ビデオなども利用し、できるだけ具体的に現代企業の経営管理の実際を把握することにも努める。

〔授業スケジュール〕

- ①第1週～第2週：経営管理入門（社会と企業；現代企業と経営管理；経営者と労働者）
- ②第3週～第7週：現代経営管理の基本構造（生産管理；労務管理；財務管理；マーケティング；トップ・マネジメント、など）
- ③第8週～第12週：経営管理の理論（科学的管理論；人間関係論；現代組織論；経営戦略論、など）
- ④前期試験（前期最終週）
- ⑤第14週～第15週：技術革新と経営管理（ME技術革命と労働；現代企業の情報化；OAの進展と事務労働）
- ⑥第16週～第18週：日本的経営論（日本の労使関係；日本の生産システム；法人資本主義と企業集団；企業社会論）
- ⑦第19週～第22週：国際化と経営戦略の新展開（日本企業、アメリカ企業、イギリス企業などの具体的事例について）
- ⑧第23週：現代経営管理の課題と労働の未来
- ⑨第24週：後期試験

（以上のスケジュールは授業の進め方の基本的な方向です。時間割編成の関係などで若干変更することがあります）

〈成績評価の方法〉

前期試験と後期試験に、数回のレポートと出席状況を加えて総合的に評価します。

〔教科書〕今井俊一編著『経営学』（八千代出版）1994年

笹川儀三郎編著『現代経営の基本問題（仮題）』（税務経理協会）1994年

〔参考書〕新書・文庫などを中心に随時指定します。

行政法 II

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間（環境）形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』（勁草書房）、

『行政法Ⅰ・Ⅱ』（評論社）など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ（１）

叶 和 夫

開講時に指示する。

民法Ⅳ（２）

叶 和 夫

開講時に指示する。

比較憲法

竹 花 光 範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首（共和制と君主制、元首、国のシンボル等）
4. 統治の原理と構造（民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等）

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

経済法

川 井 克 俊

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他私的独占、カルテル、企業結合、独占的状态、不正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕川井克俊著『競争政策法概説』（高文堂）¥3,600

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克俊著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

川井克俊著『いやでもわかる公取委』（日本経済新聞社）

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、冷戦後の国際関係の特徴と問題についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、開発途上国に対する政府開発援助（ODA）の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕細谷千博・臼井久和編『新版 国際政治の世界』（有信堂高文社）1993年

〔参考書〕有賀 貞他編『講座 国際政治』（東大出版会）1989年（第2、3、4巻）

西洋政治史

浦 田 早 苗

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのこ

とを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。今年度はフランス革命以降の18、19世紀のフランス政治史を通じ、『近代』の意味するところを考えてみたい。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人との関係をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

前期：岩 井 奉 信
後期：早 川 純 貴

政党は民主政治の要であるといわれてきた。しかし、近年の激動する政治状況の中、政党および政党政治のあり方そのものが問われるようになってきている。本講義では、前期で岩井が現代日本の政党および政党政治の現状について、政治改革や政界再編などのトピックを中心に講義を行ない、現代政党が抱える問題についての理解を深める。その上で、後期には早川が政党および政党政治の理論について講義を行なうと共に、諸外国の政党についての比較などを行なう。

〔教科書〕岡沢憲美『政党』（東京大学出版会）

経 営 統 計

相 山 長 知

開講時に指示します。

国際経営論

茂 垣 広 志

国際経営論とは「国境を越えて事業展開している活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる領域である。周知のように1985年のプラザ合意以降の急激な円高と貿易摩擦による相手先国の輸入規制は、これまでの日本企業の国際戦略の転換を余儀なくさせるものであった。海外市場確保のための現地生産や円圏離脱のための第三国生産、それらは企業の戦略と活動の調整をますます複雑なものにする。

本講義では、企業の国際化、海外進出、多国籍化というような言葉で表わされている現象を企業経営の視点から多面的にとらえ、検討していきたい。その際、日本企業を念頭において話を進めるが、欧米の多国籍企業との比較を踏まえながら、理論とケースを織り交ぜつつ講義を進行させていく予定である。

〔教科書〕根本 孝・諸上茂登編著『国際経営の進化』（学文社）¥2,800

保険経営論

石名坂 邦 昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においては各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際的問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

財務会計論

渡 邊 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の財政状態と経営成績を明らかにするという基本的職能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に責任を持つ経営者が、投資者、債権者、その他企業活動に利害関係を持つ外部の人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心とする課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』
(中央経済社)

経営分析論

片 桐 伸 夫

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

前期は収益性・安定性分析を、後期は生産性・社会性・損益分岐点・利益増減・成長性その他の分析をとりあげ、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。(財務諸表とは「貸借対照表」や「損益計算書」など、企業の毎期の経済活動を報告するものです。)

したがって、成績は「平常点」で評価します。

- ① 前・後期、計2回のレポート提出と、
- ② 前・後期、計2回のテストを行い、
- ③ なお、出席を重視します。

学年末試験は行わないので、十分注意下さい。

〔教科書〕開講の時、指示します。

人税の問題が大きな関心時として存在している。消費税についても何かと話題にのぼっている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与(報酬、給料、賞与)の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、借地権、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

なお、テキスト、参考書等は開講時に指示する。

〔評価方法〕

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度、提出を求める。また、毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

税務会計論

高 木 克 己

税務会計論

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法

経営労務論

中 村 眞 人

企業社会と言われる今日の日本社会で、人々はどうのように働き、生活を支えているのだろうか。企業を社会経済のなかに位置づけた上で、企業と

労働との関係、企業のなかでの労働の実態について、考えていきたい。

学問の対象それ自体は、会社と仕事という身近なものだが、専門的な諸概念や理論枠組を用いて問題の発見と説明をはかる。講義内容は高度だから、自分で毎回、詳しいノートを取りながら聴講すること。

(1) 企業社会の成り立ちと労働

現代日本には、さまざまな業種の企業があり、また世界的な巨大企業から零細企業に至るまで企業規模の幅も広い。これらの企業は、どのような関係のもとに結びついているのか。そして、それは、企業で働く人々にどのような階層分化をもたらしているのか。また、それぞれの階層ごとに、どのような問題を抱えているのか。これら前半については、下記の教科書を用いる。

(2) 現代日本企業の人的資源管理と労使関係

後半では、私がおこなっている実態調査研究をふまえて、現代日本企業の雇用管理（人事管理）、賃金、労働時間、労使関係などについて、具体的な事例を示し、最新の現実にも引照しつつ解説する。

〔教科書〕戸塚秀夫・徳永重良編『現代日本の労働問題』（ミネルヴァ書房）

商業史

山田 勝

商業と商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。その際、対象とする時代の人々の生活や考え、現代とのかかわり、といった諸点も検討していきたい。

主に対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐原 作美

『万葉集』の中から各期を代表する歌人の特色ある歌を選んで講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』（桜楓社刊）¥1,800

国文講読Ⅱ（中古）

鈴木 裕子

今年度は、『源氏物語』を、紅葉賀巻から読む。本文を正確に読みながら光源氏の青春期の喜びや苦悩というものについて考えてみよう。

〔教科書〕新潮日本古典集成『源氏物語』二（新潮社）

国文講読Ⅲ（中世）

菌部 幹生

中世は説話の時代とも言われるが、そのなかでも説話文学の代表作品である『宇治拾遺物語』を読む。一つ一つの説話が担っている歴史的背景や意味、及び他作品との関連について考えてみたい。

〔教科書〕中島悦次校註 角川日本古典文庫

『宇治拾遺物語』（角川書店）¥720

〔参考書〕その都度指示する。

国文講読Ⅳ（近世）

清田 啓子

近世小説の白眉とされる『雨月物語』をとりあげる。古典と中国文学との摂取による独自の世界を充分味わってみたい。また、読本の発生以来、後期読本への流れも見、「雨月」の位置も確かめたい。

〔教科書〕水野 稔校注『雨月物語』（明治書院）

国文講読Ⅴ（近・現代）

大室 英爾

近代詩を読む。『於母影』の訳詩などからはじめて大正期の朔太郎・犀星・春夫あたりまでの主たる作品を順次読み、考える。併せて近代詩の流れにも検討を加える。

〔教科書〕萬田・吉田編著『展望近代詩』－その歴史と作品－（双文社出版）¥1,236

国文講読V (近・現代)

笹瀬 王子

前年度に引きつづき、泉鏡花を扱う。作品に忠実な読みを通して〈一つの美しい魂の国〉とも評される鏡花文学の特質とその魅力を考えたい。

〔教科書〕川村二郎編『鏡花短篇集』(岩波文庫)

¥520

泉 鏡花著『歌行燈』(岩波文庫)

¥260

英語演習 I (ディクテーション)

岡本 誠

慣用句の成立背景を歴史的にみていく。例えば、OKという言い方はどのようないきさつで成立したのか。あるいはmaverickとはどうして「一匹狼」の意味になったのか。これを全講義ディクテーションで行なう。紙と鉛筆それに辞書を持ってくること。各自TOEFL 500点をめざしてほしい。

〔教科書〕テープ使用。

国文特講V (近・現代)

笹瀬 王子

田山花袋の回顧録『東京の三十年』を読む。本書に描かれた文壇や社会の動きに留意しつつ、多角的に明治の文学を考えてみたいと思う。

〔教科書〕田山花袋『東京の三十年』(岩波文庫)

¥570

〔参考書〕授業中、適宜指示する。

計算機言語概論

杉田 徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801)による実習

〔教科書〕コンピュータ教育工学研究所編
ガイドブック『BASIC』
(サイエンス社) ¥1,854

英文タイプライティング II

竹内 美恵子

一年次に習得した基礎の上に、レター、各文書を中心に実務的な内容を学んでいきます。プリントしたものを課題とし、一定の時間内に文書等の処理ができるように授業を進めていきます。

なお、他学部の学生は、ブラインド・タッチをマスターしていること。

臨床放射線特論 I

本間 襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

他学部履修では、将来病院や医学関係に従事する人に必要な知識である。

〔教科書〕定めず

時事英語

岡本 誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもちることが肝要。また当日は耳をよく掃除してくること。

〔教科書〕テープ使用。

応用計測学

檀 尾 英 次

医用画像診断装置は、コンピュータ技術の進歩と共に診断には不可欠なものとなってきた。この講義では、核医学機器（ガンマカメラ、シングルホトンECT、ポジトロンCT）、X線CT装置、MRI装置のハードウェアとソフトウェアについて概説する。また超音波診断装置、DSA、CRならびにPACSについても、その概要を講述する。

〔参考書〕 岩井喜典他編著『医用画像診断装置』
（コロナ社）

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。

(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課程・講座名	資格取得学部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教育原理 (上岡 安彦)	1
教育原理 (北村 三子)	1
教育原理 (坂本 信昭)	1
教育原理 (田中 智志)	1
教育原理 (村山 輝吉)	1
教育心理学 (教育方法論を含む) (遠藤 司)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (北島 歩美)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (国眼 真理子)	2
教育心理学 (教育方法論を含む) (中村 均)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (大浜 幾久子)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (川田 三夫)	2
青年心理学 (教育方法論を含む) (小宮山 要)	3
青年心理学 (教育方法論を含む) (牟田 悦子)	3
特別活動 (中野目 直明)	3
生活指導 (遠藤 司)	3
生活指導 (佐藤 尚人)	3
宗教科教育法 (小山 一乗)	3
国語科教育法 (神谷 道倫)	4
書道科教育法 (那須 隆吉)	4
英語科教育法 (荒井 良雄)	4
社会科・地理歴史科教育法 (長野 覺)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (中島 義一)	4
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・地理歴史科教育法 (野呂 肖生)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (長谷部 八朗)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (谷敷 正光)	5
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (小山 一乗)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
社会科・公民科教育法 (橋爪 敏)	6
(平成元年度以前入学生: 社会科教育法)	
職業科教育法 (前田 幸一)	6
商業科教育法 (谷敷 正光)	7

道徳教育の研究 (上岡 安彦)	7
教育実習 (上岡 安彦)	7
教育実習 (坂本 信昭)	7
教育実習 (村山 輝吉)	8
教育実習 (北村 三子)	8
(2) 教職に関する専門科目 (選択)	
教育哲学 (汐見 稔幸)	8
教育社会学 (高島 秀樹)	8
現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹)	8
教育評価 (大浜 幾久子)	9
教育情報学 (小倉 康仁)	9
教育調査 (鈴木 規夫)	9
教育史 (北村 三子)	9
教育関係法規 (広沢 明)	9
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(9)
社会教育施設 (村山 輝吉)	(9)
図書館学 I (山崎 慶子)	(9)
図書館学 II (源 昌久)	(9)
視聴覚教育 (赤堀 正宜)	(9)
教育臨床心理学 (牟田 隆郎)	10
教育法規研究 (神田 修)	10
児童文化 (湯山 厚)	10
宗教教育 (松本 皓一)	10
(3) 教科に関する専門科目	
【社会 地理 歴史 公民】	
日本史概説 (栗野 俊之)	10
日本史概説 (小松 寿治)	10
世界史概説 (井村 行子)	10
世界史概説 (渡辺 惇)	11
地誌学概説 (橋詰 直道)	11
地誌学概説 (長野 覺)	11
地誌学概説 (宮口 伺迪)	11
人文地理学概説 (小林 高壽)	11
自然地理学概説 (高木 正博)	11
自然地理学概説 (早船 元峰)	11
民法 I (青野 博之)	12
民法 I (鶴井 俊吉)	12
政治学原論 (大塚 桂)	13
社会学原論 (渡辺 源樹)	13
経済原論 (荒木 勝啓)	13
経済原論 (大石 雄爾)	14
経済原論 (小野 俊夫)	15
哲学概説 (中村 璋八)	15
哲学概説 (久保 陽一)	15
倫理学概説 (国嶋 一則)	15
宗教学概説 (洗 建)	15

宗教学概説 (松田 文雄)	15
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	(16)
民間信仰論 (谷口 貢)	16
東洋思想研究 (館野 正美)	16
民衆宗教成立史 (洗 建)	16
歴史哲学 (麻生 建)	16
日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘)	(16)
美術史概説 (中島 亮一)	(16)
日本宗教文化史 (松田 文雄)	16
【職業】	
産業概説 (前田 幸一)	16
職業指導 (山田 勇治)	17
商業実習 (前田 幸一)	17
【商業】	
職業指導 (山田 勇治)	(17)

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ (山崎 慶子)	18
図書館学Ⅱ (源 昌久)	18

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	19
社会教育計画 (村山 輝吉)	19
社会教育実習 (村山 輝吉)	19
社会教育実習 (上岡 安彦)	19

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育 (高島 秀樹) ..	(19)
婦人問題と社会教育 (矢口 悦子)	19
社会教育施設 (村山 輝吉)	20
図書館学Ⅰ (山崎 慶子)	(20)
博物館学Ⅰ (倉田 芳郎)	(20)
博物館学Ⅱ (竹内 順一)	(20)
企業内教育・職業訓練 (塩川 正人)	20
社会体育Ⅰ (古田 潤子)	20
社会体育Ⅱ (古田 潤子)	20
視聴覚教育 (赤堀 正直)	(20)
教育原理	(20)
教育心理学 (教育方法論を含む)	(20)
青年心理学 (教育方法論を含む)	(21)
社会心理学 (坪井 健)	21
教育社会学 (高島 秀樹)	(21)
教育調査 (鈴木 規夫)	(21)
教育史 (北村 三子)	(21)
児童文化 (湯山 厚)	(21)
社会教育行政 (牧野 篤)	21
成人学習論 (牧野 篤)	21

Ⅳ 博物館学講座

(1) 必須科目

博物館学Ⅰ (倉田 芳郎)	22
博物館学Ⅱ (竹内 順一)	22

教育原理	(22)
社会教育の基礎 (社会教育概論) (村山 輝吉)	(22)
視聴覚教育 (赤堀 正直)	22
博物館実習Ⅰ (館務) (倉田 芳郎・太田喜美子)	22
博物館実習Ⅱ (収集) (倉田 芳郎・葉貫 磨哉・ 惠津森 智行・太田喜美子)	22
考古発掘実習 (千葉 基次)	23
博物館実習Ⅲ (見学) (倉田 芳郎・太田喜美子)	23

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ (廣瀬 良弘)	23
インド仏教文化史 (奈良 康明)	23
西洋文化史Ⅰ (佐々木 真)	23
西洋文化史Ⅱ (三小田 敏雄)	23
仏教美術 (中島 亮一)	24
現代美術 (矢野 陽子)	24
禅美術 (海老根 聰郎)	24
美術史概説 (中島 亮一)	24
西域美術史 (相馬 隆)	24
考古学概説Ⅰ (日本) (倉田 芳郎)	24
考古学概説Ⅱ (外国) (飯島 武次)	24
考古学特講Ⅰ (高浜 秀)	24
考古学特講Ⅲ (飯島 武次)	25
日本民俗学 (谷口 貢)	25
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	25
地形学Ⅰ (小池 一之)	25
地質学 (貝塚 爽平)	25

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

※社会福祉原論 (伊藤 秀一)	26
※社会福祉原論 (原田 信一)	26
※老人福祉論 (前期: 中野 いく子)	26
(後期: 東條 光雅)	
※障害者福祉論 (原田 信一)	26
児童福祉論 (柏女 霊峰)	26
※社会保障論 (近藤 功)	27
※公的扶助論 (伊藤 秀一)	27
※地域福祉論 (和田 敏明)	27
※心理学 (福祉) (井上 孝代)	27
※社会学 (福祉) (橋爪 敏)	27
※法学 (福祉) (小林 弘人)	28
リハビリテーション論 (原田 信一)	28
社会福祉運営論 (坂田 周一)	28
家族福祉論 (高橋 重宏)	28
医療福祉論 (前期: 松本 栄二)	28
(後期: 春見 静子)	
婦人福祉論 (林 千代)	28
保健福祉論 (安梅 勲江)	28

社会福祉発達史（林 千代）	29
海外社会福祉論（中野 いく子）	29

上記科目のうち

※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象とする科目

注（ ）頁は他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』（上・中・下）を年間を通して読みます。次に、出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
（岩波文庫）

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教 育 原 理

北 村 三 子

登校拒否・不登校の広がりや象徴するように、今日の社会では、それまで自明だとされていた学校や教育の価値が揺ぎ始めている。このような時期にあって、私たちはどのような方向で教育について考えてゆけばよいのだろうか。本講義では、その手掛りを、J. クリシュナムルティの教育思想の中を探ってみたい。

〔教科書〕J. クリシュナムルティ『英知の教育』
（春秋社）¥1400

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる

9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

さらに、教育問題にかかわるVTRを視聴する予定です。

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート（エイデル研究所）¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
（学芸図書）¥950

デュイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
（岩波文庫）¥200

西村絢子他『現代教育を考える』
（昭和堂）¥2,600

教 育 原 理

田 中 智 志

本講義は、教育についての基本的・総合的な認識と、教育の現実を直視する学問的姿勢を学ぶことを目的とするものであり、とくに個人的経験をこえた、ひと・社会と教育・学校との構造的な関係をあきらかにしていきたいと思えます。とりあげるトピックスは、1. 人間と教育（人間を形成するとはどういうことか）、2. 社会のなかの学校（学校の選抜機能はなぜ生じるのか）、3. 教育課程と学習指導（みえないカリキュラムとはなにか）、4. 教育と学校の存立構造（脱学校論や再生産論はなにを告発しているのか）などです。

〔教科書〕松浦良充編著『いま教育を考えるための8章』（川島書店）¥2,200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作なども参照しつつ、人間の発達と教育、文化、社会のかわりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』（岩波新書）
¥480

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕（国土社）
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』（東大出版会）

教育心理学
（教育方法論を含む）

遠藤 司

今日の教育の現場において、教師、生徒がおこなう様々な活動に対して心理学の知見を基にした見方がなされている。特に、教師として生徒と様々な形で関わる際に、心理学的見方に対してどのような態度で臨むかによって、具体的な教育活動のあり方が異なってくる。本講義では、心理学の知見がどのように教育の世界に影響を及ぼしてきたかを、学習、評価等の諸領域において概観しながら、生徒とのよりよい関わりを作るために、教師としてどのような活動をしていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

大浜 幾久子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方と、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
（教育方法論を含む）

北島 歩 美

思春期、青年期の心理的発達課題について概説し、それらと合わせて、教育の現場においてあらわれる臨床的諸問題（不登校、心身症など）について検討する。さらに、時間が許せば、それらの問題についての臨床的アプローチを考えていきたいと思っている。

〔教科書〕菅佐和子著「思春期女性の心理療法」
（創元社）¥1400

〔参考書〕E.H.エリクソン著「自我同一性」（誠心書房）¥2500
中井久夫・中山康裕編「思春期の精神

病理と治療」¥4,000

教育心理学
（教育方法論を含む）

国 眼 眞理子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「青年期」「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」の三領域を中心に学んだ上で、「学習意欲と教育評価」や「進路指導」についても併せて考えていきたい。

〔参考書〕授業において随時プリントを配布する。

教育心理学
（教育方法論を含む）

中 村 均

1. 発達
どのような仕組みで発達が起こると考えられているか。発達の変化の概観。
2. 学習
どのような仕組みで学習が起こると考えられているか。学習を促進する条件はどういうものがあるか。
3. 個人差
一人ひとりの違いの把握について。
4. 教育方法
教育メディアを利用した教育方法について。
〔参考書〕授業中そのつど紹介する。

青年心理学
（教育方法論を含む）

大 浜 幾久子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
（教育方法論を含む）

川 田 三 夫

青年は発達の存在であると同時に社会的存在でもある。思春期の頃にふと自分のことを考え始

め、友達と比較をしたりして色々と悩みながら現在に至っている。親はもちろん、テレビ・マンガ、遊び・おもちゃ、学校・友達、勉強・進学、文学・音楽など自己の形成に影響を与えるものは数多い。講義の前半はこれらの意味や役割について考えてみる。

後半は身近な所で起きている現象や話題を取り上げながら青年を考える一方で、分かっているようで分かってない自分のことを人格心理学的な側面からアプローチして理解を広げてみたい。簡単な心理学のテストなども試みにやってみよう予定である。

青年心理学
(教育方法論を含む)

小宮山 要

前半では青年期の発達課題、自我、感情、知性等について考察する。また、後半では親子関係、恋愛・結婚、職業、問題行動、時間的展望等について検討し、自己と他者の理解を深めていく。

〔教科書〕使用しない。

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学-青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔教科書〕宇留田敬一編『特別活動の基礎理論と実践』(明治図書) ¥1,650

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

遠藤 司

教師として生徒の「生活」にいかにして関わるべきかという問題は、今日の学校教育において重要になっている。特に最近、学校生活に適応できずに、様々な形で不適応状態に陥り、困難をおぼえている生徒も多い。本講義では、それぞれの生徒にとっての学校生活に適応することの意味、あるいは不適応状態に陥ることの意味を探りつつ、一人一人の生徒に教師がどのように関わればよいのか、また、学校という生活の場をどのように作っていけばよいのかという問題について考えていきたい。

教科書、参考書については、講義中、随時紹介する。

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけても1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中できない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。

〔参考書〕大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) ¥2,200

宗教科教育法

小山 一乗

先ず教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。特に各教科と宗教科との関係、「宗教教育」と「宗教科教育」との異同点にも留意する。我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科

学習指導要領の文言との関係等を検証する。その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。

適宜わらべうた等も導入し、幼稚園教育から高校教育までの接続も考察に含めたい。模擬授業を課します。学習指導案作成の徹底的指導をする。

- 〔教科書〕『仏教概論－わかりやすい仏教－』（曹洞宗宗務庁）¥800
『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』（大法輪閣）¥1,600
『教育小六法』（学陽書房）¥2,200
小中高各『学習指導要領』（文部省、各¥230, ¥250, ¥370）
『生徒指導の手引』（文部省¥460）
『教職教養ランナー』（一ツ橋書店）¥1,020
『現代のエスプリ』251号（至文堂）¥1,020
その他必要に応じて指示する。資料を配布するのでファイルを用意しておくこと。
〔参考書〕『宗教教育の理論と実際』（鈴木出版、1985年）
その他必要に応じて多数指示する。

国語科教育法

神谷道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

- 〔教科書〕改編 中学校・高等学校『国語科教育法』（桜楓社）¥1,800

書道科教育法

那須隆吉

長い歴史をもつ書の特質を考察し、その指導法を学習する。文部省の芸術科指導要領を理解し、

将来の教師としての自覚を促し、指導力を養うことにつとめたい。

- 〔教科書〕久米公著「書写書道教育要説」（萱原書房）¥2,300
〔参考書〕「高等学校学習指導要領解説」（文部省）¥410

英語科教育法

荒井良雄

中学校や高等学校の英語教員として教壇に立つための基本となる英語教育法の理論と実践の研究指導を行う。

学習指導案の作成法と授業の進め方の実際的な指導が中心になる。教師に必修のPublic Speakingを重視する。

- 〔教科書〕『英語科教育法の実際』（成美堂）¥2,200
〔参考書〕稲村松雄『ジャック・アンド・ベティーから21世紀へ』（桐原書店）¥1,400

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

長野 覺

学習指導要領に基づく中学校社会科・高等学校地理歴史科の教科目的・教科内容等を概観したのち、特に地理教育について教案作成・教材の工夫・視聴覚器材の使用法などをに指導し、授業演習を行い、教育実習に備える。

- 〔教科書〕中学校社会科教科書、高等学校地理教科書・地図帳、文部省学習指導要領

社会科・地理歴史科教育法

（平成元年度以前入学生：
社会科教育法（地理））

中島 義一

社会科（地理歴史）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

社会科・地理歴史科教育法
(平成元年度以前入学生：
社会科教育法(歴史))

野呂 肖 生

「中学校で社会科，高等学校で地理歴史科の授業をするさいに役立つように」を目標とし，社会科・地歴科教育(とくに歴史)の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日的課題にもふれながら，社会科公民科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は，社会科公民科の性格，目標，歴史，指導計画，指導案，教材研究，教育評価といった問題について，とりあげる予定である。

そして後期には，模擬授業やディスカッションの機会を持ち，受講生の主体的な授業参加を期したい。

より詳しい進め方については，最初の授業で述べる。

[教科書・参考書] 適宜指示する。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

社会科は，民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で，重要な使命を負って誕生した教科であり，日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし，この社会科教育も，戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し，動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。今回の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し，新たに生活科を設け，高等学校の社会科を廃止し，新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

したがって，しっかりと社会科教育を樹立するため，単なる授業方法の技術論ではなく，より基本的な「教育とは何か」といったところまで

さかのぼって充分検討してみたい。その上で，社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ，教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論，視聴覚教室でのビデオの上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科教育の原点
4. 社会科学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と公民科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 中学校社会科の目標・内容・取り扱い
10. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱い
11. 教育評価
12. 教育実習の意義
13. 模擬授業を通じての社会科の学習指導と授業実践の研究
14. 社会科教師論
15. 教員採用試験の準備と今年度の採用について(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する)

〈履修条件〉

出席を確認する。

〈成績評価の方法〉

授業中定期試験と同じ様式で一度試験を行う。授業での課題の提出，学習指導案の作成，授業実践などで総合的に評価する。

[教科書] 大森・谷敷共著『社会科教育研究』(梓出版)

[参考書] 遠山 啓『競争原理を超えて』(太郎次郎社)

石川達三著『人間の壁』(新潮文庫)
灰谷健次郎著『兎の眼』(新潮文庫)
無着成恭著『山びこ学校』(角川文庫)
その他，若干のルポ，小説，社会科・公民科の教科書，中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

- [注 意] ①年間かなりのプリントを配布するので，必ずファイルを用意すること。
②視聴覚教室も使用するので，常に教場には注意しておくこと。

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

小 山 一 乗

我が国にかかわる第二次世界大戦、英文・邦文の「日本国憲法・教育基本法」、学習指導要領相互の関連検証。学校教育法に規定する学校の目的・学校教育の目標の系統的位相性の検討。社会科創設の国際関係論的・歴史的背景、及び、初期社会科指導要領(試案)以来の変遷概観。社会教育の目標・内容・方法・カリキュラム論。カリキュラムの類型。学習指導の段階説。学習指導案の様式・類型と教師の教育観。学習指導要領各項文末表現①「知識理解度事項」②「態度的事項」③「技能的事項」等と学習指導上のねらいの確認。中・高等学校の社会科・公民科の教科書を用い、個人又はチームによる模擬授業実践を課す。その際、年間学習指導計画案から本時学習指導計画案までを作成し、他教科との関連をも考慮すること。模擬授業とはいえ実際の授業とことろえ、メディア・ミックスを含めた手作りの「掲示・配布資料等の実物」を作成すること。模擬事業は、カガミ利用としてのビデオに収録し、事後の授業分析の討議に供する予定。最後に『学習指導要領』『指導書 社会編』『解説 公民編』をもとにして、各自手作りの教科書素描の提出を課す。シラバスは開講時に示す。

〔教科書〕小・中・高校各『学習指導要領』、各¥230 ¥250 ¥370 小学校・中学校学習指導要領各『指導書 社会編』¥90 ¥100 『高等学校学習指導要領解説 公民編』(実教出版)¥220 『中学生の社会科・地理』『同 歴史』『同 公民』(中教出版)各¥605 ¥605

『最新版 倫理』『改訂版 政治・経済』『改訂新版 現代社会』(中教出版)、各¥370 ¥370 ¥605

『地図帳』各自で用意のこと

『平成6年版 教育小六法』(学陽書房)¥2,200 『現代のエスプリ』251号(至文堂)¥1,020

〔参考書〕『楽しく学べるヒント教材 シリーズ 中学 社会科の授業Ⅰ』『同・Ⅱ』(明治図書)各1,400 『教職教養ランナー95年版』(一ツ橋書店)¥1,020 『一般教養ランナー95年版』(一ツ橋書店)¥1,020 谷川彰英『戦後社会科教育論争に学ぶ』(明治図書)¥783

社会科・公民科教育法
(平成元年度以前入学生：社会科教育法)

橋 爪 敏

社会科は、戦後改革の一環として、民主的な国民の育成を目指して設定された教科である。したがって、単に知識の習得のみを目的としたものではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、現実の政治的状況・教育状況によって紆余曲折してきたのも事実である。

1994年4月から、高等学校社会科は公民科と地歴科の2科に再編される。その分割再編の是非はともあれ、公民科・社会科教師に求められる「資質」は他教科のそれにも増して、厳しいものがあると言える。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、公民科・社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設け“教えること”を、実際の体験を通して学習する。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

<講義目的>

職業科及び技術・家庭科に関する教育について学んでいきます。授業は人数の関係もありますが、ゼミ形式で進めていきます。

<授業内容>

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- (1) 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
- (2) 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討する。
- (3) 職業教育について

(1)(2)は前期授業、(3)の職業教育は後期授業で行う予定です。なお(3)の職業教育についてはテキストを利用します。これは開講時に指示します。

<評価方法>

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物などで評価します。

商業科教育法

谷 敷 正 光

〈授業内容〉

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育は大きく軌道修正され、さらに先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されている。従つて、本講は、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

〈授業形態〉

講義の他に教室での模擬授業実践と討論、視聴覚教室でのビデオ上映などを行う。

〈授業項目〉

1. 日本経済の発展と教育・産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の歴史
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 学習指導案の作成
9. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
10. 教育評価
11. 教育実習の意義
12. 模擬授業を通じての商業科の学習指導と授業実践の研究
13. 商業科教師論
14. 教員採用試験の準備と今年度の試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する）

〔教科書〕岡田修二他『新商業教育論』（多賀出版）

〔参考書〕城山三郎『素直な戦士たち』

（新潮文庫）

灰谷健次郎『鬼の眼』（新潮文庫）

竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』

（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕①年間かなりのプリントを配布するので、必ずファイルを用意すること。

②視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。

〔教科書〕『道徳教育の研究』（新訂版）（学芸図書）¥900

教育実習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義

学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省印刷局）¥370

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）¥350

教育実習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得などについての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成—提出、教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成による授業（ディスカッション）を行い、教育への理解を深め、教育とは何か、どうあるべきかについて各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像についても一緒に考えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
(共文社) ¥480
田村皖司他著『きょういく』ビジネス
ノート(エイデル研究所) ¥1,800
西村絢子他『現代教育を考える』
(昭和堂) ¥2,600

〔参考書〕『地球時代の子どもと教育』汐見稔幸
著(ひとなる書房)

教育実習

村山輝吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めるよう、年間を通じて次の事項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

教育実習

北村三子

前半は教育実習の準備にあてる。後半は、教育をめぐる様々な問題について、文献を読み合い討議をしたい。

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学

汐見稔幸

科目名は教育哲学となっているが、固苦しいものではなく、気軽に現代の教育問題を話し合い考え合う研究会形式の授業を考えている。授業者の都合で、毎週の授業でなく、まとめて何回かの授業を合宿形式の可能性も含めて行なう予定であるが詳細は参加者と相談して決めたい。取りあげたいテーマとして環境問題と教育、授業形式の新しい創意(ディベートなど)とその検討、学校の現在と将来、不登校・登校拒否問題などを考えているが、これも参加者の希望により決定する。参考図書としてあげた本は読んで参加することを希望する。

教育社会学

高島秀樹

教育社会学は教育を社会的な事象としてとらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を旨とする営みであることはいうまでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育(家族、遊びと仲間集団、地域社会など)と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』
(明星大学) ¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

現代日本社会とその内での私達の生活は、今日大きく変動しつつあり、そこにまた多くの問題を内在させている。この科目では、現代社会の内における個人のライフステージに沿って、各ライフステージにおける生活世界の実態と発達課題、各ライフステージにおいて個人と密接な関係を持つ社会集団や社会の状況について明らかにし、さらにそれらと教育との関係についてできるだけ具体的に、実例を取り入れて考察していきたい。

この科目では単なる「講義」ととどまらず、各々の問題について基本的なことを説明した上で、受講生自身に考え、発表してもらうことも取り入れていきたいと計画している。

〔教科書〕高島秀樹・岩上真珠・石川雅信共著
『生活世界を旅するーライフステージ
の社会学』(福村出版)
1994年3月刊行予定

教育評価

大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

なお、パソコンによるデータ分析の実習も行う。

教育情報学

小 倉 康 仁

日本の学校現場で広く普及しているパソコン用アプリケーションソフト（ワープロソフト、表計算ソフト）や教育用プログラミング言語の操作実習を通して、教育におけるコンピュータ利用の可能性について多角的に検討する。

授業で取り上げる話題としては、コンピュータ・リテラシー、CAIとCAL、CMI、オーサリング・ソフト、シュミレーション・ソフト、データベース、パソコン通信、マルチメディアなどを予定している。

教育調査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育史

北 村 三 子

日本の若者史および青年期教育に関する歴史的文献を読む。

教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕広沢明『憲法と子どもの権利条約』
（エイデル研究所）¥2,800

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

（P.19）参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

（P.20）参照

図書館学Ⅰ

山 崎 慶 子

（P.18）参照

図書館学Ⅱ

源 昌 久

（P.18）参照

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

（P.22）参照

教育臨床心理学

牟田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現している。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

教育法規研究

神 田 修

憲法と教育基本法、教育と権利、学校教育・教師と法、教育行政と法などについて学習する。

〔参考書〕①『解説教育六法』1993年版（三省堂）

②神田修他編著『現代教育の課題』
1992年（北樹出版）

③兼子仁、神田修編著『教育法規事典』
1991年（北樹出版）

児童文化

湯 山 厚

児童文化とはなにかとか、その史的推移とか、あるいはこれからのあり方は、といったように概論風ではなく、現に身近にある名作物の児童図書や、リバイバルソング風に歌われている童謡などを具体的に取り上げ、それらを歴史的に、あるいは他ジャンルとの関連、さらには公教育、民間教育運動との関係、といった観点からとらえなおし、子どもを取りまく環境の一部ともなっている文化財をみなおすとぐちとしたい。

〔参考書〕上笙一郎著『児童文学概論』（東京堂出版）¥1,800 『日本唱歌集』『日本童謡集』（いずれも岩波文庫）各¥450
坪田譲治編『赤い鳥傑作集』（新潮文庫）¥400

H・Aレイ・光吉夏弥訳『ひとまねござる』（岩波書店）¥1,300

宗 教 教 育

松 本 皓 一

宗教的情操を培うことは、円満な人格完成にとって必須の要件である。とくに今日のように主知主義・科学主義の時代においては重要問題である。そうした点から、知識教育・情操教育を併せた広い立場で宗教教育の諸問題を考えてみる。

〔参考書〕必要に応じて適宜明示する。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

栗 野 俊 之

日本における古代から中世・近世・近代へという歴史の流れを概観するが、その際、政治・社会・文化・宗教などの中で、主に政治状況・社会状況を中心として講義して行きたい。また、関連する史料なども活用したいと思う。

日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり政治史を中心に講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井 村 行 子

「大航海時代」以降の世界史をヨーロッパ、アメリカを中心に概説する。

〔教科書〕大下・西川・服部・望田編
『西洋の歴史』（近代編）
（ミネルヴァ書房）¥2,000

〔参考書〕授業中に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

橋 詰 直 道

前半は、地域の捉え方、地域区分、自然環境と人間の関係など地理学の基礎と地誌的な地域の見方を中心に学ぶ。

後半は、主に都市と農村の変容について、動態地誌的な事例研究成果を紹介し、地理的空間構造とその変容過程を学ぶ。

教科書は特に定めず、講義はプリント中心に行う。参考書は講義の中で紹介する。

地誌学概説

長 野 覺

前期は地理学における、地誌学の概念と役割を発達史的に講義する。後期は学習時点で、国際的に関心をもたれている国の地誌を学習することにした。講義はプリント資料を中心に進めるが、参考書は開講後に指示する。

〔教科書〕藤岡謙二郎他『世界地誌』（大明堂）

地誌学概説

宮 口 侗 廸

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。風景の持つ意味を理解してもらい、日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。

人文地理学概説

小 林 高 壽

教職のための人文地理学を概説するのである。そのために①人文地理とは何か（本質論）②人文地理をどう教えるか（教授論）③教える立場と教わる立場の考察（教育論）④人文地理の基盤となるべき自然地理の内容はどうなっているか（体系論）⑤自然環境及社会環境とは（相互作用論）⑥地図と地理統計をどう読むか（教材論）⑦地理学にあらわれてくる人物をどうとらえるか（主体論）⑧人文地理の教育と研究について（教養論）等にわたって講述したい。

地図帳と最新地理統計（小冊子になっている）は持参して貰いたい。

〔教科書〕長谷川典夫編著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800

〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店編の『地理統計』

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、地形と水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかかわりを具体的な地域事例をもとに解説し、それぞれの地域が有する地域的特性を明らかにする。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について講じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

〔参考書〕水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）¥3,600

民法 I

青野博之

〈講義目的(要旨)〉

生活に関連するものとして、民法を学ぶ。民法の最初ということで、民法入門という性格も有する民法総則が中心となるが、物権法も、もちろん講義対象である。せっかく民法を学ぶつもりになったのであれば、民法全体のイメージをつかむためにも、民法の体系性からしても、できれば、民法二部も続けて受講してほしい。

民法総則・物権法の中で、自分と他人との関係を権利義務という法律の目でみるができるようになれば、講義目的は達成される。自分は他人に対して何をなぜ主張することができるのか(権利)、自分は他人に対してなぜそんなことをしなければならないか(義務)を受講生自身が考えていけるように講義を進めたい。質問は大歓迎である。

出席者がそれほど多くなければ、私から受講者に質問しつつ、受講者に民法の条文を読み上げていただきながら、私の講義を聞いていただくことになると思われる。

〈授業内容・授業計画〉

前期

民法総則のうち法律行為の前半まで(民法一条から一八条まで)。

4月、序説(たとえば、自分の土地はどういうふうに使ってもいいとはどういう意味か、他人に迷惑をかけても自分の自由に使ってもいいか)。

5月、自然人(たとえば、未成年者と契約をするときにどんな問題があるか)。

6月、法人(たとえば、法人という制度を認めることによってどんな利点があり、どんな弊害が発生するか)、物

7月、法律行為(たとえば、契約は自由であるとはどういう意味か)。

後期

民法総則のうち法律行為の後半から時効まで、および物権法(民法一九条から三九八条の二まで)。

9月、法律行為(たとえば、契約を取り消すことができるのはどんな場合か、契約を取り消すとどういう結果になるか)、期間、時効(たとえば、時効という制度はなんのために認められているか)。

10月、物権総論(たとえば、物権は債権とどこが違うか)、物権変動(たとえば、マンションを買った場合には何をしなければならないか)。

11月、占有権、所有権、用益物権(たとえば、土地を借りるとどんな権利が発生するか)。

12月、担保物権(たとえば、土地を買うために

お金を借りやすいのはなぜか)。

1月、質問に答える(受講生からの質問には毎回の講義時間の際に答えるが、それとは別に質問時間を設ける)。

〈評価方法〉

出席して質問をした回数、およびその質問の内容を重視する。出席者に対して私の方から質問をするので、これに答えてくだされば、これもカウントに入れる。正しい答えでなくともよく、自分で考えた答えであればよい。自分で考えることに意味がある。答えられなかったとしても不利には扱わないので、安心して質問に答えてほしい。出席したらできるだけ、質問をし、私からの質問に答えることが結局受講生のためになる。また、私のためにもなる。したがって、質問および回答はこの講義を進める鍵である。試験に際しては一切の持ち込みを不可とする。

〈教材〉

教科書：我妻 栄・有泉 亨著(川井 健補訂)『民法I(総則・物権法)』(一粒社)、教科書は、上記のものを使うが、ほかに自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

六法：憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を中心として法律を集めて編集したものを六法と呼んでいる。受講する際にはぜひとも六法を持っていくこと。外国語を学ぶ際に辞書が欠かせないように、法律科目を履修する際には六法は不可欠である。六法は、『ポケット六法』(有斐閣)、『コンパクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)などの大きさ(厚さ・値段)のもので十分である。『コンサイス六法』(三省堂)、『判例基本六法』(岩波書店)、『判例六法』(有斐閣)を進んだ勉強をしたい受講生に勧める。『口語〜』という書名のついたものでもよい。六法は毎年出版されるので、新しいものの方が望ましい。

民法 I

鶴井俊吉

民法(I)は、民法総則、物権法を対象とする。民法総則は民法の通則であって、抽象的でわかりづらい。そして物権法も、日本の特殊性が強く出ている領域であって、これもまたむずかしい。できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定でいる。

[教科書] 我妻 栄・有泉 亨著『民法I』
総則・物権法(一粒社)

政治学原論

大塚 桂

現代政治学の体系的な理解を深めるべく、以下の諸問題について検討していく。

- I. 政治学の課題と対象ならびに方法論
- II. デモクラシーとリベラリズムの概念、史的展開
- III. 政治権力論
- IV. 政治制度・機構論
- V. 行政国家論・現代社会論
- VI. 政治変動論
- VII. 政治行動論
- VIII. 政治過程論・政策決定過程論
- IX. 政治集団論
- X. 国際政治理論

〔教科書〕開講時に指示するが、拙著の刊行を予定している。

- 〔参考書〕原田綱『政治学原論』（朝倉書店）
¥5,356
佐竹寛『政治学体系論』（法学書院）
¥3,090
中山政夫『現代政治学』（三和書房）
¥2,575
日下喜一『現代政治学概説』（勁草書房）
¥2,060
本田弘『政治理論の構造』（頸草書房）
¥4,000

社会学原論

渡辺源樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

荒木勝啓

原論は本来ミクロ・マクロ両面にわたって学習すべきであるが、この科目が商学科選択および他学部生の教職科目でもあることを考慮して、この授業はもっぱらマクロ経済学の基礎的部分（IS-LM分析まで）に限定して行うことにする。

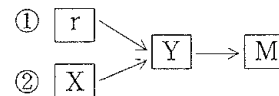
ところでなぜ経済事象を理解するために「経済理論」を学ばなければならないのであろうか。理論なき現実観察がいかに危ないものであるかは、毎年のように見られる次のような答案の叙述をみればよく理解できよう。

「公定歩合が下がる。すると景気が良くなるとともに国際収支の黒字幅が拡大し……」

この記述は、おそらく「日本経済が過去において輸出主導型であり、輸出拡大によって（その結果）黒字が増大しながら景気が拡大していった」という記憶に基づいて書かれたものであろう。たしかに経験に基づけば、日本経済の輸出拡大（黒字増大）と、景気拡大は同時進行的であったようにみえる。しかし経験の一般化ほどこわいものはない。ではアメリカはどうだったであろうか。景気が拡大するたびに国際収支の赤字が増大したではないか。

上述の答案のように(A)景気がよくなると国際収支の黒字化傾向となるのが正しいのか、それともアメリカがそうであったように(B)景気がよくなると国際収支の赤字化傾向となるのが正しいのか。

そこで問題の整理が、すなわち前提条件を明確にした上で結論を導くという方法論、つまり「理論」が必要となるのである。今輸出をX、輸入をMとし、国際収支を便宜上經常収支すなわち輸出－輸入だけに限定し、 $B = X - M$ と書こう。BはもしXがふえれば増大（黒字化）し、Mがふえれば減少（赤字化）する。X、Mともにふえればその相対的なふえ方に応じてBの増減が決まる。さて、公定歩合をrと表し、「景気」を国民所得Yで代表しよう。すると、「公定歩合が下がる」と景気が良くなる」という関係は $r \downarrow \rightarrow Y \uparrow$ と書ける。「輸出が増大すると景気が良くなる」という関係は $X \uparrow \rightarrow Y \uparrow$ と表すことができる。また輸入は景気が良くなると増加するのが一般的であるから $Y \uparrow \rightarrow M \uparrow$ という関係がある。すると図式的に



のようなcausalityが成立つてあろう。さて上述の答案の混乱は、本来この図式の①から出発する事象の流れを、日本経済の経験が示した②から出発する流れと混同してしまったところに原因があるのである。①から出発したとすれば、結果はMの増加だけであり、従って $B = X - M$ は赤字化以外の道はない。すなわち80年代後半のアメリカ経済のように超低金利政策のもとで輸出の拡大を伴わなければ經常収支Bは赤字化する以外にないのである。②から出発したとすれば、結果はやはりMの増大となるがしかし、日本経済の経験が示す

ように $\Delta X > \Delta M$ である限りBはふえる。すなわち経常収支は増大するのである。こうして、上述の答えは前提が違うが故に、誤りであり、また(A)が正しいのか(B)が正しいのかという問題は、「景気が良くなった」その原因、出発点が①であるのか②であるのかを明示化しなければ判定できないという結論が導けるのである。このように理論とは条件明示化の方法論なのである。

以上のように本講義は現実問題をたえず念頭に置きつつもマクロ理論を基礎から構築するということを主眼に置いている。年間の主要項目は次の通りである。

- (1) 総供給＝総需要
- (2) 均衡国民所得の決定
- (3) 政府・海外部門の存在する場合への拡張
- (4) 乗数
- (5) ビルト＝イン＝スタビライザー
- (6) 貨幣とは何か
- (7) 信用創造理論
- (8) 貨幣数量説
- (9) マネタリズム
- (10) 古典派経済学の3命題
- (11) ケインズ理論
- (12) IS-LM分析
- (13) 財政政策と金融政策
- (14) ポリシー・ミックス
- (15) フィリップス曲線をめぐって
- (16) 期待理論
- (17) 成長理論

なお、最低年1回実地研修を行う。予定では証券取引所である。この時出席点をとる。

試験は期末に前後期合わせた分の試験を行う。ノート・本・電卓持込可。2題出題し1題は計算問題、1題は論述問題が予定。

〔教科書〕浅野・荒木・浅田著『エコノミックス』(成蹊堂)

経済原論

大石雄爾

〈講義内容〉

20世紀末を抑えて、国内・国外を問わず現代社会は大きく揺れ動き、ますます複雑な様相を呈している。そのような時代であるからこそ、私たちはただ目まぐるしく移り変わる日々の出来事のみを目を奪われてはならない。現実をよく観察し、そこに貫いている傾向や法則をしっかりと捉えることが必要となってくる。

この講義は、このように複雑な現代資本主義社会の運動法則を理解する上で必要な基礎的・一般的知識を身につけることを目的としている。その

ために、以下のようにテーマを立て、講義を進めていく。

1. 経済理論を学ぶにあたって
2. 社会科学としての経済学
3. 経済学の対象と方法
4. 商品とは何か
5. 商品生産社会と貨幣
6. 貨幣の諸機能
7. 貨幣の資本への転化
8. 資本の生産過程
9. 絶対的剰余価値の生産
10. 相対的剰余価値の生産
11. 資本主義と賃金
12. 資本の蓄積
13. 資本の流過程－資本の循環と回転
14. 社会的総資本の再生産－単純再生産
15. 社会的総資本の再生産－拡大再生産
16. 剰余価値と利潤
17. 生産価格と平均利潤率
18. 商業資本と商業利潤
19. 利子生み資本と利子
20. 近代的土地所有と地代
21. 国家と財政
22. 国際経済関係
23. 資本主義と産業循環
24. 現代資本主義経済理解のために

〈講義(授業)方法と留意点〉

講義においては、上記のテーマについてはほぼ1回につき1テーマのペースでお話する予定である。できる限り理解を深めてもらうために、相当量の板書をするようになる。参加する諸君は、ただこれを書き写すだけでは不十分である点を自覚し、自分で読み返したとき意味が理解できるノートの取り方を工夫してほしい。

毎回の講義の冒頭では、その時々政治・経済にかかわるトピックスをとり上げて解説を加える予定である。また、諸君の問題関心を引き出すために、年間数回にわたって「30分レポート」を実施する。これは、年間の成績を評価する際に、考慮の対象となる。

経済原論は理論という性格上、全体的な関連の強い科目であり、年間を通して受講して初めて十分な理解が可能になるという特徴をもつ。その点からして、毎回必ず出席することを強く要求したい。欠席する場合には、その事由を書いた、客観的な証明書の役を果たす文書を提出する必要がある。

〈成績評価〉

試験は原則として年度末に行う。平素から講義に出席し、反復勉強していないと失敗することが多い。また、「30分レポート」も加味して評価する。

〔教科書〕平野喜一郎他『経済原論』（青木書店）
¥2,781

〔参考書〕金子ハルオ他『資本主義の原理と歴史』
（青木書店）¥1,854

経済原論

小野俊夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的
成果をも考慮し、現代経済学のミクロとマクロの
基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を
養うことを目指す。

〔教科書〕小野俊夫編著『現代経済学の基礎』
（学文社）

哲学概説

中村璋八

この講義は中国の哲学を中心とし、その起源よ
り、それ以後、現代に至るまでの史的展開を概説
する。哲学・思想は洋の東西にかかわりなく、そ
の地の自然環境、すなわち気候、風土やその時々
の政治、経済などと密接な関連を持ちながら発生
し、それを展開して行くものである。中国は広大
であり、その歴史も世界の中で最も長い。そこで、
この講義も中国各地の気候・風土やその各時代の
政治・経済を念頭におきながら殷墟卜辞・諸子百
家を始め秦・漢以降の経学・道教・佛教などの各
特色を考察し、それが朝鮮半島や日本に如何に受
容され、変質して行ったかも考えてみたい。

〔教科書〕中村璋八編『中国思想文学通史』
（明治書院）¥1,600

哲学概説

久保陽一

科学技術の進歩は今日めざましいが、反面様々
な弊害をもたらしつつある。産業廃棄物による環
境破壊などは我々、地球上の生物の生存そのもの
を脅かしており、それ故、科学技術の進歩を単純
に手離して楽観視することはできなくなっている。
それだけでなく、科学のみが「客観的真理」を保
障するという信念は、科学的抽象によって切捨て
られた現象を見失うことになりかねない、という
問題もある。科学はむしろ、「真理」の或る一面
だけを捉えられるにすぎず、科学以外のアプロ
ーチによる「真理」への道もあるのではないかと、例

えば芸術や宗教は、（科学によって見えなくさせ
られた）人間と世界との根源的関係を体験させら
れるのではないかと、少くとも科学にはそのような
補充が必要ではないか。このような問題を今年の
講義では取り上げ、それを次のような題目に即し
て扱いたい。

- 1) 近代の科学主義と認識論（デカルト、ガリレ
オ、ロック～ヒューム、カント）
- 2) ドイツ観念論における形而上学復活（ライ
ンホルト、フィヒテ、シュリング、ヘルダー
リン、ヘーゲル）
- 3) ラッセルのヘーゲル批判と現代英米系の言語
論的哲学
- 4) 芸術の哲学（アリストテレス、ニーチェ、ハ
イデガー等）

〔教科書〕田島節夫他『西洋哲学の展開』（公論社）

〔参考書〕渡辺二郎『現代哲学』（日本放送出版
協会）

渡辺二郎『芸術の哲学』（ " ）

倫理学概説

国嶋一則

善や正義などの倫理学上の基本的概念を歴史的
に検討しながら、—アリストテレス倫理学、キリ
スト教の倫理、カント道徳哲学、ヘーゲルの法哲
学、マルクス主義、実存主義、プラグマティズム、
功利主義等—現代における倫理の問題（生命環境
倫理学等）について考えることにしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から特に
宗教社会学的問題を中心に考察する。教職教科で
あることに配慮し、憲法問題の宗教学的考察など
をとりあげる。

〔教科書〕なし。

〔参考書〕その都度指示する。

宗教学概説

松田文雄

初めに宗教学の研究手法、その領域、宗教学で
用いる用語などを概説し、後期、今年度は日本仏
教の特色について述べる。

〔参考書〕 随時指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

(P. 25) 参照

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきいたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館 野 正 美

中国古代のさまざまな思想家たち（いわゆる“諸子百家”）の哲学思想を概観する。すなわち、まず儒家の孔子・孟子・荀子らの考え方を垣間見る。いわゆる“人性論”（人間存在の本質、本性論）と“天命説”（運命論）を機軸に、その思想の流れを把握する。

その際、これを墨家の思想と対比させることによって、そのおのおの的思想的特質を一層きわだたせたい。文字通り“似ていて非なる”儒家と墨家の両思想が、より明確になるであろう。

かくして、中国古代における人性論と天命説の大きな流れが、ひととおり概観されることとなるであろう。

〔教科書〕 館野正美著『中国古代思想管見』（汲古書院）¥1,200

〔参考書〕 授業中に適宜紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介する。

〔参考書〕 堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）¥2,000

歴史哲学

麻 生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕 麻生 建『解釈学』（世界書院）¥2,500

日本文化史Ⅱ

廣 瀬 良 弘

(P. 23) 参照

美術史概説

中 島 亮 一

(P. 24) 参照

日本宗教文化史

松 田 文 雄

近世における日本宗教文化について講義する。必要な資料はプリントして、受講生と共に講読する。

【職業】

商業概説

前 田 幸 一

〈講義目的〉

日本の主要な産業を勉強していきます。教職コースの科目ということもあり、受講者数が多くないのでゼミ形式で授業を進めていきます。

〈授業内容・授業計画〉

授業は

1. 戦後日本の産業発展と今後の展望
2. 産業の見方・考え方

3. 素材型産業
4. 組立加工型産業
5. 生活関連産業

という項目に沿って進めていきますが、特に上記の3, 4, 5の項目に力を入れて授業を進めます。
 <評価方法>

筆記試験はしません。平常点かレポート提出物のどちらかで評価します。

〔教科書〕日本興業銀行産業調査部編『日本産業読本』（東洋経済新報社）

〔参考書〕水口和寿『現代産業概論』（昭和堂）

宮沢健一・竹内宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田 勇 治

<講義目的> (要旨)

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容とするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。受講する場合には、問題意識をもって積極的に教育問題を考えるようにしてほしい。

<授業内容・授業計画>

前期は、職業指導の基礎的な概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心に講義していきたいと考えています。

後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点について考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明を加えたいと思っています。

<評価方法>

出席および授業中における課題などの提出状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価する。

〔教科書〕山田勇治『会計教育論』（創成社）
 〒1,300

〔参考書〕藤本喜八『進路指導論』（恒星社厚生閣）

商業実習

前 田 幸 一

<講義目的>

国内よりも対外国企業との商品取引の実務について授業を進めていきます。授業はゼミ形式で行っていくつもりです。

<授業内容>

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

1. 輸出実務の概要
2. 取引関係の創設
3. 取引条件の取決め
4. 売買条件の取決めと契約成立
5. 輸出信用状の照合
6. 約定品の調達
7. 輸出保険
8. 輸出承認と認証の取付け
9. 運送契約の締結
10. 為替の予約
11. 海上保契約
12. 輸出検査と包装
13. 輸出通関
14. 船積み
15. 船積書類
16. 輸出決済
17. 貿易クレーム

<評価方法>

筆記試験はしません。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

〔教科書〕開講時に指示

〔参考書〕石田貞夫『貿易取引の実務』実教出版
 渋谷源蔵『貿易実務』同文館
 藤田栄一『貿易取引の英語』勁草書房

【商業】

職業指導

山田 勇 治

(P.17) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学 I

山崎慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書の他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」「図書館資料の選択」、後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」。

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』改訂版(学芸図書) ¥1,442

図書館学 II

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法(分類法・目録法)について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕もり・きよし原編『日本十進分類法新訂8版』(日本図書館協会)
日本図書館協会目録委員会編
『日本目録規則1987年版』
(日本図書館協会)

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念、歴史、現状、外国との比較、社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』（学文社）
¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』（エイデル研究所）

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

（全日本社会教育連合会）¥773

ジェルピ著『生涯教育』（東京創元社）

¥1,500

(2) 選択必修科目

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化、地域社会と社会教育、社会教育調査とデータの活用、社会教育事業計画、学習情報の提供と学習相談、社会教育と広報・広聴、社会教育施設の経営、社会教育の評価等が主な内容となる。

〔教科書〕 酒匂・村山他共編著『生涯学習の方法と計画』国土社¥2,800

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P.8) 参照

社会教育実習

村山輝吉

実習前の指導 — これまでの実習の経験に学ぶ。

実習期間 — 個別の訪問指導。

実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる共通する課題の追求。〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

婦人問題と社会教育

矢口悦子

女性問題（婦人問題）の現状を明らかにし、その解決にむけて取り組まれている諸活動を紹介・分析する。年間の予定としては、

I. 女性問題を捉える基本的視点

II. 日本における婦人運動の歴史

III. 日本における婦人教育政策の歴史と現状

IV. 国際的動向と女性学の発展

V. 女性問題学習の実際

（社会教育のなかでの実践・グループ・サークル等での実践、その他の活動・実践など）

VI. 今後にむけての課題

という内容を考えている。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 授業中に紹介する。

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
 2. 社会教育施設にかかわる人々
 3. 公民館
 4. 図書館
 5. 博物館
 6. 社会体育施設
 7. その他の社会教育施設・関連施設
 8. 社会教育施設をめぐる動向と課題
- 〔参考書〕適宜指示する。

図書館学 I

山崎慶子

(P. 18) 参照

博物館学 I

倉田芳郎

(P. 22) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P. 22) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」は“生きもの”のように変貌し、成長しています。企業の生きた姿を知ることは、卒業後の未来をつかむ上で必須の条件といえそうです。

本講座は、企業人教育20年の経営コンサルタントが、実践事例を中心に、企業論と人間論を、学生諸君と対話しつつ展開します。

★教職や社教主事を希望する諸君へは「採用試験合格」への決め手を、企業人教育の手法を活用して指導します。

★会社就職を希望する人へは、会社選択のノウハウを、個人別指導をしつつ展開します。

〔教科書〕なし

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。
〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育 II

古田潤子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 22) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学

(教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学
(教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

坪井 健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理(行動)に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理(行動)に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』
(人間の科学社)

教育社会学

高島 秀樹

(P. 8) 参照

教育調査

鈴木 規夫

(P. 9) 参照

教育史

北村 三子

(P. 9) 参照

児童文化

湯山 厚

(P. 10) 参照

社会教育行政

牧野 篤

生涯学習振興法の成立により国の教育政策全体が生涯学習体系の構築へと動き出した。それはまた従来の学校教育・社会教育の区別を曖昧にしかつ各々の固有の役割を否定し、生涯にわたる国民管理の体系への移行ともいえる側面を有している。しかし他方、細川政権の誕生に見られるように、地方分権への動きが強まりつつあり、生涯学習に、従来のたて割り、中央集権行政の打破を期待する声もある。この講義では、生涯学習体系の中において、国民の学習する権利を生涯にわたって保障する社会教育行政のあり方をとくに地方自治、住民のまちづくり運動の観点から考察したい。

成人学習論

牧野 篤

生涯学習振興法の成立により、生涯学習体系の構築が政策として明確に位置づけられることとなった。しかし、そこでは人間とくに成人が生涯にわたって学び続けるとはどういうことなのかという根本的問題がとらえられているとはいえない。この講義では、生涯学習体系の理論的枠組を分析しながら、その問題点を指摘するとともに、成人が学ぶということの意味をとらえ返し、そこから成人学習のあるべき内容を考察したい。

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「博物館学Ⅱ」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しいかもしれない。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事の資格を取得しようとする方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法について、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケイター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P. 19) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔教科書〕中野照海・赤堀正宜他編著『メディアと教育』（小林出版）¥2,000

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

倉田芳郎・葉貫磨哉
恵津森智行・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。無断欠席のものは、受講できない。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履

修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

考古発掘実習

千葉基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。新学期第1回目の授業は、必ず出席のこと。又、発掘実習には30日以上参加すること。

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅱ

廣瀬良弘

日本文化の流れを概観し、とくに中世文化の成立と展開過程、北山・東山文化、戦国期の文化、安土桃山文化と寛永文化、元禄文化等、平安期末から江戸期にかけての文化について詳述する。

インド仏教文化史

奈良康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰ—インド、東南アジア—』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）、『仏教と人間』（東京書籍）

西洋文化史Ⅰ

佐々木 真

今日、私たちがイメージする西洋文化とは、主に19世紀から20世紀にかけて、知識人たちの影響下で形成された、近代文化のことであろう。しかし、最近のヨーロッパ史研究では、前近代社会や民衆世界においては、今日と異なった文化が存在したことが指摘されている。本講義では、西洋の民衆文化を題材として、中世末から近代にかけての文化変容の問題を考えてみたい。具体的には、民衆の生活様式（人口動態、家族・労働形態、女性や子供の地位）や知の世界（読書行為、識字）、民衆の心性（価値規範、死生観）などを手がかりとして民衆の文化世界を考察する。教科書は特に指定せず、参考文献については必要に応じて授業時に紹介する。

西洋文化史Ⅱ

三小田 敏雄

本年度は下記の教科書を使用して、＜西欧的結婚パターン＞や＜ライフ・サイクル奉公人＞というような西欧の特徴を通してヨーロッパの家族関係を変遷を辿りながら、文化の諸相におけるその具

体的表現を学んで行く。

〔教科書〕 ミッテラウア／ジューダー『ヨーロッパ
家族社会史』名古屋大学出版会
¥2,472

仏教美術

中島亮一

前期では仏教美術のルーツをインドに求め、その誕生の経緯と東漸のあとをたどり、その図像学的な解釈と信仰思想との関係、仏陀の伝記などを考察する。

後期は中国・朝鮮を経た仏教美術が、日本伝来後変容していく姿を、信仰思想の変遷とあわせて観察する。(スライド併用)

〔教科書〕 ①高田修『仏像の誕生』(岩波新書
388) ¥480

②佐和隆研『仏教美術入門』(教養文庫576) ¥720

〔参考書〕 その都度指示する。

現代美術

矢野陽子

19世紀以降の美術の流れを鳥瞰しながら、あらゆる表現が試みられている現代美術を時代を追って検討していく。毎回スライド等で具体的に美術作品を見ながら、様式の革新、伝統の継承、作者の意図などを考察する。

禅美術

海老根聡郎

日本の中世絵画には、伝統的な大和絵と、この時代に、中国から新たに流入した絵画を学んだ漢画がある。後者を作りだした環境は禅宗社会であり、画家も禅宗画僧である。講義は、この流れを黙庵、鉄舟、明兆、周文、雪舟などの画家を中心としてたどりながら、合わせて大和絵についても述べる。(毎回スライドを使用する)

美術史概説

中島亮一

前期では日本の原始時代から平安時代までの美

術を、後期は鎌倉時代以後(できれば江戸時代まで)の美術を、時代の中で紀伝風にテーマ仕立てに分類し(例えば「明日香村の石造物」、「浄土教の美術」など)スライドなどをおして考察し、それぞれの問題点も検討する。

〔教科書〕 久野健他『美術史<日本>』(東京堂出版) ¥2,000

〔参考書〕 その都度指示する。

西域美術史

相馬隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。(スライド使用)

考古学概説Ⅰ(日本)

倉田芳郎

日本考古学研究のための基礎知識について講義する。年度第1週目の授業には、必ず出席してほしい。

考古学概説Ⅱ(外国)

飯島武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年(山川出版社) ¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年(山川出版社) ¥11,000

考古学特講Ⅰ

高浜秀

ユーラシア大陸の北を横切って、西はハンガリア平原から東は中国の北の大興安嶺まで続く草原地帯には、古来、南方の農耕地帯とは異なった独

特の文化が栄えていた。初期鉄器時代になるとここには騎馬による遊牧が行われ始め、スキタイ系文化と呼ばれる互いにきわめて共通点の多い幾つかの文化が成立することになる。講義では、その前段階である青銅器時代から始めて、この地帯の文化を考えていきたい。

考古学特講Ⅲ

飯島武次

中国青銅器文化の研究。夏・殷・周の考古学的研究を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

(山川出版社) 1985年¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

(山川出版社) 1991年¥11,000

日本民俗学

谷口貢

民俗学は世代をこえて受け継がれてきた民間伝承を通して、日本社会の生活文化を明らかにしようとする学問である。国際的視野をもった人材の育成が叫ばれて久しいが、真の国際理解の前提には自国の伝統文化に対する民俗学的素養が近年益々大切になってきているといえよう。

講義では、日本の各地に伝承されている具体的な民俗の調査事例を紹介しながら、人の一生の重要な時期(誕生・成年・結婚・厄年など)に行われる人生儀礼(通過儀礼)を通して伝統文化についての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

宗教人類学

佐々木宏幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拜など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。ときにスライドまたはビデオを用いる。

〔教科書〕佐々木宏幹編著『宗教人類学』(新曜社) ¥2,200

地形学 I

小池一之

地理学の基礎、地形学史から講義をはじめ、川・海の作る地形を中心にする。地形事変が国の内外で起こったときは、出来るだけ、それらの解説も加える。講義は、プリント・スライド、ビデオを使ったわかりやすいものにした。 (内容は最先端の知見を含む)

〔教科書〕貝塚ほか編『写真と図でみる地形学』

(東大出版会) ¥4,532

地質学

貝塚爽平

前期には、関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象(たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁の形成)についても講ずる。後期には主として外国の地形・地質を一般論を交えて解説する。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,700

社会福祉原論

原田 信一

今日の社会福祉は、時代に即応し、個人のニーズに合致した福祉サービスの支援を要求している。そこには提供者と利用者(対象者)間における対人的・非貨幣的援助活動のもつ比重が著しく大きくなり、従来までのような物的・貨幣的救済を主とした、福祉問題の彌縫的・応急的対応では、最早、包摂できない状態にきている。

それらのことをふまえて、本講では時代要請に応えうる専門的原理の探究をおこないたい。

〔参考書〕1. 孝橋正一『全訂・社会事業の基本問題』(ミネルヴァ書房)
2. 岡村重夫『全訂・社会福祉学』
(柴田書店)

老人福祉論

前期：中野 いく子
後期：東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想され、老人福祉施策は近年流動的に変化している。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、

現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第3版(海声社) ¥1,640
〔参考書〕三浦文夫編『図説 高齢者白書1993』
(全社協) ¥2,800

障害者福祉論

原田 信一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に遡りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明する。さらに、その対応方法、政策、ならびに処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)
〔参考書〕(1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)
(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

柏女 靈 峰

児童福祉とは、理念的には人格主体として理解されながら、実際には自分たちの立場を主張したり、それを守ることができない児童に代わって、国、地方自治体、保護者及び社会全体が、その生活と発達、自己実現を保障する活動の総体であると考えられる。

本講では、最新の資料に基づきながら、児童福

祉の理念、児童を取り巻く環境、制度体系、サービスの現状と課題、児童福祉の方法について論述するとともに、出生率の低下、児童虐待、不登校等の今日的・個別の課題についても言及し、現代社会とのつながりの中で児童の福祉について考えてみたい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編集「児童福祉論」中央法規1992 ¥2,500

〔参考書〕別途作成する「児童福祉資料集」をコピーの上使用する予定。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

和田 敏明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主

体の多元化を伴い進展している。平成5年度からは、老人福祉法等8法改正の完全実施が行われ、市町村福祉時代が始まり、地域福祉の現実化が新しい段階を迎えた。講義では、地域福祉の理念と内容、推進方法、地域福祉の現状について基礎概論を講ずるとともに、それを実践動向に即して深めたい。

〔教科書〕改訂社会福祉士養成講座7

『地域福祉論』¥2,500（中央法規）

〔参考書〕永田幹夫著<改訂>『地域福祉論』（全国社会福祉協議会）¥2,060

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

橋爪 敏

この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供する事を目的とする。『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』をテキストとしてその内容を把握し、社会学独自の社会現象の見方や考え方を理解する。

したがって、テキストに即して、社会学の歴史、社会集団、現代社会の諸問題などを論じていく。参加学生数によっては講義以外の方法も併用したい。

〔教科書〕福祉士養成講座編集委員会編『改訂社会福祉士養成講座12/社会学』（中央法規出版）

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』、『わかりやすい社会学』（学文社）

法 学 (福祉)

小 林 弘 人

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることがいちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕随時指示する。

社会福祉運営論

坂 田 周 一

社会福祉の政策形成と行政運営および財政問題、さらに社会福祉施設をはじめとした現場での組織運営を包括的に捉える理論である社会福祉運営管理論（ソーシャル・アドミニストレーション）の基本概念を体系的に講述する。

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

家族福祉論

高 橋 重 宏

現代の家族生活の問題と課題を解説する。さら

に、「家族」、「家庭」、「家庭機能」等の概念を整理するとともに、ファミリー・サービスのあり方についても北米における事例を紹介しつつ検討したい。

とくに1994年は国連が定めた国際家族年であり、その原則、目的スローガン等についても講述する。

医療福祉論

前期：松 本 栄 二
後期：春 見 静 子

医療とは何か。医療の歴史、医療福祉の歴史、医療の分野で社会福祉援助活動を行うために必要な知識と技術を学ぶ。

1. 医療論

医療の概念、医療の場、与え手と受け手、医療法、現代医療問題点

2. 医療領域のソーシャルワーク

歴史、意義、機能、方法、機関

3. 医療ソーシャルワークの実際

事例を通して医療福祉の実際を学ぶ

〔教科書〕山川哲也『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）¥2,500

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人（女性）問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）等が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、主に女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。

〔教科書〕講義ノートによる。

〔参考書〕林 千代著『母子寮の戦後史』（ドメス出版）

保健福祉論

安 梅 勅 江

急速な人口の高齢化や国際化、地方の時代といった社会構造の大きな節目と相まって、福祉に対するニーズは大きく変貌してきており、わが国の

保健・医療・福祉の諸領域は、今や連携から統合化の時代へと推移しつつあると言える。

従って、本講義では、人間の生涯における身体的・精神的・社会的に健康で豊かな生活を維持する原理及び方法論の希求を目的とした保健福祉学の理念に基づき、健康を基軸に据えた真の生涯福祉のあり方について理論的な整理を行う。さらに、学際的学問領域としての保健福祉学の概念、歴史、方法論を踏まえ、保健福祉の実践に根ざした体系につき概説する。

〔教科書〕日本保健福祉学会編 平山宗宏・高山忠雄監修『保健福祉学』（川島書店）

社会福祉発達史

林 千代

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

中野 いく子

前半では、福祉国家を世界で最初に成立させたイギリスを中心に社会福祉・社会保障のアイデアとその政策・制度的変遷を講じることにする。

後半では、受講生の関心に基づいてグループを編成し、北欧やヨーロッパ大陸諸国、アジア諸国の社会福祉の政策・制度を研究・発表してもらうことにしたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕社会保障研究所編『イギリスの社会保障』『フランスの社会保障』『スウェーデンの社会保障』『西ドイツの社会保障』『アメリカの社会保障』（東大出版会）

